

平成26年3月5日

1. 出席議員

議長	杉原豊喜
1番	朝長勇
3番	上田雄一
5番	山口良広
7番	宮本栄八
9番	石橋敏伸
11番	上野淑子
14番	末藤正幸
16番	小柳義和
19番	山口昌宏
21番	牟田勝浩
23番	黒岩幸生
25番	平野邦夫

副議長	山崎鉄好
2番	山口等
4番	山口裕子
6番	松尾陽輔
8番	石丸定
10番	古川盛義
12番	吉川里己
15番	小池一哉
17番	吉原武藤
20番	川原千秋
22番	松尾初秋
24番	谷口攝久
26番	江原一雄

2. 欠席議員

なし

3. 本会議に出席した事務局職員

事務局	局長	松本重男
次	長	友廣秀敏
議事係	長	川久保和幸
議事係	員	江上新治

4. 地方自治法第121条により出席した者

市		長	樋	渡	啓	祐
副	市	長	前	田	敏	美
教	育	長	浦	郷		究
技		監	松	尾		定
教	育	監	代	田	昭	久
政	策	部	松	尾	満	好
つ	な	が	宮	下	正	博
営	業	部	溝	上	正	勝
営	業	部	北	川	政	次
く	ら	し	山	田	義	利
こ	ど	も	蒲	原	恵	子
ま	ち	づ	森		孝	畑
山	内	支	山	下	知	行
北	方	支	坂	口		勉
会	計	管	成	松		薫
教	育	部	古	賀	雅	章
教	育	部	白	濱	貞	則
上	下	水	筒	井	孝	一
総	務	課	中	野	博	之
財	政	課	水	町	直	久
企	画	課	平	川		剛

議 事 日 程 第 3 号

3月5日（水）9時開議

日程第1 市政事務に対する一般質問

平成26年3月武雄市議会定例会一般質問通告書

順番	議 員 名	質 問 要 旨
5	23 黒 岩 幸 生	1. 世界一優秀な新日鉄溶融炉の運転について 2. パッセル(特許)を利用した世界初総合窓口システムづくりについて 3. 議会活動から見た問題について（道路）
6	3 上 田 雄 一	～武雄市の今後の方向性について～ 1. 教育について 2. まちづくりについて
7	6 松 尾 陽 輔	1. 26年度政府予算案を受けて 1) 武雄市の骨格予算への反映と政策課題は何か 2. 超高齢化社会への対応 1) 当市の対応は 3. 提案事業について 1) 「クラウドファンディング」の構築を 2) 代読、代筆支援の充実を 3) 土地の利活用について 4. 「ふるさとづくり」推進について 1) 具体的な支援策と各支援事業をHPに
8	24 谷 口 攝 久	1. 教育行政について 1) 学校教育と反転授業について 2) 歴史資料館・図書館について 3) 文化行政と市民参加について 2. 観光・産業の振興について 3. 市民福祉と生活環境の整備について 1) 特にこどもと高齢者に関して 4. 中心市街地の再活性化について 5. 住んでみたいから住み続けたいまちづくりについて 6. 市長の政治姿勢について

開 議 9 時

○議長（杉原豊喜君）

皆さんおはようございます。前日に引き続き、本日の会議を開きます。

日程第1 一般質問

日程に基づきまして、市政事務に対する一般質問を続けます。日程から見まして本日は24番谷口議員の質問まで終わりたいと思います。

それでは、23番黒岩議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

（全般モニター使用）おはようございます。黒岩幸生でございます。

実は、私、今回若い人に道を譲るということで（笑い声）来期は出馬しないという意向を固めたところでございます。振り返ってみますと、今から39年前、昭和50年に初当選いたしましたわけでございますけれども、以来10回の選挙戦を戦ってまいりました。29歳で議員になったときに、北方町議会を見てみますと、当時川原議員のお父さん、それから亡くなられた伊藤元康さんのお父さんが、議長をされておりました。そして私を、今日をつくっていただいた、山口猛義議員さんておられましたけども、この三方が北方町の重鎮でございました。いずれも、50代の半ばでございました。前半でございました。そのとき29歳から見た北方町議会でございますけれども、やはり議員の定年っていうのは、まあ65ぐらいかな、いう感じはしておりましたのでここ一、二年それをつぶさに思いますので、今回、引退するという決意をしたところでございます。

昨日、市長さんは65歳は若いという話をなされておりましたけれども、それは市長がよく言う上から目線ですね。（笑い声）29歳から見たときには、やはり65なんですね。それは今も39年前も変わらないと思っております。そういうことで、引退をいたしたいと思えます。そういうことでございますので、今回はこれまでのいろんな思い、まあ特に武雄市は多いんですけれども、そういう思いをですね、振り返りながら提言といいますか、質問という形にしていきたいと思えますので、重複する点、市長さん、かなりあると思えますけども、よろしく願いいたします。

私の最初の質問は先日といいますか——もう3年になるんですね、3年。間もなく3年です。東日本大震災によりまして、紙文書が流出したということから、市長はいち早く公文書の電子化ということを打ち出されましたけども、現在、その進捗状況はどのようになっているのか、まず最初の質問とするところでございます。よろしく願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

おはようございます。

行政文書の、PDF化の進捗状況ということでございます。現在のところ武雄市役所内の公文書の全体の総量、これを1,700万枚程度ということで推計をいたしております。

今回は、このうち平成24年度に作成された公文書、この1年間で約100万枚程度の文書だろうというふうに推計をしておりますが、この文書を対象に、庁内でスキニングの作業をしているところであります。3カ月かかりまして、スキャンができたのが約5万枚。つまり、1年間かかってこのペースでいきますと、20万枚。5分の1のスキャンの量になるということで、なかなか進捗状況については遅れているという状況でございます。こういう状況から、現在、機械が6台しかございませんので、そういうスピードになっておりますので、機器を増強しましてさらにスピードアップを図っていききたいとこのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

やはり電子化するためには、政府を電子化というようにですね、まず基礎でございますので、いつときも早いんですね——もう福島も3年目になるということもございますので、これいつときも早くですね、災害いつ来るかわかりませんし、これから大事なことですので頑張っていたきたいと思います。

ただいまから、2014年の武雄市議会3月定例会の一般質問を、始めたいと思います。これ昔は、御船山と言えば武雄市だったんですけど、今、自分のとって感じしますね。

議員としては最後、住民の代表としての一般質問を、行いたいと思います。私は今回3件について質問を出しております。第1点目が、世界一優秀な新日鉄溶融炉の運転について。2つ目はパッセル。これは山崎さんが持つ特許でございますけれども、これを利用した世界初、これも初ですね、総合窓口システムづくりについて。そして3番目は、議会活動から見た諸問題。これは道路問題でございますけれども、3点について質問を通告をいたしておりました。しかし昨日の一般質問で、平野議員さんと樋渡市長さんの話の中で、事務の合理化は賛成だっちゅう言葉と、それからまた市長は、民営化することで活性化につながる、言葉がございましたので、この順序を入れかえてですね、入れかえて1番目にパッセルを利用した世界初の総合窓口づくり、それから2番目に世界一優秀な新日鉄溶融炉について質問をしてまいりたいと思います。

まず最初に、24年も言いましたけれども、行政と民間企業のあり方、これをまず整理しておきたいと思うんですね。きのうも、あっておりましたけれども、私たちIT行政推進特別委員会で、沖縄県のIT津梁パークへ行って、勉強させていただきました。それは沖縄県と企業が、民間団体と一緒にですね、つくっておられたんですね。これが、沖縄県のIT津梁パークでございます。この中ではですね、敷地が20ヘクタールちゃんと用意してある

んですね。これは会議室ですけども、特にＩＴを推進しようと、後で問題言いますけど、質問しますけども、ＩＴを中心としてですね、こういう会議室いっぱい設けてある。これは理由は後で言いますけども、これは委員会のメンバーですが、ここですけども、つまり沖縄県と民間事業者が一緒になってですね、そして、ＩＴ企業を育てようという発想なんですね。育てるより誘致するちゅう考え方ですね、それに民間施設のイメージをつくっておられました。こういうとこで呼び込むちゅう考え方ですけども、これが上手に回ってこそ、初めて誘致企業ができるちゅう発想なんですね。

私はここに 24 年の 3 月定例議会で、ここで質問したことですけども、仕事と発明、発想を一緒にして、これだけでは足らん。さらにここに外部的支援。これがなければ、起業——起こす業ですね。起業が育たないという話を、ここでしました。これが上手に回って、初めて起業が生まれる。武雄市から生まれるという話をしましたけども、つまり行政に、さらにですね、さらに行政に自然科学のね、つまり機械的とか、いろんなことを入れていく発想をこう 3 年ずっとしております。質問しております。

仕事実務。これは市役所の仕事ですね、市役所ですね。それから発想は、創意。これは市議会で今やってきております、いろんな提言をしてきております。そして大事なものは、起業で大事なものは、組織的支援がなければできないちゅうことなんですね。

今回、この発明・開発については 3 年前から言ってるのが、パッセルなんですね。パッセル。これはデイソフトの山崎社長が日本とアメリカで特許を取られたものなんですね。これを使って——これ 3 年質問してますけど——これを使って、行政部門をなんとかしていこうって話をしておりました。それに外部的支援ですけども、今ユニシスさんがこのことについて、注目をしてるって話を聞いたところですね、ユニシスさんが。そこでお伺いですけども、外部からの支援を感じた。私もそう思っておりますけども、このことに対して、どのように思われるか質問いたします。よろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今、温かい目線を感じてるんですけどね。あれなんですよ、ＣＣＣとカルチュア・コンビニエンス・クラブと図書館ってということで、もう完全に、官民連携ではなくてね、もう一緒になってこうやっていると。もうチーム武雄となって、こうやってるっていう姿がもう出てきていて、こういう姿であれば、例えばユニシスさんの話が出ました。ここでは言えませんが、今さまざまな企業の皆さんであるとか、財団の皆さんたちが武雄市とパートナーとして仕事をしたい、だけどきのうの宮本栄八さんの質問でね、やっぱり業者とか言いんさあわけですよ。仕事ばさせんばとか。そいぎですね、やっぱりどんびきしんさあわけですね。そいけんが、こと——宮本議員、ちょっといいですか。私、答弁してますよ——ですので、そう

いうだから、まあ3歩進んでまた3歩下がるかなという感じですけど、ただ武雄市が、物すごく注目されてるのは事実ですので、特にこのIT特別委員会が、やっぱり注目されてるんですね。ですので、その観点からすると、武雄市がこう合併したときからくると、もう隔世の感があるなっていうのは、認識しております。

○議長（杉原豊喜君）

23 番黒岩議員

○23 番（黒岩幸生君）〔登壇〕

つまり大事なことは、民間企業と自治体のあり方なんですね。基本的な考え方はもちろん、これはあくまでですね、官は民の補完的役割でなければならない。これ原則ですね。さらには、官業は民業を圧迫しない。これも原則なんですよ。

しかし、民を育てるのも官の仕事で、これを忘れたらいかんですよ。これ沖縄行って、つくづく思ったんですけども。沖縄IT津梁パークではですね——沖縄で誘致企業ったら何かくると思うですか。製造業来ませんよね。そこで考えられてるのが、IT産業の醸成なんですね。辞書引いたらわかりますけども、醸成というのは、気運、雰囲気などを自然につくり出すことなんですね。会議室。こう言われました。ぜひITの会議をうちでしてください。沖縄は気候がいいですよ。呼び込みなんですね。醸成っちゅ言葉を使っておられました。そこでIT企業の育成、教育、つまり大事なところ、ここですけれども、起業、起こす業の支援なんですね。企てる業の支援ではなくて、起こす業の支援が必要になってくるんですね。

武雄市のレモングラスへの支援、これずっと見ておりましたけども、やはりこれも醸成をされたって思うんですね。市が一生懸命頑張って、引っ張って行ってそして手渡す。これが大事ですけども、まあ当初1兆円産業までいかなかったですね。（笑い声）しかしですね、山内のLemongrass Tea Houseといって、きれいにつくってあった。コーヒー飲んできましたけどですね。しかしあの時点で、どんなに発展していくかわからん。レモングラスで、それこそ1兆円産業なったかもわからんですね。しかし確実に、芽を吹いたのも事実なんですね。

北方町で、夕市問題ってあるんですね。小池議員覚えとるですかね。夕市をつくりたいということで、ある議員さんの奥さんが陳情に来られたんですね。屋根をつけるけんが、錢ばくれんですかって話。つまり、朝市じゃなくて夕市ですけども、これ農協、北方支所ですね農協の、そこの前につくっておられました。そしたら、議員の中でけんけんがくがくがありまして、一企業に金出すっておかしきろうもって話ですね。まあいろいろありました。そのとき私が言ったのは、笑いながら言ったんですね。たかが二、三十万出してもよかりょうもって。そのことによって、市民の皆さんが便利になるし——町民ですね——なるし、そしてまたそれが大きくなって税金を払うことになれば、これにこしたことなかりょうもって話をして、結果的に全会一致でですね、補助金出すことになった。それは雇用の確保と税收アッ

プなんですね。という考え方が大事だと思うんですね。大事なことは、どこまで支援するか
っていうことでございますけれども、起業、起こす業ですよ、育成の手助け、醸成。民間企
業との距離感は、必要ですね。市長はこのことに対して、どのようにお考えか答弁を求めま
す。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

レモングラスを例えて言いますとね——私は、もう7年前の一般質問におきましてね、当
時の明治政府の例を出して、官営八幡製鉄所、官営八幡製鉄所ですね、あれちょっと統計の
取り方によって数字が違うんですけども、当時の国家予算の10分の1から4分の1ぐらい出
してんですよ。国が100%支出してね。それで一本立ちしてから、今の新日鉄さんに、五代
友厚さんっていう薩摩の政商の方にね、もうほとんどただ同然で売却して、その時点で大き
く芽がば一んってまた出たんですよ。だから種をまいて——まあレモングラスに例えてい
うと、種をまいてこう苗になって、少し芽が出た時点で、これは伸びていくぞといった時点
で、やはりこれは民間にお渡しするのが、私は筋だと思っていて、なぜ武雄市の、今レモン
グラスが——まあいろんなところから注目をされていますけれど、それはいいタイミングで、
民間の方々にやっぱりこうお渡しをしたと、そこから、次は民間のね、競争環境の中に置か
れてやっぱ伸ばしていくと。これね、もし、私たちが議会の——まあ、あの当時もね、もう
宮本議員さんとか、吉原議員さんとか（発言する者あり）さんごんな批判がありましたよ、
さんごんな批判が。

ですがその中で、もし我々がその批判に負けてやってなかったら、今のレモングラスって
ないわけですよ。そこをぜひね、御理解をしていただきたいと思いますので。やはり、
一定程度成長した時点でね、これはもう民間にお渡しするのが筋だというように認識をして
おります。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

よく勘違いが——まあ市長はいいんですけども——あるのはですね。官は何でもできるち
ゅ考え方からですね、抱え過ぎ。当初はいいもんで抱えとって、みんな武士の商法でですね、
つぶしていく。これ多いんですね。だから、ある程度育てるまでは、どうしても民間の力が
ないときには、官がしてやる。しかし、その後はですね、民でば一んと伸ばすという発想こ
そ必要だと思いますので、よろしくお願いします。

実は、あのBITS in九州、1月23日にホテル福岡でございましたホテルオークラ
に行って参り、ここのセッションに参加したんですね。このテーマといたしまして、異業種

だから成功する共創ビジネス、あるいはまた、“つなぐ力”でビジネスを変えるというセッションがございました。

ここには、日本ユニシス株式会社の社長さんが見えて、あいさつされたんですね。中央に大きなモニターがありましたので、おそらくモニターで、出られるのかなと思ったら、本人が来てあいさつされたんですね。びっくりしました。それは資本金 54 億円を超える、あるいは従業員 4,000 名を超える、そんな大きなところなんです。そして三井業際研究所の会員でもあられます。2 年前でしたかね、ここに三井業際が来られましたけども、三井業際研究所というのは、目的は、三井グループにおいて、異業種間との業際分野における、知識集団としての機能を果たすことってということなんです。これで来られました。

そこで今回はですね、ユニシスのパートナービジョンちゅうことを打ち出されておりました。それは情報技術、IT ですね。IT の最適な状態を提供しよう、IT を活用した事業を支援していこう、あるいはまた IT を活用し、社会基盤の提供をしていこうっていう話をなされておりました。そしてまた同時にですね、総務省がオープンデータの推進のためのデータカタログのあり方に関する調査ちゅうことを出す。入札出されて、ここに先ほどいいました、デイソフトの山崎耕史社長、あるいはユニシスさんの方も一緒です。合同にしてですね、こういうこと出されたんですね。小規模な自治体のためには、由来データ駆動のオープンデータを活用した推進が、適当だろうってことを出されて、これがですね、実は推奨されたんですね。このことに対して、武雄市もされてございますけども、このことに対してどのように思われるか、答弁を求めたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この山崎耕史さんっていう名前は、総務省から一番聞くんですよ。ですので、やっぱり、まあ私も武雄出身であるし武雄で生活してる者としてはね、やっぱそれはすごい誇らしいことだと思います。ですので——これやっぱね、武雄のおもしろいところは、武雄で活躍されてる人っていうのは、武雄で悪口の出るとですよ。だけど——私のことじゃないですよ。ですが、よそでね、よそでやっぱりこう山崎耕史さんだけじゃなくて、まあお名前はあえて上げませんが、いろんな人の御活躍っていうのは、やっぱり聞くわけですよ。だから、そのこう非対称性っていうかね、そこはおもしろいところだと思います。まあ、いずれにしても誇らしいことだと思います。

○議長（杉原豊喜君）

23 番黒岩議員

○23 番（黒岩幸生君）〔登壇〕

いや悪口じゃなくてですね、ほんと、先日横浜行ったんですね。そしたら横浜まちづくり

委員会が樋渡市長を呼びたいって（笑い声）という話をされた。というのは、私の親戚、樋渡っていますからね。（発言する者あり）武雄の樋渡は親戚ねって言われた。（笑い声）もう誇らしいことですよ。すみません私、議長、あの歯が1本なくしてですね、発音が悪いんです。すみません——ということなんですね。そしてまた先ほどの、ユニシスのセッションにもですね、ぜひ樋渡市長を呼びたいちゅう人も、かなりおられるそうでした、これつけ加えておきますけれども。これまで、役所の仕事で当然ですけども、紙のやりとりですね。それから契約書、領収書、請求書などをすべて、紐付けしとかんばいかんっていうのは実態ですね。つまり契約書、領収書、請求書、申込書、貸出記録、すべて、紐付けしておかなければならない。これは、探すのが大変だということですね。探すのが大変。実は、ここに24年11月17日って書いてあります。これも探すのに苦労をしました。

実は、12月議会で質問したんですけども、行政文書ウェブ公開へ、請求不要誰でも閲覧可能になりますよ、武雄市発想として来年度から25年度からですね、日本フェイスブック学会で樋渡会長の樋渡市長さんが、発表されたということですけども、さらには公開される文書は開示できるものだけ。個人情報など禁止されている文書は省きますよ。これ当たり前ですね。開示する文書はクラウドに保管。ここを探したんですけども、つまり東日本大震災では行政文書が破損した、流出した。そういうことから離れた場所、沖縄——沖縄見に行ったんですけど——そういうところに、2カ所にですね、置いておくちゅうのが今の発想ですね。ここですけども、開示する文書はクラウドに保管、こいうはいつやったるかっていうことですね、開示するこのクラウドは、いつやったのかということで調べたんですね。それは、一生懸命この議事録を探すぐらいしかなかったんですね。

武雄市議会定例会議事録ですけども、きのうもありよったんですけども、これうちの座敷ですけども、こういっぱい持ってきてですね、広げにやいかんということで、実はこれはこういう状態のまま広げていって、なおかつ、あ、ここあった、ここあった、ということで印をつけてですね、ここのとこでしたねって線をひけば、24年の11月17日だったかって、議事録でわかるんですよ。これも、そのときの答弁書出てきたんですね。

しかし、議事録が今電子化されてる。そしたら、どのようにして探すかといえば、まず武雄市のホームページを開く。ホームページの中で、武雄市議会ってあるからここを、この武雄市議会をクリックする。そうすれば武雄市議会っていうことが出てきます。さらに、このところに定例会、臨時会の日程議事録ってちゅうこと出てきますね。

ではいつまで収録してあるかちゅうことですが、ここですが26年の2月議会、この場合ですね。まで、ここが始めですけども、18年4月から、これまではPDF化されてるんですね。それでここのところですが、武雄市議会議事録検索ということで、ここ書くとこあるんですけど、ここに先ほど言いましたクラウド、私の質問ですのでここに黒岩と入れますね。そして、この検索をクリックするんですね。それはグーグルのカスタマイズ。ヤフーでもある

んでしょ。そういうところからのですね、クリックしただけで、直ちにこのようにぼんぼんぼんって一発で出るんですね。きのう出なかったんですよ。マフィアが出なかった、これで。だから、ちゃんとした正式な分のところ、登壇したところだけしか議事録書きませんのでね。やじなんか出ませんので。そうして開いていきますと、まあ23番黒岩と探し出して、ずっと見ていけばここに印ついとるんですね、クラウドということで。これ自治体クラウドと書けば、一発で出たんですけども、こういうふうに出たんですね。わずか1分ですよ。公開する文書はクラウドに保管ってことで、ここで探したんですけども、議事録はPDF化で、検索のスピードが大きく変わった。これ電子化そのものですね。このことについてどのように思われるか、これ通告しておりましたのでぜひともですね、その操作について、操作をしながら説明をしていただきたいと思いますけれども、よろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

〔23番「すみません。キーワードを言いますけれども、哺乳類。おもちゃ箱いっぱい出てくるけんが、哺乳類でお願いします」〕

○宮下つながる部長〔登壇〕

モニターをお願いします。（モニター使用）（発言する者あり）

先ほど、質問の中で出ましたように、これが武雄市のホームページのいわゆるトップ、一番最初になるページであります。この中で、ジャンルがずーっと一番上にございますが、市政情報、これをクリックをしていただくと、市政情報の中にですね、各種計画であるとか、市議会とか、予算とか選挙であるとか、こういうものが入ってますよという形で出てきます。この中でさらに、この市議会というものをクリックしていただきますと、このページ、市議会のデータのページになるということになります。先ほど、議員さんから説明がありましたように、このページについては合併後の議事録が、データベースとして公開されているということになります。この議事録の下に、議事録検索という表題がついております。この下にクリックしていただきまして、カーソルをここに持ってくると――「哺乳類」ですか――ということで、入れていただきまして、その右のほうに検索というボタンがありますので、これを押すと。しますと、ここに、哺乳類に関する質問のリストが出てきます。これで、アンダーバーが引いてある部分でクリックしていただきまして、その当時の質問の議事録がそのまま出てくるということになります。

右の端に、3つ小っちゃく、これですね。3本入っておりますので、これを開きます。ここにですね、詳細の編集機能というのがあるらしいんですけど。これになるんですかね、検索、これですね。これを押していただきまして、窓が出てきますので先ほどの、哺乳類ということを入れまして、するとこのページの哺乳類という単語がここにありますよ、ということにすぐ飛んでいくという、こういう機能がっております。ということで、まあ検索が

非常に速いということができるよう、現在議事録についてはなっております。ということで、検索機能が先ほど紹介がありましたように、大手のソフト会社の、ソフトということを使いまして、市民の利便性向上につながっているというふうに、認識をいたしているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

23 番黒岩議員

○23 番（黒岩幸生君）〔登壇〕

今、説明いただいたんですけど、私今言ったのはスピードなんですね。スピードと確実性。これがやっぱり機械化によって、大きく変わるというのを説明していただきたかったんですけども、ありがとうございました。

それともう一つ、先ほどですね黒岩って入れんやったですね、哺乳類・黒岩と入れれば牟田議長さんも一緒やったけんがですね、1つ出てくつとですね。数によって絞っていくっちゃうことですね。

これ実際の武雄市議会の議事録ですけれども、これ私の質問ですが、浪江町の荻野小学校の子どもたちは、この図のような放射線量の中を歩いた。それからこの図が示すように、先ほどの図、この図あの図その図で出てくるんですよ。今の状態の中ですね、これではわからん。しかし一般質問をしとったということですね、実はここにですね、タグを打っていくちゅう考え方、これTは、タグなんですね。荻野小学校の子どもたちは、この図にタグを打って次のこの図に打って、打つとけば、どういう状態が出るかといいますと、荻野小学校、御存知ですね。荻野小学校の子どもたちは、この図のようなのを歩いていったんですね。つまりここが、飯舘村が武雄市と一緒に距離だと言いました。浪江町、小学校はここら辺ですもんね、ちょうどね。そして、この図のような、つまりこう縦長に流れているところ行ったという意味ですね、放射線量の中歩いたと、高濃度の放射線量、次はこの図なんです。この図にタグ打つとけば、この図とこれが出てくるんですね。ここが荻野小学校、子どもたちこう歩いて行ったんですよ。150 ミリシーベルトの中、歩いて行ったんですね。この図が示すように行った。だから先ほどの図。先ほどの図っていうのは、どっちかわからんですけども、タグを打つとけばですね、これが出てくるんですね。ここから逃げるのにですよ市長さん、地図見てくださいね、この中を歩いて行ったんですよ、津島支所に。2階の弁当にあって、子どもたちはここで弁当も食べたんですよ。あの、おにぎりも食べたんですよ。しかし、これがわかるとけば市長どっちに逃げるですか。同じ浪江町で海の方に逃げますね、あるいはまた南相馬市に逃げますね。簡単にわかる話をここでしたんですけども、この図あの図でわからないんですね。

もう一つ似たような話が、チェルノブイリ避難比較表。今よくあるのが、これ、この文書ちょっと入れかえますけども、チェルノブイリ避難所というのを、これ利用しましたけども、

こうチェックしてリンクできるって書いてある。よくあるんですね。リンクすれば、ぱっと出てくるんですね。これとは少し違うんで、同じタグ打ちでもですね。ということを理解していただきたいと思いますけれども。だから、パネル保存ができる議事録づくり、ぜひとも、これに取り組んでいただきたいと思いますけれども、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もう、電子化の最大の意義は、保存と活用がすごくしやすいってということなんですよね。ですので、例えば、そういった写真であるとかその資料っていうのを、まあタグづけて言うかリンクっていうかは、ちょっと別にしてもね、それはもう行うべきだと思いますね。ただそうなったときに、私は本当にね、紙のこんな分厚いね議事録をね、何十部もつくんなきゃいけないんですよ。いや、つくんなきゃいけないっていうかね、もうそれはもうやめですよ。

だからそう、その費用をかけるぐらいだったら、もうこっちに特化すると。ただし、保存用でどうしてもね必要な場合があるんで、それは例えば図書館なり議会なりに、もう2部ぐらいでいいんじゃないですかね。あとはもうすべからく、あれですよ、もうネットで公開するっていうので、かつ、皆さんが利用しやすいということが、私はできるというふうに思っています。

私、ちょっと間に合わなかったんですけど、iPadで本読んでても、ほとんどの本って、もうリンクが張ってあって、先ほど黒岩幸生議員がおっしゃったように、その線に行くと地図とかに、もう飛んでいけるんですよ。だからもう、そうやってきてますので、それがもう世の中の、もう趨勢だと思います。

○議長（杉原豊喜君）

23 番黒岩議員

○23 番（黒岩幸生君）〔登壇〕

市長さん、私、紙の、市長ね、紙の議事録、私もう断っております。議会で。私のはいらんちゅうことですね、つくっております私の分は。いりませんからね。

うちの座敷も昔はですよ、わたし勉強部屋で腹いっぱい広がった。今パソコン一つあれば何もなしに済むですね。そう変わっていきますけれども。

先日ですね——これから本題に入りますけれども、佐賀県がテレワーク推進ちゅうことで書いておりました新年度からタブレット1,000台導入。出先でも、庁内システム利用できますよ。場所選ばず仕事が、これはキーワードですよ、覚えとってくださいね。また言いますが、場所を選ばず仕事ができる。つまり行政サービスの向上を目指す。ここ枠つけておりませんけれども、行政サービス。行政サービスを目指すということなんです。場所を選ば

ず仕事ができるということでございますけれども、でも、これイメージです。武雄市ではございません、イメージ図ですね。中身を見てみますと、じゃあ庁内市民サービスはどうなってるのか。庁内御案内、ちゃんとこう書いてあってですね。きれいに書いてあります。それと大きくですね、この階にありますよと書いてあるんですよ。非常にいいことですが、実際ですね、転入・転出届け、出してみてもわかりますけれども、市民の皆さんが、例えば年金問題でありますと健康課に行かんばいかん。生活保護は福祉課、子ども医療は支援課、さらには保育園は未来課、それから課税は税務課というふうに、ずっ—と行かんばいかん。これ前使いました。さらに、給食の申し込みといえば学校教育課に行かんばいかん。つまり市民が、市民がたらい回しされよつとですよ、たらい回しされる。そして各課で証明書を取りますけれども、この証明書を持って隣の課に行ったりするのは、おいは無駄だと思うんですね。たらい回しされるという見方なんですね。そこでまず1つですけども、行政は市民のためというならば、庁舎内での諸証明のやりとりは不要だと思いますけども、このことに対してどのようにお考えか、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

不要だと思います。

○議長（杉原豊喜君）

23 番黒岩議員

○23 番（黒岩幸生君）〔登壇〕

簡素化ぐらいかなと思って——ありがとうございました。簡素化できないかっていうことでしたけども、思いましたけども、不要になるように、ぜひともですね、していただきたいと思います。よかった。

さらには、各課がありまして、市民は先ほど言ったようにですね、実際健康課行ったり、税務課に行ったり、未来課に行ったり、支援課に行ったりですね、このように実際ちゃんと見れば、回されよつとですよ市民が。市民の皆さんが、各課を回されよつとですよ。これが実態ですよ。つまり市民の皆さんが、例えば支援課に行きます。忙しいですね。一生懸命行きますけれども、いんにゃ未来課も行けて、用事があればやっぱ行かないかん。税務課にも用事があれば行かないかん、健康課にも行かんばいかん。あるいは福祉課にも行かなければならない。

そういうことではなくですね、市長、そういうことではなく、ここのところを、すべて電子化してしまう。電子政府なんです。そうすればですね、市民の皆さんが窓口に来たときに、黙って座るだけでいい顔ですね。いい顔です。この方がですよ、ここをみんなですね、電子化することによって、すべては先ほど言いました、場所を選ばず仕事ができるから、窓口で

仕事ができるんですよね。東京から沖縄からでくっぎ、我がうちができませんはずなかですね。そうすれば、支援課、未来課、税務課、健康課、福祉課がすべてここで処理できますので、おじいちゃんは黙って座っとくだけで、これがワンストップ行政だと。これが総合窓口じゃないかというのが、3年間言い続けてきたことでございますけれども。繰り返しますけども、市民の皆さんが、真ん中に来ます。あえて庁舎を木に——木をつくったんですけども、こういう状態で、こういうことができないかと。ああいうおじいちゃんが座ってですね、こういうことができないかと。庁舎が回れと。各課が回ってほしか、という発想をぜひともしてほしい。そのためどうするか。木の根っこのほうからですね、入ったらどうかっちゃうということなんですね。つまり葉っぱから入るけんが回らんばばってんが、木の根元から——前、市長さんからって言ったですね、俺ね。ここから行けばちゃんと総合窓口になり、各課できるんじゃないかって発想ですけども、これがワンストップ行政だと。

さらに、総合窓口、ワンストップ行政、こういろいろ言いますけれども、すべては住民の要望が窓口に来ていくスタイルが、先ほど言いましたが、係、係、係、係いろいろ行きますね。その後に課長さんところに行く、さらには部長さんところに行く。つまりこういう状態、こういう状態で行ってるんですね、現実。こういう状態。

こうではなくて、こがん行ったらどがんやろかって。部長、課長、係長、係員ですね。これ発想ですよ。ということは、部長さんところ行くと課長さん、課長さんこうなるですね。これを、ここのとこですけども、電子化すればすべてが、部長さんに行く。そうすれば、これが総合窓口であるし、今、言ってたこの3つのことが解決しますよという発想。発想がなければできませんのでね。まさに、たらい回しされてる市民と思ってください。行政は市民のために、どのように思われるか答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まあ、あれですもんね、ちょっとこれ、うちの市役所じゃないんですけども、あれなんですよ、お父さんがこう、亡くなられたときにね、その息子さんが、ある市役所に来たときに、もう全くこれね、同じようなたらい回しがあって、なんか国保のところに行ったときにね、なんかさっき、あそこでなんか市民課で、証明書持ってきてくれって言われて、おかしいじゃないかということで、しかもその間すごいやっぱ、すごい忙しいじゃないですか、御準備とかね、それでもう40分も1時間もとられてしまったと。もう二度とこの市役所には行かんぞと、もう税金も払いたくないぞっていうのが、これ、たまたま私の知り合いだったんで、話来たんですね。

これ、武雄市役所の場合は、たらい回しをせざるを得ないんですよ、今のシステムだと。でも、ちゃんとかう、ついて行くっていうふうにはしてるんです。それでもやっぱ限界があ

るんですよ。ですので、これだけ、もう、先ほど黒岩議員さんがおっしゃったように、もう電子化が進められてきますので、もう可能な限り一本化はできます。一本化できて、かつ、やっぱりですね、もう今認証もやっぱ結構できるんですよ。もうばって来た瞬間に、あっ、この人、このこういう姿だったら、あっ、これは、子育ての方ねと、いったりとか、これはどっちかっつたら、引っ越しをされてきたんだなというので、もう認証のところまでもう行きつつあるんですよ。だから、その電子化っていうのは、もういわゆる本当の意味の3D化なんですよ。もう、全体を認識できるって。だからこれ、個人情報をつんとかじゃないんですよ。ですので、そこによって大分、市民の待ち時間も減るということになると思います。もっていく先は、僕はアップルストアだと思ってるんです。あの快適な空間でレジすらない。もう、本当に来た顧客に対して従業員の人が、そこに張りついて、そこで、そこにいらっしゃるところで、もう全部終わってしまうと。支払いまでそこで、立ったまま終わってしまうというところですので、図書館のような居心地のいい空間で、待っていることが苦痛でないってということ。そしておそらくですね、例えば黒岩議員さんが、いろんな手続きで来られたとするじゃないですか、新しい武雄市役所に。そしたら、ある職員がばって飛んで行きますよ、きょうの御用向きなんですかって言ったときに、いやかくかくしかじかですって言ったら、あっ、これだったら15分待つてほしいというので、その間に全部済ませるということが、これからの行政の僕は主流になっていくと思いますので、ぜひそれにチャレンジしていきたいと、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

ありがとうございます。

先ほど言いましたように、議事録検索だけでもわずか1分でできるように変わったんですよ。これ電子化じゃなければできない話ですので、お願いいたします。

実は、先ほど言いましたように——色がまたよかでしょ——私29歳、これ私のことです。若さ、フレッシュ、行動力ということで出ました。ちょうどそのときはですね、松本町長さんもですね、市長さんみたいな、ちょうどその年代ですよ。若かったですよ。今も若いですけどね(笑い声)、こういうことですね、出たんですよ。色も変えてみました——そしてですね、やはり欲しいのは、ここなんですね、議会に新風。やはり若い人たちの頭。私もですね29でなったときには、先ほど言った3人の重鎮がもうえすかごとしておんさった。しかしその中の山口議員さんがね「おーいおまえ、おいも29ぞって、わいも29ならがんばるぎね、ちゃんとなっていくけん俺が教えるけん、こい」て言われて、それで今があるんですよ。だからそいういう引き継ぎができるのを皆さん、若いですよっていうことを訴えたいんですけども。

私がですね、初心を忘れず議員として目指してきたことは、市民のための政治ですね。住民のための政治なんです。古川知事さんがこの前、ワンストップ行政って話をなされました。これ県民の皆さんのための県庁であるし、たらい回しをされない行政だと言われたと思うんですよ。そして総合窓口の必要性を言われたと、それワンストップ行政だと思いますけれども。私もですね、町民の皆さんのため、最も必要なものは何かと言うてきたことは、やはり総合窓口なんです。これは、私が町民の皆さんが役場に来られたら、受付だけで済むように、すべてができるたらい回さない行政。つまり、総合窓口の必要性を提言したんです、20 年前。そしたら、当時の松本町長さんは、「そがん気の利いたとの職員にはおらん」って言われて、これ見事にですね、見事に握りよったんですよ。しかし、方法はなく机上の空論になった。

そういう中でですね、3 年前ですけれども、それを解決したのがパッセルなんです。私の頭の中を解決したのはパッセルです。それを解決したのがパッセル。つまり、二次元の世界の中で、3 D 検索するのがパッセルなんだと。二次元の世界の中で、3 D 検索するのがパッセルですね。そしたらパッセルって何やと。パッセルとはディソフトウェアの、代表取締役の山崎耕史社長がつくられたもの。つまり、日本、アメリカで取得済みの特許なんです、これは。ほかにも、今ですね、いろんなことで特許ある。システムとかね、特許出願されておりますけれども。これはアメリカですよ。これ日本。本を読んでみますと、社内の案内ですけれども、フローチャートベースでマクロ計算を行い、これわからんとですけれども。それらのフローチャートを、相互接続できるシステムですよって、会社の案内です。さらには、これ総合システム。ここだけ、少しわかったですけれどもね、さらには、パーソナルユースソフトの——そのまま書いていただけですけれども——垣根を取り払った新しいビジネス基盤の創出を可能とする、山崎耕史社長が開発したソフトですよって、書いてあるんですね。わからん。市長はわかんさあかわからんばってね。これ意味わからんとですよ。

まず、謝罪しとかんばいかんところは、特許ですからね。まず、謝罪しておきますけれども、私はこれまで利用する、許すと言っているのは、ここで利用してるというのは、行政にこの一部を利用するっちゃうことですからね。パッセルが持つ無限大の可能性の中ですね、ごくごくわずかな一部の部分を使って、言ってるっちゃうことで、私が言っているのはすべてパッセルではないということだけはですね、やっぱこのユーストリームで流れてますのでね、謝罪しておきますけれども。

これは山崎先生が 2012 年、IT 委員会に書かれたものですが、行政のためのオートタグシステムということで、講演をしていただきました。これ山崎先生がつくったやつですね。やっぱりおいと違うて上手ですね。紙をすべて高速回線に投げ込む、絶対必要なことは PDF 化だと。PDF 化してすべてを投げ込みますよと。そうすればオートタグがすべてをインデックスしますよ。つまり市役所の仕事はそのまますることによって、オートタグを打

っていくと、そうすることがインデックスを育てていくんですよ。

これ、インデックスというのは御承知だと思いますけども、目的、情報を探すための索引・指標になっていくのがインデックスですね。つまりみんなでオートタグを——仕事をするのが、ここクモの巣、ウェブですね。みんなでオートタグを育てることが、つまり、その人その人のセットを、仕様書などをつくっていきますよって意味なんですね。だから、インデックスの木をみんなでそれを、おのおのつくったのが、係、係つくっておれば、それを自由に使うことができますよ。つまり、ここにわざわざクモ描いてあるのは、ずっとウェブ張って、クモの巣をずーっとつくっていくんですね、クモの巣であればどこでもいけるっていう、ウェブを張っていくちゅう意味のクモの巣なんですね。そうすれば、いっちゃいっちゃ探さじよか、すぐ出る。さっきの議事録、聞かない。聞かないでもちゃんとマニュアルがインデックスに載っている。あるいは、要するに、訪ねていく必要もない。速い、ノーミス。一番役所で大事なノーミスですよ。水道部とは言わんばってんですね。しょっちゅう、やっぱり書きかえのある、差しかえのある、差しかえはするざいかんですよ、今からね。間違えうたら、ここで謝る。謝って訂正する。そのほうが本人のためにもなります。そういうミスを、起こさないような機械だからね。数字を重ねるだけで間違いを発見できますので。電子化すれば、こういうことはなくなりますということを、習ったんですね。

パッセルが、ではどのように使われているかといいますと、医療、製造業、研究機関、サービス業、医療系、いろんなどこで使われてるんですね。クリティカルパスシステム、これもわからんけん辞書引いたぎ、治療や看護の手順を標準化し、診療の効率化や軽質化、コスト削減を図る手法ですよっていうことで使われております。あるいはまた、部門別管理系会計システムですね。これは、ユニシスさんと共同って、ユニシスさんのほうから出されてるんですね。2010年、佐賀大学医学部と一緒にって発表されているんですね。使用されております。それからここ大事なことですけども、数千万の初期投資がかからず、月額数万円と安いですよ。つまりなんちゅうか、総——ランコンピュータですかね、パーソナル。大きなコンピュータでなくても、大事な一部を抜き取ってですね、そこをシステム化することができるし、それに付帯していくちゅうのがパッセルの特徴ですね。あるいは、電子カルテシステム。これも、だから今言いましたように、膨大なシステムがあるですね。だから、大型スーパーコンピュータであればできるでしょうけれども、そうでなくても、ここら辺の町医者、お医者さんの小さな人でも簡単に使うことができます。その部分だけをですね、シンプルなシステムとして、構築することができる。それで、必要であればそれに付帯していくちゅうことができるんですね。製造業向けのシステムとして、固定化しない、やわらかいシステムということでございますけれども、パッセルというのは、必要な部分だけをシステム化。大きい中でですね必要な部分だけをシステム化したり、必要に応じて、付帯システムが追加できるちゅうことなんですね。シンプルなシステムとして、さらに必要な部分だけをシス

テム化する。それに必要に応じて、システムを追加するというシステムがパッセルなんですね。必要な部分をシンプルに、さらにそれに付帯して、これこそまさに、行政改革には不可欠だと思いますけども、どのようにお考えか答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ基本的な方向性は僕も同じなんですけれども、あとは、その実際に使っていく職員がね、これ使ってこれ便利だと。あるいは、やっぱり前よりも楽だと、というのを日常的に体感的にしない限り、僕はこれ広がらないと思いますので、一旦ちゃんと使ってみるっていうこと、大事だと思うんですね。

ただうちの職員も、そりゃ、いろんな例えばオフィス系であったりとか、i O Sとかであったりとか、すごいやっぱ目が肥えているんですよ。ですので、それを上回る使いやすさがない限り、僕は広まらないと思います。いずれにしても、ちょっと僕が一回使ってみます。僕が使ってダメだったら、もう広がらないということだと思いますので、ぜひ、そういう形かなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

23 番黒岩議員

○23 番（黒岩幸生君）〔登壇〕

まあ、機械打ち壊し運動じゃないですけどね。何かをするときは、必ずそういう動きがあるんですよ。おもしろい話、まあ私たち年代知ってると思いますけども、計算機が出たときにですね、駅の切符を買うときに、どういう現象があったか市長さん知らんでしょ。切符買いや行くぎですね、計算機でいくらと出して、横にそろばん置いとんさったですよ。計算機をそろばんでしょんさった。今ごろ、そがん見るとおらんですね。やっぱそういうもんなんですね。だから今、市長さんおっしゃるように、誰でも使えるシステムでなければ、もちろん誰も使いませんので、それは心配ないと思うんですね。はい。

子ども手当。これも何回も言いましたけれども、どういうことをしているかといいますと、仕事ですけども、全市民の中が選別。こういう順序でされているんですね。少し違うかわかりませんが、該当する子どもがいる家庭を選んだ。所得制限をかけられるですね。さらには、措置費を乗じて各世帯支給額。これが大体の仕事でしょ。

それで、こういう状態でですね、実は、選別加算をしていってるんですよ、機械的には。そこでこれ最初に、3年ぐらい前に山崎先生に話したんで——じゃ、穴あきソフトつくるぎよかたいねって言ったのが子ども手当ですけども。仕事の手順書をつくる。そしたら、世帯主、家族構成、所得。これが把握できれば、自動的に機械で総額が出てきますよっていうこと。これが選別、加算をさせることですね。これが行政ナビだという言葉を使っております。

す。まだ世に出ておりません。カーナビとは違うっちゅうですね。これよく出てますね。ではカーナビと行政ナビはどこが違うか。カーナビというのは目的地を決めて、現在地へ来るだけですね。つまりこれは静脈と一緒になんです。目的地から現在地へ来るというシステムですね。じゃあ行政ナビでなんやと。つまり動脈と一緒に、心臓から指先へ行くと。一緒やろうもんと思んさあかわからんばってん、少し違うのはですね、ずっと血液は選別しながら出ていくんだと。目標に向かっていくんだということの意味なんですね。選別して未来に向かっていくんだと。つまり、指先から心臓でなくて、心臓から指先へ向かっていく。これが行政ナビだということですね。

そう考えていきますと、このカーナビはいらんですね。こういう行政ナビをつくって、選別、進化させることによって、この穴空きシートが埋まっていきますよ、マイソフトができます。付帯することもできますし、さらには、仕事の一部を支援するソフト。仕事の一部を代わってもらっちゅう考え方なければいかんですね。

全体的に変わりますけども、先ほどの計算機と一緒になんです。一つずつ変えていくという発想ですね。それがデイスソフトであるということですね。

これも、24年の3月議会でここでお話しましたけれども、家族構成、所得把握ができればということですけども、ここを3D表示するっちゅう話しましたね。

三次元というのは——まず一次元というのは線ですね。前と後ろから敵が攻めてくる。それを守ればいい。二次元は面なんですね。今度は横も守らんばいかん。三次元は立体ですね。上から下まで守らなければ。これが3Dになります。三次元ですね。そうすれば三次元検索というのは立体、つまり縦横高さ、あらゆる方向から敵が攻めてくるから守らなければならぬ。ということは、あらゆる方向から、検索はできるっちゅうことなんですね。

紙の世界で3D検索。紙の世界というのは、物ですから三次元みたいに見えますけど、実際、二次元の世界ですね。二次元の世界で3D検索をするということでございますけれども、これも立体的計算をする。3×3×2、サザンガ9、クニ18となるのを立体的に計算するっちゅうことですけども。

これ、25年6月、書いたんですが、縦横——そうですね、XYZ軸で計算すればどうなるかといいますと、サザンガ9が前に出てきますね。立体的に計算ですね。ここの後ろの、前から2番目のところの、上から3番目に、ここに、コマとして、18と出る。18はここにあるんですね。XYZ軸ですから。そうすればこれが、18になりますよ。大きく書きましたがサザンガ9、クニ、ここに18がきますよ、ちゅうことをここで説明したんですね。これですね。これを3D表示すれば、平面の中に表示すればですね、ここに9でなくて18がくるんですね。つまり、ここの計算表は二次元の世界ですけども、サザンガ9、クニの、ここのところに18が出る。つまり整理されたものが出てくるんですね。選別されたものがここに出てくるっちゅうことになるんです。そうすれば、家族構成の場合、家族構成がわかれば、ここで

機械を入れてやれば、年齢の選択ができるんですね。

じゃあ、所得を把握できれば所得制限ができる、それに、措置費を付加して総額を出していく。これが行政ナビですね。これをしてしまえば、地域別、あるいは、これも簡単に五十音順に分けれますね。地域別、五十音別というのは、はがき出すとき——議長さんそれするんですね。すぐ簡単に変わるでしょ、あれと一緒にですね。それからプリンターをすれば通知書が各家庭に届くっちゃうことになるんですね。今までこれ、手仕事してきたんですから、少しずつ変えていけばできないはずはないんですね。一遍につくってしまおうと思ったら間違うけど、これできないはずはない。一部、代わってやるっちゃうことなんですよ。

それと、オープンデータとパッセル——ちょっと時間もあんまりないので——オープンデータとパッセルの関係っちゃうことで、山崎先生からIT委員会で説明していただいたものですが、山崎先生はこうおっしゃった。鍋物をですね、作りたいときどがんすっかいと。まず肉ば、肉屋さん行くよ、野菜は野菜屋さんに行く、そして魚は魚屋さんに行くんですね。しかしスーパーマーケットに行けば、かごを持って行くんですね。かごを持って、鍋物と考えたときには、これが買い物かごに肉を入れるんですね。野菜を入れますよね。魚を入れますよねと。これをですねオートタグで肉、野菜そして魚というように、買い物セットとして、システムに記憶させるんですよ。そうすれば今度は、鍋物セットっちゃうことで、これを持って行けばですね、持って行っただけでオートタグで、システムが記憶されておりますので、持って行っただけで、次は、肉、野菜というふうにですね、オートタグによってこれが探すことができるっちゃうことなんですね。こういう発想ですよ。

さらに、いや、このシステムを使って、私は豆腐を欲しかった、ということであればこのシステムに豆腐を付帯させることができるんですね。あるいは、またこれがレシピ——この前言われておりましたけども、料理の本とした場合は、これにはですね、いろんな手法が違いますので、どがん歴史のあつとか、誰がつくったとかと、あの人の作ったとは食べもせんばいとか、いろいろあるんですね、そういうものの、そういう由来データもこれにつけ加えることができるっちゃうことになるんですね。これがシンプルなシステムに付帯していくっちゃう発想ですけども。繰り返しますが、買い物セットということで、こういうふうに直ちに動きますね。これを、スーパーでなく、ここに基本情報を入れていくんですね。いろんな情報を入れますけども、そうすれば記憶されたシステム、これを特許出願中のデイシステムをここに入れる。買い物セットということは、頭脳ですのでここをパッセルを使う、この2つを組み合わせる発想ですね。つまり、パッセルがエンジンならば、デイシステムというのは車のボディっちゃうんですか、そういう状態なんですね。だからこのパッセルに、もちろんボディのかわりに、例えば車輪のかわりにキャタピラをつけてですね、砲台つければ、それは戦車になります。このデイシステムに翼をつけてやれば、それは飛行機になるんだよね。そういうふうに、この基本情報によって変わっていくんだということですね。これが行

政ナビなんですね。

これをつくることによって、このシステムを利用すればすべての仕事に対応できることになるんですよね。そこで、転入届けや転出届け——何かデモをつくりたいと思いますけども、課を特化してね、ぜひともデモを、作製をしてほしい。これに、一番力を貸してほしい。

というのは総合窓口——私、武雄市からこれを使いたいんですね。よその自治体も注目しております。しかしこれは武雄市でなかったら、私、意味がなかとですよ。今のシステムを誰かが使うことができるわけですから、それは武雄市から使うと。そして、武雄市から総合窓口つくろうというのは、私の恩返しでもございますので。

行政はですね——住民は行政の主人公ですね。そのため、市長がよく言われるように市民がよくなるためにはですね、タブーを恐れない、という姿勢が大事だと思いますけども総合窓口は——市長ね、ぜひとも、市からということでデモをつくると。例えば、死亡届で——死亡届は縁起の悪かですかね。死亡届か何か作ってですね、できるちゅう実証をですね、ぜひとも、発明、仕事はできますけども、実務ができませんので、力を貸していただきたいと思いますけどもいかがでしょうか。答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私、タブーないですからね。全然僕はタブーもないし、やっぱり市民にとって、一番いいものを目指してきたっていうのは、この8年でありますので、今ね、370 ちょっとの、今、マニュアルを作成してるんですよ。それだけこういう小さな自治体っていうか、市役所でもね、やっぱりそういうことがバラバラで行われてきたんで、そのマニュアルを今、見直しをしています。

その中でやっぱ、これ成功体験が、やっぱいるですもんね。そやけん、そのデモっていうのは、その中のいくつかを抽出をして、デモっていうかね、パイロットで。これはぜひしていきたいと思ってます。そのときに、ぜひね、これ、IT特別委員会にもまた入ってもらって、ある程度オープンの中でやっていくことが必要だと思ってますし、市民の御協力も、これまた必要だと思ってますので、これはぜひ——ちょっと私も、もう賞味期限がもうそろそろ切れますので、ここでお約束するちゅうのは、ちょっとおかしいのかもしれませんが、その必要性は強く認識しております。

○議長（杉原豊喜君）

23 番黒岩議員

○23 番（黒岩幸生君）〔登壇〕

ぜひですね、総合窓口は武雄からということでお願いしたいと思います。

次にですね、世界一優秀な新日鉄ガス化溶融炉の運転について少しばかり問題点を質問し

ておきたいと思います。

考え方の変化が、今世界各地で起こっておりますけど、昔はごみを焼却捨てる、焼いて捨てるですね。こういう話でございました。

先日、広域圏議会でもありましたけども、ごみを焼却する、処理するちゅう考え方から、今日では発電のための資源。ごみじゃないんですよ。資源なんですよ。だから、よその国に買いに行くんですよ。ごみを買いに行くばかはいませんか。ごみでなくて資源だと。

何の資源かと言いますと、発電ということはボイラーを沸かして、それによってタービンを回して、電気エネルギーとしてごみから回収するちゅう発想ですね。電気エネルギーとして回収をします。これが考え方の変換。いずれ日本もなります。もったいないですからね。

これは新日鉄のガス化溶融炉でございます。可燃ごみ、不燃ごみ、いろんなごみをここから投入をいたします。そうしますと、乾燥・予熱帯。これが 300 度から 400 度でございます。さらには熱分解ガス化帯ということでこれが、1,000 度ですかね。1,000 度ですね。それから燃焼帯。これが 1,000 度から 1,700 度、ここですね。普通ここまでなんですよ。燃やすとか、焼くとか、ここでいろんなダイオキシンなり、いろんな問題が出るんですね。1,700 度も高いほうですよ、大体 1,300 度ぐらい。これに、溶融帯がついてるんですね。約 1,700 とか 1,800 度になる、というもののなんですね。ここがですね。

これによって、大きく変わってくるのが、まずごみの排出・収集の分別が、簡素化されます。さらには焼却灰の溶融化で一番安い、直接溶かすんですからね。灰溶融なんかは 1 回燃やして、その灰を溶かすということで高いですけども、直融——直接溶融すれば一番安いということなんですね。それから環境に優しい、ダイオキシンを出さんということです。ほとんど出しません。さらには資源エネルギーの高度利用。これ 1,800 度でスラブをつくりますので、全く違う。以前ここで、私が持ってきたスラブと全く違うのができるんですね。

これは建設常任委員会で姫路市のほうに行って参りました、エコパークあぼしですね。ここで聞いた——受けた資料でございますけれども、ここは 200 トン以上でございますので、法規制が 0.1 ナノグラムですね。10 億分の 1 グラムですね。そして施設の保証値、これが半分、0.05 ナノグラムですよ。さらに、測定値が出されとったんですね。

これダイオキシンというのは、繰り返しますけども、自然界に存在しないんですね。あのベトちゃん、ドクちゃんで見られますように遺伝子に傷をつける。そしてこれは人類がつくり出した最悪の猛毒だと言われております。だから、規制が厳しいんですね。10 億分の 1 グラム、1 メートル真四角に 10 億分の 1 グラムってわからんですよ。それが、これも天文学数字、ここです、猛毒ですね。0.000034 ナノグラムまで落とすことができてたんですね。これは姫路の話です。

こういうことに対して、やはり住民の皆さんたちは、敏感ですよ、敏感。だからこれ 22 年 8 月 24 日ですけど、これ以前もここで紹介しました。松浦地区最終処分場に関する陳情書

ちゅうのが 22 年の 8 月 24 日に出されました。それは厚生省は平成 8 年に焼却残渣の無害化と、溶融化及び溶融固形化をしなければなりませんよと決めたんですね。まあ 18 年に例外をつくったんですけども、とにかく溶融——完全安心のためにつくった。それはスラグ化が最適だと言ったんですね。

そういうのを受けて、地権者の方ですけども、私たち地権者、地権者の方がですね、ガラス質の溶融スラグにしてほしいっていう陳情書を出されたんですよ。このときの事務局の対応ですけども、「各担当課長様」って書いて、22 年の 8 月 25 日——直ちにですよ、どれだけ検討されたか当時市長は知らないと言われましたけども、おそらくね、相談しないまま、真っすぐ事務局出したと思うんですけども、当時の事務局は、こういうのはね、受け付けて言われたんですね。受け付けん。しかし陳情者から言われて、話し合いもせずにですね、これ中開ければ人権侵害のことまで書いてあるんですよ。あえて先に消しましたけどね。そういう中で、もうこれでは言うこと聞かんと直ちに出了された。しかし、土地が取得できなければ——地権者ですよ。土地が取得できなければ建設はできなかったんですね。土地が取得できなければ建設だってできないって、だれも感じないやっつろうかと思うんですよ。そのときに 10 月に事務局長で行かれた、故伊藤事務局長がですね、陳情者に会って謝罪されたんですよ。なんとかつくらせてくれって。あれがなかったら、今のごみ処理場はできてなかった。

というのは私もついて——伊藤さんから言われて行ったんですがね。ついて行きました。話をしました。そういうことやなかけんが、俺が今度来るけんが、ぜひ、私を信用して、工事をされてくれんかということで、今進んでいるわけですよ。事務局長に会って陳情された。そして今はですね、事務局も頑張っってこられてきているんですね。

これは、吉川議員が質問されたんですけど、給食センターの話ですね。いずれ、なんですか、今よりも競争入札になります。当然しなければいけませんので。そのときにですね給食センターと同じく、競争入札をしたら、安くたたいたとは、スタッフを——給料を下げたと。これじゃ意味がなかわけですよ。680 円ですよ時給。そがん予算ばうちでは組まんはずですよ。しかし、あなたたちが組んだ予算をですね、入札で下げて取るためには、ここを下げてくつとですよ。市長これじゃ意味なかですもんね。だから入札のときはですね——いや、もちろん、どうですか。今の杵藤クリーンセンターの皆さんたちはね、また移らんばけん、むしろ賃金ば上げてやろうって、そういう気持ちの温かさ、ほしかですよ。

しかし、入札かけたらですね、議会の通りやすかったら、下げるぎ、下げさえすればよかけんね、ってならないようにですね、私も賞味期限切れますので、ぜひともここら辺とこはですね、極めていただきたいと思います。

それから——このとき、井戸水を飲むときには、井戸を掘った人の苦労を思い出せって。ですね。ですね。今おっしゃるようにね。やっぱり、あの、いま谷口議員さんが、ほんなご

とて言んさいたですね。やっぱり選挙前の、今の苦しみを思ってですね。(笑い声) 選挙に上がった皆さん、市民のために頑張ってください。

手厚い地元対策が必要なんですね。次は——もう答弁求めません。お願いしますね。市長さん上がったらね、先ほどの、お願いしますね。上がった——いや、当選されたら、すみません。当選されたら、お願いします。道路改良の考え方、トップの考えが変われば改良が進むということで提言をしていきたいと思いますけども。

その前にですね。これは国道 34 号線。掛橋入り口ですね。東島呉服店さん、福田菓子屋さん、さらには杵島ホンダ商会さんがあって、この部分ですけども、この部分は市長のね、力でやっと、ここが改良できるようになったんですよ。ここのところが市長の力でですね、本当、何十年できんやったとですよ。掛橋もね、どがんでん喜んどらす。ここは広がった。大変喜んでいます。しかしですね、いっこうにして進まん。その後。ね、部長さんね。どげんなとととやという話がございますので、その進捗状況についてお伺いをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

モニターをお願いします。(モニター使用)(発言する者あり)

先ほど、議員さんがおっしゃられましたとおりに、今この、北方町、木之元東交差点というところの、入り口の部分のところですけども。この部分につきましては、狭小で自動車がたん信号待ちすると、国道から入れないというふうな実態がありまして、また歩行者も、まあ家の軒下を歩いて、通学をしている——歩行者も軒下を歩いているというふうな状況で、非常に危険な交差点であったためにですね、局部的な拡幅を行うというふうなことで、平成 25 年度に、今、測量の調査を実施しておりまして、まあ、補償の交渉もしておりまして、局部的に——地権者からは用地あるいは補償の内諾をいただいております。それで、契約が進めば、平成 26 年度で工事に入る予定としております。

○議長（杉原豊喜君）

23 番黒岩議員

○23 番（黒岩幸生君）〔登壇〕

だから、私が言っているのはですね。せっかく、こう、機が熟しているっちゅうんですかね。市長さんが行って、わざわざ行ってもらってですね。それで何にもできなかったのができた。これは直ちにしなければですね。まあ、気が変わることはありませんけれども。スピード——まあ、どこでも忙しいんでしょうけど。スピードアップすることがですね、より、住民の皆さん方が安心するのもございますし、怪我も少のうございますので。まあ、最後ですけどもね。擁護しときますけど、ぜひともですね。あんまり、なごうかかりようろうもんというのがですね。私の率直な意見でございます。

これは、これ前——今度、さぼって、前のを使いますけども、国道 34 号線のバイパスがですね、大きく進展をして、今、できよるですね。これもですね。実は樋渡市長の力でですね、大きく変わったんですよ。

これは古賀先生。あんまり偉かけん、こっちから後光が差しようですね。(笑い声) これ逆光って言うぎいかんですよ。これしかなかったとぼってんですね。後光の差しよつとですよ。

これもですね、じっくり、じっくり考えてほしいのが、市長さんね。北方町は一生懸命はあっち、こっち行った。平成 2 年の大水害から 20 年間できなかったんですよ。どうしてもできないということで、どうしようかちゅう中で、市長さんがですね。11 月 12 日だったと思いますけども、古賀誠先生に会わせていただいてですね。私が陳情することができた。私はついについて行ったと思った、あの時。しかし市長は私のために連れて行ってくれて、古賀さん呼んでくれたんですよ。そして話をして「わかった」と言っていたいたんですよ。その後ですね、呼ばれて、北方は平成 2 年から反対しようやっか、これ怒られているときですよ。いや、それ違います、と。あの大水害は、六角川の外水が流れてきて、ずっと話を。じゃあ、国土交通省が悪い。「わかった」って直ちに電話をかけてですね、行ってこいって言われたのが、このときなんですよ。

あのときの喜びはですね、市長ね。市長も嬉しかったかわからんけども、住民としては、特に私はこのバイパスしてきてましたので、本当に涙の出るごと嬉しかったですもんね。だからトップが動けば変わるちゅうことをね、ぜひとも今後も覚えていてほしいと思いますね。

これも、市長さんがよく言う、朝日第 2 保育所行くときから「こがんしとった」って言んさあぼってんが、ここの非常に、誰でも困ってた。しかし、誰が手をつけても、何代も市長さんが代わってもできんやった。しかし、これもトップが行って、市長が行って、何回でも行って、現実的には、先に見えるごとなったんですよ。非常に、黒尾の方もですね、苦勞の甲斐があったんでしょね。喜んでおられます。それからここもですね、中野の道路ですけども、この湧上工務店さんの前ですけど、これもわずかなところですけど、離合もできないと言われる状況の中で、なかなかこれもできそうでできなかったところなんですよ。これは森部長ね。あなた率先して動いてもろうてできたんですよ。まあ掛橋のほうはできとらんぼってんが。ここですね、このところですね、できました。

それからもう一つ。これもですね、中野の公民館に行くところですね。これも何十年もできなかったんですよ。この向こう側に私の 50 年来の付き合いの中原君て、中原幸信君という人がおりますが、非常に困とった。しかし、中原さんと私と市長と一体となってですね。三位一体で取り組んだんですよ。何十年もできなかったのが、今は、広がったんですよ。できた。できない道路ができた。これが実態ですよ。

だから、トップの考え方が変われば、改良が進むということをぜひとも——まあ、再選されましようけど、これを覚えとってほしい。部下任せじゃなくてですね。ぜひともお願いしたいと思います。

これは、一般質問を向こうから見た状態ですけれども、ここは、浦郷部長さんやったごたあですね。おいよか頭のはげとらすごたあばってん。

本当に市長さんね、8年間ありがとうございました。お礼を申し上げたいと思います。

アップしたらやっぱり老けとうばい。(笑い声) 65 歳わっかちゅうばってん、やっぱ、29 歳から見たら——きのうもね、上田議員と話よったばってん、やっぱり 29 歳から見れば、もうオジンばいて言われました。やっぱり、65 は定年だろうと思います。それでですね、本当皆さん方にも、議員の皆さん方にも、執行部の皆さん方にですね、感謝を申し上げたいと思うんですね。それで俗に言うじゃなかですか。なんて——立つ鳥——なんちゅうんですかね。(「あとを濁さず」と呼ぶ者あり) 跡を濁さずですね。石橋さんありがとうございます。

〔9 番「はい」〕

立つ鳥 (笑い声)、跡を濁さず感謝をですね、申し上げたいと思うんですね。それから、本当、39 年になります。いろんな人たちにですね、お世話になったしですね。心からご支持、ご支援ありがとうございます。ちゅうことで、心からのお礼を申し上げたいと。カメラに向かって言ったら早い話ですけどね。(笑い声) これもよかですね。

それから、あと少し時間あるですかね。それから、皆さんもですね、今度改選される方。1 番から 26 番議員さんまでですね。やっぱり現職は強くあらんばいかんですよ、また強かと思っていますので、ぜひとも再選していただいでですね。武雄市のため、頑張っていただきたいと思います。市長さん、あと 1 分ありますので、私に対して何かあれば、さっきのこと含めてお願いをいたします。

○議長 (杉原豊喜君)

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

最初、私は黒岩議員さんとは真っ向敵やったですもんね。

しかし、あのね、やっぱり病院の民間移譲は黒岩幸生なくしてはできんやったというふう、本当に思っています。そして黒岩さんは——僕は伊藤さんとも仲の悪かったですもんね、最初。しかし伊藤さんを引き合わせたのも黒岩さん。あるいは、山口承則さんておんさですもんね。この人に引き合わせたのも黒岩さん。ですので、私は本当にね、なんて言ったらいいですかね。まあ、人間的——まあ尊敬はしてますけれども、それ以上にこの武雄市にとってね、特にこの 8 年間で、よちよち歩きやったときに、新武雄病院も含めて図書館も、感謝の言葉以外ないですね。それでもう、長くなりますけども、ほんとにあのね、これからね、私の矢となり盾となり、残り人生あと 50 年ぐらいあると思いますので頑張ってください。以

上です。ありがとうございます。

○議長（杉原豊喜君）

23 番黒岩議員

○23 番（黒岩幸生君）〔登壇〕

どうもありがとうございました。これで終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、23 番黒岩議員の質問を終了させていただきます。

ここでモニター準備のため、10 分程度休憩をいたします。

休	憩	10 時 29 分
再	開	10 時 40 分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次に、3 番上田議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。3 番上田議員。

○3 番（上田雄一君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆さん、こんにちは。ただいま、登壇の許可をいただきましたので、これより3番、上田雄一の一般質問を始めさせていただきます。

モニターを。今回も、武雄市の今後の方向性について、ということで、通告をさせていただいております。

今回大きく2項目。1つ目に教育について、2つ目まちづくりについてでございます。教育についてのほうは、ICT教育と反転授業について。まちづくりについては、道路行政についてと企業誘致について。最後に平成26年度に向けてということで、通告をさせていただいております。今回ですね、改選を控えてることもありまして、喫緊に話を伺いたいということだけを抜粋しております。よろしくお願いします。

それではさっそく質問に入ります。まずICT教育と反転授業についてになりますけれども、12月議会のほうで、反転授業という言葉だけが先行しているというところですね、学校現場、教職員並びに保護者への周知方法はどういうふうになっているのかというところを質問をさせていただきました。私のほうでは、すべての各学校で説明会を実施すべきではないか。というところですね、質問をさせていただいたところでございます。その際の答弁としては、すべての学校で説明会を実施するというところで、いろいろスケジュール的なものを答弁をいただいております。

これはですね、私が——私の子どもが通っている小学校、御船が丘小学校になりますけれども、こちらでの説明会の風景でございます。今の現状でですね、御船が丘小学校では実施させていただきましたけれども、ほかの学校での実施状況をまずお伺いしたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

（モニター使用）ただいま、上田議員のほうから御指摘いただきました、保護者説明会の日程ですが、昨日の3月4日火曜日、朝日小学校の説明会をもってですね、全11校の説明会、保護者への説明会が終わったという状況です。右側に資料集、小さいですが、資料の数、掲示しておりますが、どの学校においても非常に多くの保護者の皆さんに参加いただき、不安の解消に少しは前進したのではないかなというふうに思っています。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

はい。資料数が記載してあります。

これ大体、保護者の世帯数、保護者の数、世帯数の資料数の何パーセントになるかというデータまでお持ちですかね。そこら辺をまず、ちょっと確認させていただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

この資料集、（モニター使用）おおよそ保護者の参加予定数ということで学校から要望があった数ですので、大体参加予定の全体としては保護者世帯数というふうに考えていただいていいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

はい。まあ、おおむね、たくさんの保護者の皆さんに説明会参加いただいているのかなというような状況でございます。その際にですね、これまでの質問でも再三、話をさせていただきましたけど、まあ保護者の声をどのように受け止めているのかというところをちょっと話を、いきいたいと思うんですけど。御船が丘小学校も含めてなんですけど、やっぱり一番、こう、保護者の方の不安、疑問に思われているのが大きくわけて3つじゃないかなと思うんですよね。私が認識してる感じでいけばですね、まず1つ目はやっぱり壊したり、紛失した場合の責任の所在はどうなっているか、その後の対応をどうするのか、というのがまず1点。それに、まあタブレット使用することによって、この目とかの影響がどういうふうになるのか、というのが2つ目。そして3つ目は、家庭でのこう、ネット環境を含む、要は本来の目的、反転授業なり、本来の目的以外に、これも、この議会の場でも質問をさせていただきましたけど、ちょっと言うと、タブレットに、こうなんというんですかね、タブレット、ちょ

っとそれにばかり特化していくというようなこととかの利用の対応、そこら辺がですね、一番、こう、保護者の中では多かったんじゃないかなと思うんですけど、これと、その辺は保護者の声、どのように認識をされているのか答弁お願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

ただいま、御指摘にありました（モニター使用）ように、教育委員会のほうでもですね、保護者に対して、タブレット端末を使うことによる不安はなんですか、というアンケート調査を行っています。

大きくやはり3つです。一番多いのがやっぱり、タブレット端末の破損、紛失した場合はどうするのか。2番目は健康被害。特に視力に対する影響は大丈夫なのかと。で、3つ目としては、インターネット中毒という言葉に象徴されるようなタブレット端末習慣化中毒。こういったものが不安、どうゆうふうになるのかという質問はやっぱり中心となります。

われわれ教育委員会の回答としては、まずタブレット端末の破損、紛失に関しては、教育委員会のほうですべて保証するという形になります。ただ、もちろん、市で買ったものですので、そういった取り扱いには丁寧に扱うようにという指導が前提となります。

また、視力への影響なんですが、どうしてもタブレット端末をずっと使うような誤解があるので、実は、例えば、授業の中でタブレット端末を使う。これ、左の下の赤い部分が、大体使う時間ですけれども、反転授業による、家庭での持ち帰りの動画も大体7分程度です。で、繰り返し見たとしても、大体20分あれば終わってしまいます。また、授業中でも、タブレット端末を使うという時間というのは5分、5分くらいが、大体このくらいの程度の使用時間ですよ、と。これも、すべての授業の中で扱うことではないと、いう説明をするとですね、「あ、その程度ですか」という形で不安の払拭には、できてるんじゃないかなというふうに思います。

タブレット端末の中毒、習慣化については、インターネットを家庭では接続できないような設定にする、という説明を申し上げると、こちらのほうも大体、理解いただいているというふうに認識してます。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

ちょっと、このまましとってください。まあ大体、おおむね、私の認識と一致してるところなんですけど、今回のこの説明会を実施することですね、保護者の不安の状況、そういうのはどういう感じなんでしょうか。ていうのはですね、うち、私は御船が丘小学校のほうの、説明会に参加したんですけど、当然そこら辺の質問等が出ました。出た上で、いろいろ

な説明を聞いた上で、保護者の方は、そこの参加されている方は、おおむねもう、不安を払拭されたように感じたんですけど、そこら辺は説明会を実施する上で、どのような感じでしようか。そこら辺、答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

もちろん1回の説明で、（モニター使用）すべての不安が払拭されたというふうには思いませんし、どうしてもこの保護者会のほうに出席できない保護者の皆さんもいたと思いますので、まず、繰り返しやらなきゃいけないというのは大前提だと思っています。ただ、初めて説明会ですので、その点でいうと、最初の不安はずいぶんとなくなったんじゃないかな、というふうに思いますが、実際、今後ともですね、いざタブレット端末が配付されて、その後どうしていくか、っていう、例えば保護者への関わりとか、具体的な不安というのは4月以降もあると思いますので、そういったときには、繰り返し、こういった保護者会の説明会というものを開催していきたいというふうには思っています。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

昨日の答弁の中でもオープンデーやったですかね。そういった感じで、保護者の参観等もやっていく、ということですので、そこら辺でまた、状況はいろいろ認識されるんじゃないかなと思ってます。

もういよいよですね、もう、すぐ迫ってますので、準備はぬかりなくお願いしたいところでございます。

今回ですね、機種や、アプリケーションについてということで、もう仕様が大幅に、ある程度決定をされたということでございます。これまでですね3度の選定委員会を実施されて、プロポーザル方式による入札、それを経て、最終的に2月4日の臨時議会で可決成立したという流れだと私は認識しておりますけれども、改めて、その来春整備されるそのタブレットの詳細の説明等をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

上田議員が、今、示していただいたとおりの成立方法でタブレット端末の導入が決定いたしました。実際にこれが、機種です。（実物を示す）おおざっぱな機能としては、アンドロイド4.22、ディスプレイサイズは7インチ、ストレージは16ギガ、そしてこの保護カバーと保護フィルムがついた、というものです。

機能としてはですね、生徒が、児童がここで記入したものが、先生とコミュニケーションできるというような機能をまずベースに入れて、まずこれを使って、先ほど——先日来申し上げています、一人ひとりと向き合える、先生たちが向き合えるような形でのアプリケーションの導入をしています。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

3 番上田議員

○3 番（上田雄一君）〔登壇〕

はい。実は私、7 インチのディスプレイを見たのは初めてでして、結構細かあなっている感じがしました。この、カバーはもう全員こんな、この黄色かカバーになるとですか。そういうわけじゃなかとですね。

〔代田教育監「全員」〕

全員これ。色も。

〔代田教育監「はい」〕

すごかですね。センスの、よかとか悪かとか、よくわかりませんが。（笑い声）物すごく派手で目立つし、まあなくしたりなんだりは少なかとかかと、いうふうに考え——気がします。まあ 16 ギガということですね、まあ仕様のには、私は問題ないというふうに考えておりますので、すみません、チェンジよかかでしょうか。はい、ありがとうございます。

それでですね、今回その ICT 教育を反転授業取り入れるっちゃうことですね、今、現在使用するソフト、アプリは、先生と塾等で、連携しての準備というふうになっている訳でございますけれども、学校現場のですね、負担というのは、どのように考えられているのかを、答弁お願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

学校現場への負担に関してですが、もちろん、反転授業用の動画をつくるという意味で、先生方の負担は従来よりもふえていると思います。ただ、これは子どもたちのための新しい取り組みですので、ここの部分は、ぜひ先生方にも負担と承知で頑張ってもらいたいなというふうには思ってます。ただ、これをすべて先生方がつくるとなると非常に大変だと思います。そこで、企業との連携を図りながらつくるというのが、今の武雄市のスタイルで、具体的には先生が、こういう動画をつくってほしいという依頼書のもとに企業がつくっていった、そのつくったものに対して修正を入れていくという形となるべく、現場、先生方の負担がないように仕組みとしてはつくってます。

その一方でですね、先生方への負担、タブレット端末を入れることによって、例えば小テスト、授業前に授業後に行った小テストなんかは、よく、職員室ですずっと採点をするという

業務があるんですが、これは、タブレット端末を入れることによって先生のそういった、業務の削減というのはできると思ってますので、そういったところをぜひ充実させていきたいなど、いうふうには考えています。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

さらに加えて、これ先生と塾等の連携ってあるんですけど、どうも、なんか先生とその企業だけで、こう、行きそうな気がしますのでね。僕はもともと、その、当初の発想は、塾も、一緒にこうできるとこはやるというので、例えば、土曜日の英語の授業であるとか、放課後のクラスっていうのをやったつもりでいるんで、ぜひ教育委員会にお願いしたいのは、塾もこう一緒にやるようにね、お願いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

3 番上田議員

○3 番（上田雄一君）〔登壇〕

そうですね。今回ですねこのタブレットを使用することによってですね、私もちょっと、立場上ですね、学校現場にちょくちょく出向くんですけど、やっぱり気になるところがですね、ここなんですよね。このタブレットを使うことによってその報告書関係がですね、とにかく放課後の先生たちってもう、そいに追われよんさごたふうに見えるんですよ。

だからこの、今回この反転授業のアプリ、ソフト等検討しながらですね、ぜひこのタブレットを使うことで、報告書義務の業務の簡素化だったり、そこら辺をですね、学校の負担感を減らすっていう方向。なんか術がないのかなと思ひまして、そこら辺をぜひちょっとお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これね、タブレットを使ってもね、報告書を書かなきゃいけない、一緒なんですよ。だから報告書そのものをなくすのが一番いいんですよ。いや、だってそうじゃないですか。（発言する者あり）だからあのね、これ、でも学校の先生って真面目なんですよ。私と違って真面目なんでね。必要以上に書くんだけど、そもそもそれをちょっとやっぱりなくさないよね、僕は駄目だと思いますよ。

だから、これも市の教育委員会にお願いなんですけれども、そういう報告は、もうほとんどなしにすると、もう。任せの方がいいんですよ。特段の何かな——あった場合っていうのは必ず情報が入りますから。だからその、入る信頼関係を、学校現場と教育委員会できつとときゃいいんですよ。だから僕はね、本当そう思いますよ。

だからこれはもう簡素化じゃなくて、一たん全部ゼロベースにする。その上で、どうしても問題があった場合には、悪い話だけ入れてくれと、いうこと。うちはまだ現にそうしてんですよ、うちの中は。だから、もう事後報告はもう必要以上にやるなど。そのかわり、悪い情報だけ事前に入れてくれっていうふうに言ったらね、悪い情報だけがいっぱいやってきて、僕は鬱になりそうです。(笑い声)

○議長（杉原豊喜君）

3 番上田議員

○3 番（上田雄一君）〔登壇〕

そうなんです。私も保護者としてですね、言わせていただければ、学校の先生はですね、やっぱり子どもたちの人間形成の上で、できる限り子どもと関わってほしいというのが、願いがあるんですよね。ただ、残念ながら、放課後の職員室なんかは、結構やっぱ報告書に追われよんさとかあるけんですね。ぜひ、これが何とか簡素化できんかな、と思いましたけど、前向きに答弁いただきましたので次にいきたいと思います。

次はですね、これは前回の議会でも使いました。ちょっと、A君、B君、C君、Aさん、Bさん、Cさんですね。こういう今のテストの点数が、まあ、この程度を取っている子どもがいると仮定した場合の、今回こういう反転授業を行うことによって、ということで、これまでの説明では、こういうふうに、みんながこう、上がっていく。むしろ、こっちのこのC君のほう、Cさんのほうが伸びる、というような説明を聞きました。その際に、私は反転授業はどうしても家に持ち帰って予習をするので、一生懸命する子はもっと伸びるやろうって。しない子、全く予習しない子は、もう全く変わらんやろうって、いうことで言いました。ここの席で質問をしました。ただ、その際の答弁としては、いんや違う、こっちですと。こっちですよ、という答弁をいただきました。ただ私はこの反転授業だけを捉えればですね、こっちじゃなくて、こっちのケースも考えられるんじゃないかなと思うわけですよ。ただ、答弁としては、いいやこっちですということでしたので、どういうことなのかなと思っておったところがですね、私も期待している効果の、一番の効果の中に、このCラーニング機能というのがあります。

これはですね、ちょっと見にくいんですけど、これ先生のタブレット、写真をちょっと撮らせてもらった分です。問題があって、答えを、例えばこれ4択をした場合に、このときは8人が解答している、ということで正解が8人。全部、ここはまあまあクリアしていると。この下は、ちょっと問題はつきり覚えてませんけど、正解が一番上なのに、2人が正解で、あとの子はちょっと正解をしていないというところ。こういうデータがですね、瞬時に先生の手元に残っていると、送られてくるということなんですよ。

これはどういうことかと言いますと、これまでの学習では、授業をまず受けます。授業の中に小テストというような感じで、実施がされます。それを、授業終了後に職員室に戻って、

先生方がこう丸つけ、採点をするわけですよね。だと思っんですよ。そこでもし、理解をちょっととしてなくて、ちょっとつまずいている子どもが仮にいたとした場合、翌日、とか結局放課後も職員室で採点をしているので、このつまずいている子に対する対応というのは翌日の次、翌日以降の時期での対応になるわけですよね。ただ、翌日の授業となるともう既に次の今度授業に進んでいるということで、結局ですね、ここのつまずきが、いろんな対策が先生方も打っていただいていたんじゃないかと思っんですけど、どうしてもそれが翌日以降の対応になっていくということで、なかなか厳しい状況だったんじゃないかと。

これを今回、このＣラーニング機能を使うことによって、授業を受ける。小テストを実施。この小テストが結局タブレットを使っての小テスト。小テストを実施することで、教師のタブレットにそのまま瞬時に状況が把握します。となると、翌日持ち越さず、この子はどこでつまずいているのかなというのが、その時点でどっかつまずいている、というのがわかって、即座にその場で対応できる。だから、こうＴＴの効果絶大というふうにしていますけど、今学校は、低学年は少人数学級か、チームティーチングを選択をしますけど、このＴＴの効果というのも非常に出るんじゃないかと出ている・意見が出た・出します。

だからこそ、さっきのＣさんの学力が伸びるのかなと。ちょっと私、そういう認識でいますけど、それ、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

授業の流れ（モニター使用）自体はこの認識でいいんですが、その反転授業を加えると、さらに、この翌日に持ち越さない、つまずきを残さない、ということができると思っています。つまり、反転授業の動画を見た後、必ず小テストをするような仕組みになっています。ですので、これよりもさらに、授業を受ける前に、この子たちはどのくらいのつまずき、問題点があるのか、全員わかっているのか、この子と、この子はわからないのか、というのを把握できるような形になっているということです。つまりこれ、先生用の端末で、授業前の状況を先生が把握している状況です。全員正解と、３名くらい間違った問題がある。ここは当然名前もわかるし、感想があるということで、実際に、授業前に先生が生徒の知識状態を把握できる。

授業中も上田議員が御指摘があったようにですね、授業中でも小テストを行うことによって、同じ問題だったり、発展問題がどのくらい定着したのかなということも先生方は瞬時にわかるということで、もし、わかってなかったらもう一回指導方法を改善すべきだし、ほかの学習で、また翌日に残さないという体制ができるという意味で、こういった機能が、こういった指導法が実現できる、という意味で大きいというふうに考えています。

○議長（杉原豊喜君）

3 番上田議員

○3 番（上田雄一君）〔登壇〕

そうしたら結局はこの授業を受けるこの前に反転授業で予習をして、その時点で小テストを、そこまでが家庭学習で実際入ってくるということでの流れですね。わかりました。それだったら効果がまたあるのかなと思っております。

そしたらですね、いよいよこの反転授業、ICT教育がいよいよ春からスタートするということで、これまでタブレット関係も仕様が決定し、説明会等も実施しているということで、これまでも、あと残り数日程度しかないのかなと思いますけれども、現在、準備状況でどうですかね。今、5月から実施予定ということであつたかと思えますけど、そこら辺、準備状況はどうですか。実施できそうですか。そこら辺を。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

現在、来年度の前期、5月、6月、7月に使う算数と理科の反転学習の動画を制作しております。スケジュール的には、非常に順調にいつていまして、先生方も、どんどんどんどん、先行してつくって、企業さんのほうがむしろ納期にぎりぎり頑張っているという状況で、スケジュールどおりいつてですね。5月からは――4月にタブレットに慣れて、5月からは反転授業のほうを順調に導入できる予定で進んでいます。

○議長（杉原豊喜君）

3 番上田議員

○3 番（上田雄一君）〔登壇〕

これですね、2月の臨時議会の討論のほうでも御紹介しましたが、保護者の中ではですね、やっぱりかなり期待をされている感が伝わってくるんですよ。ある人はですね、武雄に引っ越して来られたお母さんがいらっしゃって、これは今回のこのICT授業、反転授業は、武雄に引っ越してきてよかった、って思えることの一つがもうこれだ、とおっしゃる方もいますし、またですね、ある方は、これが進んでいけば、今通信教育、家庭の通信学習にいろいろお金をかけてますが、それがやめられるんじゃないかと思ってちょっと期待してます、とかって言う方もいらっしゃいます。

ですので、私もですねこの反転教育、ICT授業に期待をしておるところですけども、ちょっと一つ、うがった見方のちょっと個人的な心配を1つだけ言いたいと思いますけれども、今回の、このICT教育、反転授業が効果を発揮をします。

効果を発揮すると、武雄の子どもたちの学力っちゅうのが向上していくんじゃないかなと。となると、いい大学に入ったり、いい企業に進んだりというのは期待をしちゃうのかなと。となるとですね、子どもたちが、優秀な子が武雄に戻ってきてくるっとなかなと、武雄に残っ

てくるっとなんと、そういうのをちょっと心配してるわけですよ。むしろそっちを心配せんばいかんとなんと思ひながら、そこら辺についていかが——どうですか。考えをお伺ひせいただきたいと思ひます。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

お話にありましたように、このICT教育の推進によりましてですね、できるだけ、どの子も本当に一人一人の子どもたちがですね、確かな学力をつけてくれることも期待しますし、同時に、きのうから話題になっておりますように、その学力だけのことじゃないと。見る時間非常に短いんだという説明を教育監いたしましたけれども、できるだけそれを持ち寄って、話し合っ、心の面も育っていくんだということを目指しております。

そういう中で、学力の考え方もいろいろございますので、そのいい大学、いい企業、という方向に向く子どもばかりでもないだろうと思ひます。自分の学力、興味、特性を生かしてですね、いろんな面で活躍してくれることだと期待しておりますので、そういう意味で、武雄の思ひというのはしっかり、心に残って。残るうんぬんっていうのはちょっと即断できませんけれども、そういうふうな思ひで取り組んでおります。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ僕もうがってると思ひんですけど、これだめだと思ひますよ。こんなこと出したら。これね、出すとね、いや、今残ってる子たちとか、僕らが、なんか頭の悪い人たちがね、（笑い声）いやいや、そうだと思ひますよ。だから、こういうだからね。まあ、上田議員はそんなことはないと思ひは信じていますし、事実そうだと思ひますけれども、これは偏見だと思ひますよ。

それよりも、僕らは、そのいい大学、いい企業へ進むっていうのだけじゃなくてね、まあそれもいいかもしれないけれども、何度も私も言っていますけれども、やっぱりこう飯が食える、魅力的な大人をつくれっちゅうことなんですよ。（「そうそうそう」と呼ぶ者あり）それで、しかもどっかなんかね、正解がこう、3つあるうちの1つを選ぶのではなくて、ね。もう私かもしれないですよ。もう黒を白と言い切るって。ほんで自分で正解をつくっていく、そいでグローバルな、もう本当に、これ、日本ってまだね、生ぬるいんですよ。

お隣の韓国・中国とかねアメリカもそうなんだけど、我々の次の世代が伍していかなきゃいけない世界っていうのは、本当の意味での、もう弱肉強食なんですよ。そこでしなやかにたくましく生き残っていくためには、公教育、小学校の公教育が絶対必要なんですよ。だから、そういう意味で僕らはやろうというふうになっているし、ただそれが押しつけであつち

やいけないからね。だから、特に小学校の時は、僕は不登校でしたけれど、楽しくね、楽しくやっばこう学んでいくって、主体的に、自立的に学んでいくっていう環境を整えるのが、我が教育委員会の仕事だと思うんです。それを僕は予算編成権を持っていますので、まあ議会は議決権があるじゃないですか。それを全面的にバックアップするのが僕らの仕事だというふうにこう思っていますので。ぜひね、そこはきょう多くの方もごらんになってると思うんですけど、ぜひ御理解をしてほしいと、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

3 番上田議員

○3 番（上田雄一君）〔登壇〕

いや、もう本当うがった見方なんです。ただですね、この I C T がどういう効果をもたらすのか、私はですね、それをおろそかになることはないと思うんですけど、ぜひですね、こっちのこのふるさと武雄を愛する教育。まあ、タブレットを使わない教育しか受けてない私たちなので、やっぱりそこが見れない部分があるんですよね。だからこそやっば武雄を愛して、とにかく武雄が好きになるというような教育も、やっぱりもっとしていって、大事にしてほしいなと、いうところがですね、まあちょっとうがったところだったんですよね、はい。それでは次に行きたいと思います。

まちづくりについてであります。まず、道路行政についてなんですけど、これはですね、小楠交差点になります。小楠交差点の写真になりますけれども、今回ですね、いろいろお話を伺ってる方の中にですね、こっちのこの川良方向から、川良だったり、武内の方、若木だったり、北方の方がまあよく使われるのかなと思うんですけど、八並の方とかですね。ここの朝のラッシュで物すごくここを通過するのが時間がかかると、右折のレーンの信号が出ないと。ここがですね。まあ通常の赤、黄色、青の信号になるわけで、ここの右折の信号の矢印表示がないので、なかなかこれが右折ができないという話を伺っております。で、警察のほうにもですね、私もいろいろ相談にも行きました、何度か。

するとですね、ここは現実問題としては、こっちはですね、右折レーンがあるんですよ。こっち側がですね直進、左折レーンと右折レーン。ただ、こっち側がですね、直進と、まあ右折、スペース的にはあるんですけどここに、その分離の線がないということで、これが今の段階ではできないというような話を伺いました。で、これが武雄市さんのほうで、ここの道路拡幅を考えていただければ可能になるんじゃないかというような話をちらっと伺ったんですけども、こちら辺の、今後の計画予定とその信号の解消が可能なかどうか、そこから辺合わせて答弁お願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

交差点の部分的な、まあ今、部分的に改良をしまして、今の状態での開放というのはなかなか難しいということで、信号処理について関係機関と協議をしましてまいりましたけれども、南北の、まあ川良方面からの路線を優先してですね、時差式にするというふうなことも協議をしたわけですが。今度は、東西、温泉通り、温泉駅の方から来る路線のほうも今、現状も、まあ今混雑してると、渋滞してるというふうなことで、さらに時間差をつけることによって、渋滞が予想されるというようなことで、現状の時間配分が一番最良という判断をしているところであります。交差点の改良につきましては、交差点付近の建物移転のまあ状況にちょっとよりますけれども、平成27年度中には、何とかこの分につきまして改良を行いたいというふうに考えているところです。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

はい。交差点の改良、27年度中に。ただ、その信号はなかなか厳しい。この、要は——ごめんなさい。違う。こっちの、交通もありますけど、こっちの東西の交通もあるということですね。ただ、まあちょっとそこで、警察の方ともちょっといろいろご相談をさせていただいたんですけども、今の、信号の機能もいろいろあるっちゃうことですね、その時間帯だけをちょっと限って、朝——とにかくここ、朝の通勤ラッシュのところが、とにかくすごい状況らしいんですよね。だから、その時間帯だけでもこうなんかこう、操作がしようと思えば、警察のほうはできるというような話をちらっと耳にしたんですけども。そこら辺を一緒に協議してはいただきましたか。いかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

時間帯、朝の時間、まあ夕方の時間だけの、時差式ということについては今のところ協議はしておりません。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

はい。まあその時にちょっと、いろいろアドバイスはいただいたんですけど、そういうことも可能だということでしたので、ぜひそこも合わせてですね、改めてちょっと協議をしていただければなと思っています。

改良も、土地の——違う、土地の買収、買収やったですかね。そこら辺も、ここんところも、どうなるんですか。もう歩道が今既に何となく歩道みたいな形になってるんですけども、ここら辺はもう信号のつけかえとかそういうのは当然あるかと思いますが、スペース的に

はもうある程度確保はできてるんじゃないのかなというふうには、気がしておりますけれども、そこら辺いかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

部分的に、余地が完了しているところもありますけども、一部だけ、拡張してですね、そこだけをレーンをつくるというふうなことが、さらにまた、安全性に問題が出てくるというふうなことで、今のような状態になっているということで、ある程度、一定の延長ができたときにですね、合わせてするというほうが、安全性を考慮して、今の状態になっているということで、お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

3 番上田議員

○3 番（上田雄一君）〔登壇〕

はい、わかりました。この先のほうの部分もです、ということもですね。はい。それでは続いて、企業誘致のほうに入りたいと思いますけど。まず若木の工業団地については、これも先の議会で質問させていただきましたけれども、今回空いてた、九州西濃運輸さんがここに入っていたいたということで、若木の工業団地は完売したという話でございます。

北方インター工業団地につきましては、全総面積 18.4 ヘクタールのうちの、この部分。時計でいうと 10 時、11 時ぐらいのところになりますけれども、3 ヘクタールが、コスモス薬品さんが進出決定という話を伺っております。

この企業誘致はですね、8 年前、樋渡市長が当選されて、まあ当選される前にか、マニフェストというのが出されました。マニフェストを見て私が最も期待したのが、やっぱり企業誘致。市民の皆さんも多数いらっしゃったと思います。

この企業誘致。これまでのまず、武雄。最近ですね、いろいろなうれしいニュースを、いただいておりますけれども、この企業誘致の実績をまとめて、ちょっと御紹介をしてもらえれば、非常にいいなと思うんですけれども、いかがな状況でしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

北川営業部理事

○北川営業部理事〔登壇〕

（モニター使用）失礼いたしました。

樋渡市政になりましてからの、企業立地の実績・状況ということでございますが、モニターをごらんいただきたいというふうに思います。

これは 2 期 8 年の企業誘致の実績を企業誘致、企業立地課で進出協定を結んだものに加え

まして、病院、CCCまでを整理をいたしたところでございます。これにつきまして、まあ見方としましては青が1期目の平成18年から平成22年まで。それから赤が平成22年から現在までということでございます。全件合わせますと10件ほどございます。

特に新病院につきましては1期目と2期目ということで、現在420名。1期目で260名、2期目で160名ということで、現在420名が雇用されているというふうなことでございます。

近隣の市とですね、武雄市を比較をいたしておりますけれども、武雄市が10件、近隣についてはごらんのとおりでございます。

非常に武雄市が突出しておりますけれども、今、全体で、約1,050名、1,100名ぐらいの雇用が創出できたものというふうに考えられます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは、樋渡市政ってなってからというよりは、これ職員の頑張りなんですね。

まず、青のときが、私が着任して、直ちに景気が悪くなったんで、なかなかね、思うようには伸びなかったんですけど、そのときに、これ、当時の前田企画部長、営業部長と相談しましてね、担当の部長級のセクション置く必要があるだろうということで。一番最初によく頑張ったのが、あの亡くなった伊藤元康です。その次に、今の北川理事を中心として、千賀さん、あるいはその議員さんの頑張りで、僕はここまできたというふうに思っているんですね。だから、担当のセクションが物すごく強烈に動いたってということと、特にあの、北方の工業団地は、これから多分、続々入っていくと思うんですけども、それで、まあ、黒岩幸生——引退される黒岩幸生議員さん、そして、宮裾の区長さんを初めとして、地元の皆さんたちの、もの凄い、あの熱い、そして暖かい熱意でね、あれだけの規模の面積があつという間にできたということが非常に大きい。

それとやっぱり、先ほど言いましたけど、議会がやっぱりね、物すごく、ここは好意的だったんですね、議会が。ですので、いろんな、実は言えること、言えない話がいろいろありますけれども、本当にあの、これは議会には本当に感謝をしたいというふうに思っています。

そして、さっきちょっと副市長ともちょっと話をしたんですけども、今、やっぱりこう問い合わせが結構やっぱりあるんです。これはもう、武雄がもうブランドになっているということもあると思うんですけども、ただね、やっぱり、こう、北方の工業団地が大規模がちょっと要件となっているんで、もっと少し、柔軟にしてもいいのかなということも思います。だから、まあ、あまりにも小規模っていうのは、ちょっとね、課題かもしれませんので、もう少しその要件を下げたりして、県とよく調整をしましてね、もっと引き込む努力、魅力ある企業誘致をしていきたいと思っています。

そして、最後にしますけど、あとね、県が本当によく頑張ってくれました、県が。古川知

事を初めとして、本当に県のね、担当のセクションの皆さんたちが、ここまで肩入れしているのかなというぐらいにね、本当にこう、一生懸命やっていただいたこと、そしてこれ、皆さんの努力と熱意のおかげでここまで来たということということです、本当に感謝をしたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3 番上田議員

○3 番（上田雄一君）〔登壇〕

そうなんですよ。もう本当チームとしての企業誘致が功を奏しているという考えが一番正しいのかなと思ってます。というのも、今、現在の企業立地課の皆さんもかなり一生懸命、企業誘致に邁進していただいておりますし、その前の段階の企業立地の職員の方。でまた、それに伴う、もう本当チームとしての企業誘致が実現しているのが今の武雄なのかなと。まあもう、実績をまとめてみると、もう 1,000 人超える企業、雇用が生まれているというのは、本当にうれしいことですね。

この工業団地、北方のほうなんですけれども、さきほど答弁出ておりました工業団地。これがですね、取りつけ道路が最終的にどうなるのかちょっと、あれですけど、この図はちょっと簡単に私が、描いただけなので、あれですけども、前回の 12 月議会のほうで、企業誘致の呼び水として、今回コスモス薬品さんが入っていただいたことによって、企業誘致の呼び水としての今後の展開はどういう、展望はどうだということで、質問させていただいておったところですね。まあ、そのときの答弁としては、ある企業と調整中という答弁でした。これについては、またそれから、3 カ月、もう本当、刻一刻、一刻ですね、いろんな情報がありますけれども、ここら辺は今現在どういう状況なのか、話せる程度、いろいろ制限があるかもわかりませんが、こちらのほうも答弁お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

それはあの、この北方の工業団地にまず、限って言いますとね、ちょっといくつか大きなところと調整をしています。これについてはまだ、公表できる段階じゃないんですけれども、夏頃にはいい話が多分できると思うんです。

それで今、決まってる、コンプリートしたお話をしますとね、株式会社タケックス様が、昨年 4 月武雄工業団地に事業拡張で、進出をさせていただいて、若木のです。武雄工業団地に、事業拡張で進出、操業開始をされておられます。このたび、同社の跡地、タケックスさんの跡地ですよ、跡地、朝日町中野ですけども、ここで今、ちょっと紛らわしいんですけど、サニックスさん、武雄工業団地、あの若木のね、武雄工業団地で操業中のサニックスさんが今度、事業拡張されます。事業拡張されて、この跡地に新規事業所を設立される運び

となりました。何かタケックスさんと、サニックスさんって、ちょっとなかなかわかりにくい部分があるんで、まあどっちもいい企業さんなんですけども。もう一回整理するとね、タケックスさんの跡地に、サニックスさんが若木は残しといて、武雄のタケックスさんの跡地でも行われるという、わかりました。ああよかった。見込みです。それで進出協定調印式をあした6日に行くこととしました。

このようにね、本当に何て言うんですかね、あそこちょっと懸案になっていたんですよ、タケックスさんの跡地をちょっとどうなるのかなというので、まあ、我々も心配してたんですけども、サニックスさんのほんと温かい御厚意と事業拡張ということでね、お越しいただくということで、繰り返し言いますけど若木はちゃんと残りますので、残った上で拡張するということで、今後はね多分ね、こういうパターンが増えてくると思います。こういうパターンが。まあよそからね、お越しいただくっていうのはもちろん大事なんですけれども、今ある企業さんが、拡張して場所が足りなくなった場合に、武雄市内で事業拡張として、拡張操業するというパターンもね、今後ふえていくと思いますので、これについても全面的にやっぱり応援して参りたいと思っております。まあこれもよく、北川理事ね、それと千賀さん、古田さん、そして池田さん、本当によく頑張ってくれましたので、それとあとね、うち、ここはなんかこう、あれなんですよ、親分社会みたいなんですよ。北川親分を中心として。うん。そのOBの人とかね、松尾謙一とか朝長、OBとかね、うまく人を使ってね、本当にこう、よくこう引き込んできたなということなんで、まあある意味北川チームのね、こう、やってきてくれたんだなっていうふうに思っています。ですので今後もね、いろんなこういう明るいニュースが多分出てくると思いますので、早くお知らせできるようにね、誠心誠意、また、まあ私は賞味期限切れですけど、今度改選される議会とね、がまた中心となってねまたやっていただければいいな、とこのように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

タケックス、サニックス本当ありがたい話ですよ。

そうするとですね、企業誘致については、本当に先ほどの話も含めて、結果を出していただいております。今後任期満了が間近に迫っているわけでございますけれども、ちょっと私はですね、今のところ、首長選に関するマニフェストというのを、何も見たこともないですし、ただ、これまでですね、2回マニフェストが出されていたのではないかなと思っておりますけれども、3度目っちゅうのは、そこら辺はどうなんでしょうか。出されるつもりか、そういうのを、答弁お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

マニフェストは、ちょっとあの、あれですよね記者室からも求められていますので、ちょっと、公表、正式な公表はちゃんとします。いつでしたっけ……（「あさって」と呼ぶものあり）あさってでございます。なんでそっちから出てくるのかよくわからないんですけども、あさって行おうと思っているんです。それで今のところ書き込もうという方向は、やっぱり消費税が5%、4月からね、また今度8%になりますよね、これ生活に直撃しますので、まあやっぱり我々としてはできることは、やっぱり市民の負担、痛み、苦しみを和らげる方向で、水道料金の引き下げはぜひ書きたいと思っています。水道料金の引き下げは。そのパーセンテージについては、ちょっと今、中で最終調整中なんですけど、やっぱ5%は下げたいと思っているんです。ですので、そういったことを含めて、まあそれが多分目玉になっていくと思うんです。それと、かつですね、やっぱりこう移住の皆さんたちが物すごく、今武雄は住みたい田舎ランキングで全国第2位になってますけれど、お越しいただいた方がちょっとがっかりされる場面があるんですね。どこに聞いていいのかわからないとか、いろいろ例えば古民家であったりとか、お住まいであったりとかっていうのがあるので、それを一元的に、なんていうんですかね、体制を一元、窓口の課をつくろうと思っています。

今のところ名前はお住もう課にしようと思っています。はい。お結び課に並ぶお住もう課、「お」おですよ。ね。「住む」、住むで「もう」もう課、「お住もう課」っていうのをつくって、そういうふうには、やっぱり名前がね、こうやわらかみとか、親しみをこう感じさせるようなものにして、移住の一つの大きな柱にしていきたいというふうに思ってるんですね。

あと、いくつかありますけれども、今最終調整に、私の中でね、私の中でちょっと最終調整を今していますので、まああさっての会見で間に合わせて、ちゃんと公表したいなというふうには思っています。ですので、やっぱりですね僕はマニフェストという言葉はあまり好きじゃないんですけども、まあ公約という形で出していきたいというように思っています。これをもって、あと、やっぱあれもしたかですよ、図書館も。はい。キッズライブラリー。うん、これもぜひしたいと思っています。ですのであまり言うともうネタがなくなってしまうのでこの辺にさせていただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

3 番上田議員

○3 番（上田雄一君）〔登壇〕

はい。出すということです、その政策でぜひですね、戦っていただきたいなと思っておりますけれども。

まあこれまでですね、企業誘致の実績が高く評価される場所ではないかなと思うんですけど、さらなるその雇用の創出と、ぜひですねこの学校誘致っていうのにはですね、私は期待をしたいなというところがありますけれども、ここら辺の意気込みについては最後にお伺い

したいと思えますけれども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと、ごめんなさい。これ、ここ公約発表の場じゃないんで、私のちょっと夢を語りたいんですけれども、急がば回れだと思うんです。ですので、我々は代田教育監にお越しいただいて、教育長との、だんだん何かこう顔つきが似たような気がしてきたんですけど、強力なタッグでね、小学校の教育をよそのお子さんたち、お母さんたち、お父さんたちからお越しいただくような、教育の中身にしてほしいっていうふうに思っていて、それに対する全面的なバックアップはしたいと思ってるんです。その上で、今度ね、そうなってくると次中学校なんです、多分。その小学校を受けた教育の子がね、同じ内容で中学校で受けたいってなると、そのときに今ある、例えば川登中とか、北中であつたりとか、北方中であつたりとか、山内中の中学校のカリキュラムが多分変わってくると思うんですね。変わってくるって。それは、我々が変えたいじゃなくて、多分保護者の皆さんとか、子どもたちがね、小学校のときに、例えば反転授業でもいいんですけれども、それを中学校でもぜひしたい。

そうするとね、中学校の卒業生どうなるかっていうと、どうなるかっていうと、近くに高校っていうふうになるんですよ。近くに高校って。それを例えば、まあ県立高校になるのか、市立高校になるのか、はたまた私立、市外、県外の私立高校になるのか、そういう土壌が整ってからねぜひ、私はそれはぜひやりたいと思っているんで、まあいずれにしても物理的に言うとな次の任期4年ですよね。まあ途中で辞めた人もいますけど、4年なんで、そこで達成できるのかっていうのは、それは疑問なんですけど、その次の期ですね、議会もそうなんですけれども、あらかじめ具体的な方向性はもう出せる時に武雄はきてると思いますので、ぜひそれに向けて、上田議員さんと一緒にね、チャレンジをしていきたいというように思ってます。

僕は急がば回れという言葉が大好き。あんまりスピードは得意じゃありませんので、そこは慎重に、まあ、じんわりじんわりね、やっていきたいとこのように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3 番上田議員

○3 番（上田雄一君）〔登壇〕

はい、ありがとうございます。

急がば回れ、急ぎましょう、何とかできる限り頑張っていきたいと思っております。

以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で3 番上田議員の質問を終了させていただきます。

ここでモニター準備のため、5分程度休憩をいたします。

休	憩	11 時 38 分
再	開	11 時 43 分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次に6番松尾陽輔議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

（全般モニター使用）ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、6番松尾陽輔の一般質問をただいまより、始めさせていただきます。

今回は、大項目として4項目質問をさせていただいております。まず始めに、26年度の政府予算案を受けて、2つ目に少子化問題も大きな、今、社会問題でありますけれども、今回は超高齢化社会への対応についてお尋ねをさせていただいております。3つ目に私から、3つの事業を提案をさせていただいております。また最後には、ふるさとづくりの推進についてお尋ねをさせていただきたいと思います。

まず最初に、26年度の政府予算案を受けて、武雄市の骨格予算への反映と政策課題をどのように考えておられるか、お尋ねをさせていただきたいと思っております。

ただ、冒頭になりますけれども、今後の予算または政策等にも関連してくると思いますので、ただ先ほど、上田議員のときにも市長のほうから答弁がありましたけれども、住みたい田舎ベストランキング、武雄市が全国第2位というですね、評価を受けたことは皆さんも御存じかと思います。

ちょっと写真は私の家から（笑い声）ですね写させていただいて、田舎という雰囲気の中でですね、奥には若木の大楠がですね、見えておりますけれども。

そういった中で、このことに関してはですね、この評価は市が先進的に、また積極的に取り組んだ医療環境の充実。さらには、タブレット導入等による、楽しく学べる教育環境の充実。加えて、全国に誇れる魅力ある図書館と子育て支援、さらには福祉の充実、温泉と自然豊かなオルレコースの整備といった、先ほど申し上げました、先進的、さらには積極的な政策の取り組みの結果だと、判断をいたしているところでございますけれども、市長は住みたい田舎、全国第2位の評価を、今一度、どのような分析といいますか、どのような判断をされ、また、この結果を受けられ、今後、どのような住みたい田舎を、武雄を目指されておられるのか、お考えを、まず、お尋ねをさせていただきます。よろしく願いをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もうこれはね、議会、市民、そして職員の皆さんたちのおかげです。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

6 番松尾陽輔議員

○6 番（松尾陽輔君）〔登壇〕

はい。まさに私もそう感じるところでございますけども。

最近、各地域を回りながらですね、話を聞かせていただくと、最近、非常に、武雄に——武雄をまた誇らしげに思えるようになりました、という市民の声、方々からいろんな声が、そのような声を聞いております。まさしくそれが象徴しているのではないかと感じております。

また、今後ですね、全国第1位ということを目指しながらですね、ぜひ政策をしていただきたいということで感じております。そういった中で、いよいよですねTポイントレディースゴルフトーナメントが、今月の21日から22、23ということで、若木ゴルフ場で開催をされます。これは若木公民館の前ですね、大きく横断幕を掲げさせていただいております。そういった中で「歓迎武雄市市民一同」ということでなっておりますけども、おそらく、全国放送という形になってくるかと思っておりますけども、そういった中で、武雄市または若木、武内がですね全国にですね、知名度効果が大きくプラス効果が出てくるかと思っております。要は、宣伝効果といいますか、経済効果が数億円ですね、宣伝効果があるのではということで、私も感じておりますけども、そういった中で、今回、初めての開催と佐賀県ですね。ただ、もしよければ早い話ですけども、2回、3回ということでですね、ぜひとも継続していただきたいという思いの中で、市長の意気込みといいますか、その辺を聞かせていただければと思いますけども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これね、3回はあるっていう甘い話が飛び込んでくるんですけどね、そんな甘い話ないですよ。特にこの1回目っていうのは、ほんとのポイントなんです。ですので、これは行政は総力挙げてやります。そして、ぜひ皆さんたちも願いがあるんですけども、やっぱりこれは継続なんです。やっぱ1回目、2回目、3回目っていうふうに盛り上がっていくと思いますので、この1年が無事にクリアすれば、まあ、多分、3年間っていうふうになると思いますし、今度、その——やっぱね、桃栗三年柿八年。Tポイントレディスは、僕は12年だと思ってますので——どうもすみませんでした。（笑い声）ですので、やっぱりですね、こう盛り上げて、最初の初動というのはすごく大事だと思っています。

それで、やっぱりですね、これ、お越しに来られた方々が、一番なんかね喜ばれるのは、

やっぱ積極的な、やっぱ声かけなんですよ。声かけだというふうにも聞いてますし、そこはぜひね、お願いをしたいなっていうふうに思っています。また、具体的にはね、特に若木町、武内町の皆さんとしっかり協議をしてお願いをしていきたいと、このように思っております。最初女子プロって聞いたときは、プロレスと思ったことを反省したいと思います。(笑い声)

○議長（杉原豊喜君）

6 番松尾議員

○6 番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひともですね、もう2回、3回ということで継続を切望する一人ですけども、継続開催のポイントといいますか、要は、おもてなしの心、おもてなしだと思っております。そこで2020年、東京でのオリンピック開催。要は、滝川さん、クリステルさんの、おもてなしのプレゼンが一つのその大きなですね、東京オリンピックの誘致ということで挙げる人も少なくないかと思っておりますけども、武雄市もですね、1月の臨時議会で、今回のゴルフトーナメントのおもてなしに関する経費、予算を可決をさせていただいておりますけれども、そのおもてなしに、こういった方々が関係者が関わっていただいておりますね、今回、大成功のですね、開催を望んでおりますけども、男性以上にですね、女性の方々と言いますか、地域の方々、婦人会の方々のですね、下支えがあつてこそ、おもてなしがあるかと思っておりますけども、その辺の下支えされ、きのうも、そのボランティアの活動にというふうな話が出とりましたけども、そういった地域の女性の方々、婦人会の方々のですね、下支えがあつてこそ、おもてなしができるかと思っておりますけども、そういった形での婦人会等へのですね、何か一言コメントをいただければ、市長お願いしたいと思っておりますけどいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まあ私、ちょっと諸般の事情がありましてね、ちょっとあんまり、うん。ないと言えないです。

○議長（杉原豊喜君）

6 番松尾陽輔議員

○6 番（松尾陽輔君）〔登壇〕

はい、わかりました。現場ではですね、いろんな地域の婦人会の方々、またですねこういった今回の若木のゴルフ開催もさることながら、灯ろう祭り等もですね、いろんな協力者の方々があつてこそですね、成功に導いているかと思っておりますので、よろしくお願いを申しながら、ちょっと話はですね、おもてなしの観点から進めさせていただくと、皆さんこれ、わかります。ここだけをちょっと拡大したもんですから。

要はガードレールですよ。道路の清掃とかですね。例えば道の歩道清掃と改修工事ということはよく見かけますけれども、ガードレールは、もう設置したら、もう、そのままの状態というふうなところが各地で、武雄市内ではですね、さほどそのガードレール自体は見かけませんけれども、ちょっと周辺部とかちょっと入り込んだところでは、非常にこうガードレールですね清掃がなされてないような状況で、私もあちこち、県の状況等も調べました。県には1台がですね国道事務所、国道事務所にですね、そのガードレール清掃車っていうのがあるようです。なかなかその実際清掃してる現場を私見たことがないような状況の中ですね、これはもう武雄市全体のことだと思います。こういった、こう帰るときにでもこういったガードレールをちょっと目をですね向けていただくと、実際このような状況が各地に見られます。一番当初は、もうまさにこういうような状況ですよ。そういった形の中でですね、年一回でも市内全域をですね、もう一回確認していただきながら、そのガードレールの清掃もですね、ぜひともですね、やっていただきながら、おもてなしの心もですね、ちょっとこう、こういったところもですね、出していただければ非常にいいかなというような形で思っております。

ただ私もボランティアでっていうふうな形で思いもしよったとですけども、その交通ですね、車の車道ですから、なかなかこう事故にも遭遇の危険性も伴いますので、業者、専門の方にですねお願いをさせていただきながら、この辺のガードレールの清掃あたりもですね、ぜひとも今後検討していただきたいというような形で思ってますけども、市長いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これについては、検討はしません。

例えば、古川盛義議員がいらっしゃる多々郎地区で、私は非常に感心したのは老人会のメンバーの方々が、ブラシとね、何ですかね、こう洗剤を持って、ここをこう、ふきふきされていて、その間、確かにあそこも、まあ若木ほどじゃないんですけども、まあ車の往来のときは、ちゃんとかね、今、清掃中ですからっていうふうにして、うまく、こう車をこう回避されてっていうのはあるんです。

これね別に行政がやってもいいんですよ。いいんですけど、皆さんの負担になります全部、はい。ですので、それが例えば議会とか市民合意がそれで取れるのかと、そのお金があるんだったらもう少し水道料金下げてよといったことに、私はつながってくると思うし、多くの議員の皆さんたちは、そういう判断をされるんじゃないかなっていうふうにかう思うんです。ですので、ただね行政がやんなきゃいけないことは、これ色変えたいんですよ。もう、白はね汚れが目立つ。車も一緒。ですので、やっぱりね——いや、宮本議員笑い事じゃ

ないですよ。笑う、そのね、高らかに笑うんであればよそいって笑ってください。ですので宮本議員、僕、答弁中です、僕——ですので（笑い声）——宮本議員

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○樋渡市長（続）

ちょっとねこう聞こえるように笑われるっていうのは、ほんとになんか上から目線でばかにされてるような感じがするんですよね。

（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

（「静かに」と呼ぶ者あり）

○樋渡市長（続）

まあちょっと、気を取り直しますけれど。

やっぱり、ね、こう目立つ宮本議員が、目立たないようにするためには、やっぱ色をこう変えるっていうのもねあると思いますので、ぜひね、どこでも——今、例えば那須町とか、あの那須の御用邸のある那須町とか、近くだと湯布院がだんだんこう白のガードレールというのはなくなってるんですよね。だから、焦げ茶の茶色っぽいものにして、景観に配慮しつつ、汚れが目立たないようにするっていうのは、これはね、行政がやるべき話だし、これはボランティアの皆さんたちに頼る話じゃないと思うんです。ぜひ、こう役割分担をしてね、その浄化を——ちょっとだから、まあ3月の21日に間に合うかっていうのはあるんですけれども、そういうことをぜひね、やっぱり、これは考える必要があるんだろうなっていうふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

6 番松尾陽輔議員

○6 番（松尾陽輔君）〔登壇〕

色を変えるということも、一つの手だてだと思いますので、ぜひですねその辺を検討していただいて、一つのおもてなしの心もですね、こういったところで御配慮をいただければと思っております。

また、ボランティア関係でもですね、いろんな形で危なくないところはですね、いろんな形で協力をし合いながら、美しいまちづくり、道並みをですね、協力してつくり上げたいということだと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

ここで議事の都合上、1時20分まで休憩をいたします

休　　憩	11 時 57 分
再　　開	13 時 20 分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

一般質問に入ります前に、つながる部長より、先般の宮本議員の質問の答弁の中で補足の申し出がっておりますので、これを許可いたします。宮下つながる部長

〔「終わってから」と呼ぶ者あり〕

終わってからしましょうかね。すみません、はい。（発言する者あり）

終わってから、はい。質問の途中ですので、終わってからさせていただきます。

6 番 松尾陽輔議員

○6 番（松尾陽輔君）〔登壇〕

はい、それでは午前中に引き続いて、一般質問を続けさせていただきます。

要は、26 年度の政府予算案を受けて、武雄市の骨格予算への反映と政策課題はということに進めさせていただきますけども、昨年の12月の24日政府予算案が閣議決定がされました。また、先月2月の28日には衆議院で可決をして、今衆議院でですね、また審議がなされている状況ですけれども、その政府予算案を見てみますと、平成26年度一般会計政府予算案として、95兆8,823億円。25年度予算比3兆2,708億円増ということで、ちょっと95兆というのはあまりにも桁が大きすぎるもんですから、約、武雄市の予算が200億円強ということですね。佐賀県の予算が約4,000億ですよ。約4,000億。そういった状況なので、国としては95兆8,000億ということで。そういった中で、高齢化に伴う、社会保障費が過去最高の30兆円の太台に乗ったと。

また、今回景気対策として、公共事業費が約6兆円ということでですね、そういった形が政府予算案としての形でですね、過去最大の予算案が今回提出されているわけですけれども。こういった中で、政府予算のほう、ポイントとしてはですね、経済再生デフレ脱却と、財政健全化を合わせ目指す予算。

2つ目に社会保障と税の一体改革を実現する最初の予算となっているようであります。また、その具体的な中身についてはですね、未来への投資と、暮らしの安全ということで、1つに医療、農業等の競争力の強化、2つ目に子育て支援の充実、3つ目にインフラ老朽化対策等の公共事業の整備重点化ということになっております。そういった中で私もですね、資料を取り寄せてですね、中身的には中小企業庁の、中小企業小規模事業者のポイントということですね。いろんなこう、予算の中身が書かれております。また、地域消防体制の強化ということで、消防庁からも予算がですね、予算案が提出をされております。

あるいはですね、総務省からは、ICTによる超高齢化社会への対応ということで、高齢化社会に伴っての、ICTのですね、導入も検討もされて、具体的に進んでおります。ある

いはですね、農業関係、農林水産省からもですね、いろんな農業の担い手に関する支援の事業。あるいは鳥獣被害対策の現状と課題ということで、いろんなですね、中身的な予算案が織り込まれております。

そういった中でですね、今回、武雄市もですね、当初申し上げましたように、我々市議会選、また市長選もですね実施をされますから、骨格予算ということで新たにですね、改選後、首長の元で政策のためですね、補正予算の中で、事業予算などが肉付けをされていくというような形で思っておりますけれども、先ほど申し上げた、26年度政府予算案の中でのポイントをですね、1点2点、話をさせていただきましたけれども、今回議案にも出ておりますので、数字的、また予算額等についてはですね、議案の中でしっかりと審議を深めていきたいと思っておりますけれども、その骨格予算のですねポイントといいますか、今武雄市が抱えている政策課題は、どういったところに課題があり、また、どういったところに重点を今後置かれていかれる計画なのか、その点をですね、大まかなところで結構ですから、ご答弁をいただければと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは議員ご存じの通り、一言でちょっと申し上げるのは非常にしんどいんですよね、です。私の答弁は、議員がおっしゃった、政府予算案のそのメリハリの部分の、まあメリの部分はちゃんと我々やりますし、そのハリの部分というので、足らない部分はね、骨格予算で補うか、今度まあ新しいまた体制になって、6月議会できちんと手当をするということになろうかと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

6番 松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

はい、そういうような状況かと思っておりますけれども、いろんなですね、盛りだくさんのですね、アベノミクスでないでしょうけれども、いろんな形での事業政策、事業予算がですね、盛り込まれておりますので、ぜひ反映をさせていただければなと思っておりますので、よろしくお願いを申し上げながら、もう1点、お尋ねっていうか、政府予算案をみていますと、各カテゴリといいますか、ソースごとの概要説明があるわけですね。どういったことでこういった形での予算付けをしたのかといった部分の中で、武雄市の決算書ではですね、分野ベースというか、節別の概要説明書があるわけですが、ちょっと私がみつけられることができなかったかもわかりませんが、この予算書でも市民にもわかりやすいといいますか、見える会計、見える予算書といいますか、そういった中でのカテゴリ別のですね、概要説明書をですね、予算書のほうにもぜひ附帯させていただければ、よりよいですね、予算の中身

がですね、市民の皆さんにわかるかと思いますが、その辺の状況と考えはどうなのか、お尋ねをさせていただきたいと思いますが。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、私それ無理だと思ってるんです。やっぱりね、こう予算って、私でもねこれ三日三晩読み込んで、私も今までやってきたプロ中のプロなんですよ。なんで、それでもね、例えば特別会計とか、一般会計の中の入り繰りの問題とかっていうこととか、すごいやっぱ難しいんで、これをわかりやすくっていうのは、僕はちょっと実は無理だと思ってるんです。わかりやすくするためには、じゃあ何があるかと、この一般質問なんですよ。ですので、恐らくね、この議論というのは、まあちょっと予算案にかかると、まあいろんなね、しちゃいけないとかっていうのあると思うんですけど、僕はそのルールは実はおかしいと思ってるんですね。一般質問というのは、一般市政事務に関する質問だったら、別に僕は議案であろうが、予算であろうがね、もう聞きたいことは全部聞いていただいて、そこで我々がわかりやすく答弁するっていうことが、それは市民に開かれた、市民目線の僕は一般質問のあり方だと思ってるんで、ぜひ今度議会が新しい体制になったときはね、そこを考えてほしいなというふうに思います。

一番、なんっちゅうですかね、議会が我々、もう我々議会と心中ですよ、本当。そこが勝負だと思ってるので、そこでわかりやすくきちんと説明をする、それと、やっぱりね、議員さんが一般質問されるということは、それだけ市民の皆様方が関心があるという事項ですので、それについて我々がわかりやすくご答弁申し上げるっていうことが、一番の僕は市民の皆様方に対する説明のあり方だな、と深く認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

6 番 松尾陽輔議員

○6 番（松尾陽輔君）〔登壇〕

はい、非常に市民の方々もですね、見ていただいております。そういった中でですよ、私もちょっと今回は議案に出とるもんですから、なかなかこう突っ込んでですね、予算の中身まで、また具体的な数字までお尋ねしにくい部分があるもんですから、こういった中でお話しをさせていただいている状況ですけども、市長がさっきおっしゃった通り、逆に言えば、議案審議を前にして一般質問を後にすれば、もっと突っ込んだ、予算の中身をですね、一般質問の中で具体的にですね、ただしていけるというような形もあるかと思いますが、そういった中でもう少しですね、その辺の議案審議のあり方じゃないでしょうけども、その辺もですね、おおいに議論をしてですね、よりよい、市民にわかりやすい、その決算、また予算書ですね、説明を求めていきたいというような形で思っております。

それでは、次の質問に入らせていただきます。次は、超高齢化社会への対応について、当市の対策は具体的にどのようにされているのかということで、お尋ねをさせていただきたいと思います。

きのうもですね、上野議員より、高齢化社会への対応ということで、質問が出ておりましたがけれども、実際、わが国の総人口の推移ということで、ちょっと資料をよせてみました。ちょっと資料が平成 22 年ということですね、2 年前の状況ですけども、平成 22 年総人口が 1 億 2,800 万。2030 年、平成 42 年、あと 16 年後ですけども、1 億 1,700 万。2050 年、平成 60 年にはもう 1 億をきって、9,700 万というふうなですね、人口推移が出ております。また、高齢化率においても、平成 22 年が 23%、4.3 人に 1 人。また、平成 42 年には 32%。3.2 人に 1 人。また 2050 年、平成 60 年には 2.6 人に 1 人、39%というふうなですね、統計調査が出ております。

また一方、生産年齢人口の減少ということで、これも大幅にですね、あと 16 年後にはですね、約 1,300 万人の生産年齢の人口が減少というふうな統計が出ております。かたや一方ではですね、社会保障給付金の増加ということで、来年平成 27 年にはですね、122 兆円、また、平成 32 年、あと 6 年後にはですね、135 兆円。急増というような状況ですね。その社会保障給付費というのは具体的には年金、それから医療、介護、子ども子育てというふうな形が、社会保障の給付費に与えておる状況ですけども、こういった状況の中で、非常にこう、社会保障費が急増しているというような状況が見て取られるかと思いますが、武雄市にいたっても、きのうこれもですね、説明がありましたけれども、非常に高齢化が進んでいると。武雄市全体で高齢化率が今 26%。ただ、武雄市 9 町ありますけれども、9 町のうち、もう 5 町がもう 30%以上を超えているというふうな状況です。

また、独居の高齢者世帯、また高齢者のみの世帯というふうな形で見てみますとですね、9 町のうち 8 町がもう 20%以上がもう独居老人、また、高齢者のみの世帯、5 軒に 1 軒がそういうような状態ってことですよ。9 町のうち 8 町が、また、9 町のうち 2 町がですね、もう 25%、4 軒に 1 軒ですよ、4 軒に 1 軒が独居老人、また、高齢者のみの世帯があるということで、非常にこう、独居の高齢者世帯、また、高齢者のみの世帯が、全世帯の武雄市においては、21.6%、約 5 軒に 1 軒というふうな状況の中でですね、非常に、こう進んでいる状況が取られるかと思います。

そういった中でですね、現実的にこう、いろんな課題が見えてまいりました。要は、高齢者と家族という点ではですね、高齢者世帯が非常に多くなっている。要は、先ほど申しました、全世帯の武雄市の全世帯の約 2 割、約 2 割といたしますと、3,400 世帯ですよ、の方々がもう、ですね、そういうふうな世帯っていうか、高齢者の方のみで過ごしてらっしゃるというような状況です。

また、高齢者と経済状況というふうなところで捉えてみると、100 万～200 万の世帯収入

の方が約3割いらっしゃいます。一方で、1人住まいで、国民年金だけの支給となると50万～100万の未満の方もですね、相当いらっしゃるというのが現実であります。

あるいは、高齢者の就業ということで、特に農業・林業。特に農業あたりはですね、もう従事者の半分はですね、もう65歳以上ということで、もうあと数年をすればですね、もう7割8割が、もう農業に携わる方々が、ほとんどもう高齢化に至っているということ、あるいは、高齢者と健康と福祉ということで、1,000人あたりの約半分の方がですね、約1,000人のうち、約500人の方が、何らかの自覚症状を持っていらっしゃるというのが現実。

あるいは高齢者の方々の社会参加ということになってきますと、約55%が何らかのグループ活動をしていらっしゃいますけども、約45%、半分以下はもうですね、何も活動をしてもらっていないというふうな状況も数字的に出ております。

それとか、高齢者の安全ということでですね、交通事故、あるいはオレオレ詐欺といった、いろんなこう、課題が、さまざまな課題がですね、あちこち、地域の相談会、語る会をさせていただく中で、高齢者の方々からいろんな声が聞こえてきます。そういった中で武雄市、当市において今、るる申し上げましたけども、どのような形ですね、具体的に現状の課題と、また、どんな取り組みをされているのか、今一度確認をさせていただきたいと思っておりますけれども、御答弁をよろしくお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

山田くらし部長

○山田くらし部長〔登壇〕

武雄市の、高齢者の部分につきましては、先ほど議員、おっしゃっていただきましたように、課題ということで、独居、高齢者の世帯の増加、それから高齢者のみの世帯の増加、その辺が1番大きな課題かなと思っております。そういうふうな中で在宅でのですね、特別養護老人ホームの入所希望者の増加、そういうふうなものも課題だというふうに思っているところでございます。

あと、いろんな施策につきましては、昨日ですね、上野議員に申し上げましたけれども、その辺を踏まえまして、現在ですね、介護保険事務所のほうでですね、次期の介護保険計画に伴いまして、高齢者の実態把握調査が行われているところでございます。その調査結果を踏まえまして、武雄市のほうでもですね、その超高齢化社会への課題、そういうところを検証しながら、杵藤地区の介護保険事業計画、及び県の計画と整合性をとりながらですね、武雄市の老人福祉計画。現在は、24年～26年までの計画になりますが、次期が27年度からということになりますので、そういう計画にですね、反映させていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

6番 松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

はい。私もいろんなこうですね、市の対応、対策を調査をさせていただきましたけれども、特に、今後重点をおいていただきたいという部分に関してはですね、特に先ほども申し上げました、高齢者の就業状況。特に農業あたりはもう50%以上がですね、従事者の50%以上がもう65歳以上の方々と、いかに農業林業を守っていくかという部分にも十分な配慮っていうか、支援策をですね、行政としても取っていただきたい。

あるいは、高齢者の住居生活という面では、先ほど申し上げたように、もう4軒に1軒はもう高齢者のみの世帯、また1人住まいというふうな状況でですね、あと数年後にはですね、また空き家が非常に増えてくると、いうふうな状況がもう現実的に我が地域でもですね、もう出ております。そういった状況の対策をいかに講じていくのか。あるいは、経済状況、特に年金、国民年金受給者の1人住まいの方は、もう50万～100万、年間ですね、所得が。そういった中での対策をどう支援していくか、というふうな大きな課題が見えてきますもんですから、そういった方に関してもですね、具体的に策を講じていただければと。またそういった中で、今後ですね、今、骨格予算なもんですから、新たにですね、来年度ていうか、新しいもとでですね、政策課題がいろいろ上げられると思いますので、具体的この辺もですね、実際取り組んでいただくことを、切にお願いをさせていただきながら、先ほど、高齢者の増加によっての空き家が増えてきていますよと、というような形で非常に地域を回る中で、空き家が見受けられます。そういったわけで、空き家条例もですね、できはしましたけども、現在、当市での空き家状況がどういうふうな状況、何軒あるのか、またどういった形で掌握をされているのか、まずお尋ねをしていきたいと思います。御答弁をよろしく願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾政策部長

○松尾政策部長〔登壇〕

現状ではありますけども、ちょっとデータ的には古いんですけども。平成20年の統計調査によりますと、国全体で13.1%。佐賀県においては11.4%。武雄市におきましては10%の空き家があると。武雄市におきましては、住宅総数が約1万7,000戸ありましたので、率をかけますと空き家としては1,700戸。ただ賃貸住宅等の空き家もございますので、この辺を除けば約1,000軒というふうな数になっております。

○議長（杉原豊喜君）

6番 松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

武雄市ではおよそ1,000棟が空き家というな状況ですね、はい。そういった中でいかにこう民家ですね、また空き家を有効活用してですね、提供していくかという施策もとられてお

りますけども、なかなか全てですね、そういった活用というのは、非常に難しい状況が現実にあるかと思います。そういった中でですね、今空き家状況が市内に 1,000 棟あると、状況の中で、ちょっとこれはもう写真でですね、見せるわけにはいきませんが。危険なその空き家といいますか、特に通学路等にですね、かかった空き家が何軒か散見されます。

また地域の方から、どうにかならんとやろうかと、なかなかその地権者がいらっしゃるけれども、なかなかですね、撤去が難しい状況という状況が聞こえてくるものですから、そういった中で、その事故が起きてからは遅いわけですから、そこにその撤去費用を公費でですね、投入してっていうのは、ある程度のこう理由がなければ、なかなか公費を投じるわけにはいかんとでしょうけども。

通学路等のですね、危険な部分に関しては全部撤去ということじゃなくてですね、軒先っというか、だけでもですね。また状況によっては壁が倒れかけてるというような状況もあるものですから、そういった分に関しては、一部撤去をですね、強制的に行って、安全対策を講じるべきではないかという形で思っていますけども、いかがでしょうか。御答弁をよろしく願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾政策部長

○松尾政策部長〔登壇〕

特に危険な空き家ということで、情報をいただいている件数が 23 件ございます。このうちには、改善を依頼したりすれば、自主的に解体をされたりですね。現在解体中であったり、解体の意思があるという方も数件はいらっしゃいます。

特に通学路近辺等で、危険な場所にある分については、まあできる範囲で、ロープとかコーン等で近づかないような措置はしておりますけども、解体となりますと、あくまで個人の財産ということで、財産権等の理由によりまして、市が対応するというのが非常に難しいという面がございます。

今回、つくりました条例に基づきまして、まあ、助言とか指導、勧告を行いながら、どうしても改善のための資力がなくて、お金がないといった場合につきましては、助成といったような制度もつくっておりますので、まあ、そういう形で対応していきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

6 番 松尾陽輔議員

○6 番（松尾陽輔君）〔登壇〕

市内に 23 軒ほどあるという形で答弁をいただきましたけども、私も何箇所か回らせていただきました。そういった中でですね、早急にですね、対策っていうか、あくまでも私有財産の部分なものですから、所有者にはですね、早急な改善を促していただくとともにです

ね、いろんな対策を講じていただきたいと、いうことを切にお願いを申し上げたいと思います。

特にもう3月、4月は入学式ということでですね、新1年生達ももう登校し始めますから、いろんな形で対策、安全対策を努めていただきたいということを切にお願いを申し上げておきたいと思います。

また、一方、ちょっと視点を変えて話をさせていただきますと、やっぱ高齢化に伴って、要支援者、要介護者が非常にこう増えてきております。そういった中でですね、介護保険料も若干見直しがあったわけですが、この介護保険の事業でですね、福祉用具、それから住宅改修助成事業が実施をされております。福祉用具についてっていうか、福祉用具は便器とか、あるいは腰掛けですね。これはもう年間10万円を限度に支給助成がされております。

また、住宅改修においてはですね、手すりあるいは階段の格差の解消という、スロープあたりの設置ですね。それに関しては20万円を上限に、介護保険事業で給付事業がされております。

また、ちょっとなかなか知らない方もいらっしゃると思いますが、介護認定を受けていない高齢者の方にもですね、武雄市は単独で事業を実施をさせていただいております。転ばん住宅改修ということでですね。あるいは住宅改良事業ということで、支給限度額が16万円。あるいは、転ばん住宅改修ということでですね、助成が5万4,000円をですね、限度に支給ということで、これは武雄市単独で、介護保険事業とあわせて実施を、もう非常によいことだと思いますよ。

そういった中で、今現在、こういったですね、いろんな介護福祉用具、あるいは住宅改修補助事業が実施をされていますけども、今の利用状況がどうなのか、今一度確認をさせていただきます。御答弁をよろしくお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

山田くらし部長

○山田くらし部長〔登壇〕

介護保険の中での住宅改修事業につきましては、平成24年度ですけれども253件。福祉用具の対応につきましては6,310件。福祉用具の購入につきましては226件。それから、先ほど御紹介いただきました、市単独でのですね、住宅改良事業が1件。転ばん住宅改修が4件、いうふうになってるところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

6番 松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

住宅改修とか、福祉用具に関してはですね、身体が非常にこう不自由の方もさることながら、家族の方にとっても非常にですね、喜んでいただいている事業ではないかというふうな

形で、多くの声が寄せられております。

ただ若干、こう、視点を深めていくとですね——要は、住宅改修では、手すりあるいは階段の解消、また便座の取り替え等ということで利用が制限されているわけですね。ここにこう認知症の視点が、含まれているのだろうかと、ふと感じることがあったもんですから、今3月1日から3月7日まで、火災予防週間でですね、消防団員の方々はですね、警らでですね、回っていただいて、非常に感謝をしていただくところでございますけれども、認知症を抱えていらっしゃる家族の方とお会いさせていただいたときに、お母さんが若干認知でですね、自分が1人というような形で、火を扱わせられんと、そのガスを全てもう止めて外出せんといかんと。非常に認知を抱えていらっしゃる家族にとってはその火災が一番恐ろしいと、また隣近所にも迷惑かけるといった形でですね、全てガス栓を止めて、外出をせざるをえん状況の中で、認知症の方のですね、火災予防対応ということで、インダクションヒーティング、IHクッキングヒーターですね、の対応にもですね、ぜひともその補助的な形でですね、支給対象条件についてはですよ、所得制限とかいろんな条件、武雄市単独のですね、対象者に対する制限を設けていらっしゃると同様に、そういうふうな制限を当然、同じ扱いの中で、その認知症への対応もですね、こう火災予防という一面の中で、ぜひとも単独でもですね、検討していくべきではないかということで、これを切にお願いを申し上げたいと。特に認知症の方はですね、料理することが非常にこう認知症のですね、リハビリにつながるということもですね、統計的に出ておりますから、こういったこともですね、こう先進的に取り組んでいただければですね、非常にこう、また、住みたい田舎全国1位というような形の、非常にこうですね、好感というか非常にこう高齢者に優しいまちづくりができていくんじゃないかということで、提案をさせていただきますけれども、御見解をお尋ねをさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

山田くらし部長

○山田くらし部長〔登壇〕

IHのキッチンとか、クッキングヒーターについてということでございますけれども、現在の介護保険サービスの中では、先ほど議員、おっしゃっていただきましたように、調理器具は対象となっていないところでございます。まあ、そこで単独でというふうな話でございますけれども、先ほど言われましたように、認知症の方につきましては、料理をされるのが、まあ効果があるかもわかりませんが、1人でされるのはですね、さっき言われたように非常に危ないというふうに思っております。

例えばの話ですけれども、認知症の方につきましては、新しいことから忘れられていくというふうな形ですので、例えば今までガス器具を使っていた方が、IHというふうな形に反対に変えますと、なかなか覚えられないんじゃないかな、というふうな感じもしているところでございます。その辺御理解いただきまして、ガス器具につきましてもですね、

長時間同じような温度で加熱したら、自動的に止まるとかいうふうな形で、現在器具も進展しておりますので、単独での支給対象ということは考えてないところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

6 番 松尾陽輔議員

○6 番（松尾陽輔君）〔登壇〕

全ての課題に対応ということは、非常にこう財源も限られている中で非常にこう厳しい状況だと思いますけれども、実際福祉用具住宅改修というのは、特に住宅改修という部分に関してはですね、この辺までですね、今後の検討材料としていただければなということで思っております。

認知症の方も全国で約 460 万人といわれております。また、高齢者 65 歳以上の方では、約 15%程の方は認知で悩んでいらっしゃる。あるいは、その若年認知という方も非常に今はですね、増えているようであります。もう 40 代からもう若干認知症の状況が出てきたということの話も聞いておりますし、今後当市の課題ということでですね、御検討をしていただければと思いますので、どうかよろしく願いを申し上げておきたいと思います。

それでは、次の 3 番目、提案事業についてお尋ねをさせていただきます。まずはクラウドファンディングの構築をということで話をさせていただいておりましたけれども、以前一般質問の中で、民も官もというようなその経営のノウハウをですね、自治体も持つべきであるということで、自主財源の確保ということで、公用車に広告等を、あるいは、いろんなところでですね、特に今ではもう、市報にいろんなですね、企業の広告を載せていただいて、相当なるですね、収益というか、財源確保にもなっているかと思っております。聞き及んだところでは約、市報でも 200 万ほどですね、広告収入が上がってるということで非常に喜ばしい状況であります。

そういった中で、クラウドファンディング構築ということは、申し上げたとおり自主財源をいかにですね、確保していくかということで、新たな手法ですけども、要はいろんな賛同するアイデア、プロジェクトに対してですね、誰もがこう簡単に寄付や少額のもので、お金を支払って、同じその事業に賛同していくというふうな、協賛していくというふうなネット上の仕組みの提案ですけども、ちょっとこれが先進事例として、鎌倉市のもので、かまくら想いプロジェクトというふうな事業がなされてたものですから、ちょっとこう、事例を踏まえながら、こう研究を重ねていっとりましたけども、事務方とのやりとりの中でですね、今現に、いろんなこう寄付もあつとります。非常にこう喜ばしいことですね、特にこう学校関係の図書カードの寄付も大いにですね、あっております。

また、徐々にではありますけれども、今、全国的にふるさと納税もですね、非常にこう見直しというか、非常にこう、こういった特産品をですね、また、特典をですね、そのふるさと納税でですね、加えて納税をしていただくかということで、非常にこう起業、自治体同士

の競合が盛んになっておりますので、このクラウドファンディングに関してはですね、もう少しその辺のふるさと納税あたりの充実をですね、また私なりに研究をさせていただいて、次の機会があれば、次のときにクラウドファンディングの構築は提案させていただきたいと思います。

次に土地の利活用について、話をさせていただきますと、ここに平成 24 年度の武雄市土地開発公社の決算書が手元にあります。これが平成 24 年度の決算書ですね。非常に決算の状況をみてみますと、今、土地開発公社の資産がですね、約 10 億あります。そういった感じで、貸借対照表、損益計算書も、その決算書の中に綴られておりますけれども、24 年度の当期損失が 1 万 6,517 円ということで、なんとか最小限で損失がとどめられておりますけれども、決算書にはですね、含み益と含み損というのがあるわけですよ。含み益、含み損は、どういうことかと言え、例えば有価証券。今非常にこう景気が若干、右肩上がりです。上昇傾向で、今 1 万 4,500 円ぐらいですか。去年はもう 9,000 円台ということで、極端に言えば 9,000 円で株を買ってですね、例えば倍になれば、100 万で買って、倍になれば、200 万そこに利益が出てくるわけですよ。それが含み益。含み損と言え、逆のことですね。株を 1 万円で買って 5,000 円になったというマイナスですね。5,000 円それが含み損ということですね。土地も一緒のことですよ。

ただ、土地開発公社は、公会計でその固定資産の評価の仕方が若干こう民間企業の評価と違うところがありますけれども、非常にこう土地開発公社の決算書も中身的には、非常にこう厳しい決算の中身ではないかということで、これはもう以前にもですね、2、3 年前にも土地開発公社のあり方ということでですね、また決算書の見方についてもお話をさせていただいたことがありました。

ただそういった中で、年々ですね、固有財産も処分ですね、また今回、清本跡地もですね、民間の方が買われて複合施設が建設されるという話も聞いておりますけれども、今後、今現在の土地開発公社等ですね、保有財産等、今後どのような形で、また処分が全てなされるのかどうか、その辺がわかれば、まずお尋ねをさせていただきますけれども、御答弁をよろしく願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾政策部長

○松尾政策部長〔登壇〕

開発公社の資産の保有状況でございますけれども、本年度期首につきましては、先ほど議員さんおっしゃいましたように、簿価で約 10 億 2,400 万円。面積で言いますと、1 万 7,800 平米ほどございました。本年度処分をいたしまして、その売却差損については、今回の補正で、補填についてもお願いをしておりますけれども、それを踏まえまして、本年度の期末におきましては、残り 3 件、面積で 8,800 平米、簿価におきましては約 1 億 2,000 万というふう

な状況になります。できれば、平成 26 年度中には買い戻しも含めまして、すべての物件を処分していきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

6 番 松尾陽輔議員

○6 番（松尾陽輔君）〔登壇〕

今の保有財産的に金額として約 10 億というふうな形の中でですね、早期処分を見込まれるということですから、実質的には非常にこう厳しい決算内容を抱えた今の公社の決算内容ですからですね。もう早急に有効活用できる分に関しては、早急なる処分をしていただきたいということで、この辺で、決算の中身的にはとどめていきたいと思っておりますけども。

そんな感じでいろんな有効土地、まあ太陽光発電というような形です、いろんなこう、もう田んぼの中にも、こう太陽光発電の設置がされているということで、景観上どうかなというふうな形のですね、話もあちこち聞いて出ている状況ですけども、非常にこう、土地の利活用が非常に、盛んに行われております。

そういった中で、若木にもですね、旧若木村の所有地があるわけですよ、約 1,500 坪。ちょっとこう、山の中腹というか、小高いところに元の若木小学校の運動場の跡地ですよ。所有は若木村ですよ。今どのような形で利活用されているかというか、もう地元の方がそこでいろんなこう野菜作りにですね、やっぱこう、いろんな形で活用していただいております。ただもう年々つくる方も減ってきてるっていうふうな話もありながら、ここは今どこが管理しよるやろうかという話もですね、近所の方々からお伺いをされて、今すぐその、ということではありません。あと 5 年 10 年後ですね、そういった形で、現に若干、市もその辺は、管理というかですね、わからなかった場所だと思っておりますが、そういった形で、旧若木村のその 1,500 坪あたりを今後、区でもですね、利活用できるような形でですね、活用できるのであれば、活用させていただきたいという話もございましたものですから、そういった部分に関して、今後どんな形で、地域に利活用をしたらいいのか、また、地域でその辺の部分に関しては、利活用できるような形でですね、払い下げでもしていただければ、大いにですね、役立つものだと思いますけれども、その辺のお考えをちょっとお尋ねをさせていただきたいと思います。いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾政策部長

○松尾政策部長〔登壇〕

当該土地につきましては、申し訳ありませんけれども、こちらのほうとしても十分把握をできておりませんですけども、議員さんおっしゃいますように、現在は、近所の方が畑をつくっておられるというふうなことで、今後につきましては、耕作される間は、その方々の意向を十分に尊重すべきかと思っておりますけれども、その後の活用につきましては、地元のほうと

十分に協議をしながら、活用していきたいと、いうふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

6 番 松尾陽輔議員

○6 番（松尾陽輔君）〔登壇〕

今は、もう現に住める方が耕作をされておりますから、当然もう耕作をしていただいて結構だと思います。ただ、将来的にですね、そういった形でどのような形で、利活用というか、それはもう特に地元の方々の意向を踏まえての部分だと思いますけども、そういった物件もあるということですね、こう紹介をさせていただきながら、土地の利活用について、話をさせていただいたところであります。

続いて、代読、代筆支援の充実をということで、話を進めてさせていただきますと、これも高齢化の進展により、視覚障がい者、あるいは、視力の低下といったことですね、また読んだり、また書いたりというのが非常にこう、できない高齢者の方々も増えてきております。

当市では、活字読み上げ装置ということでですね、読めない方には音声装置でできますけども、平成 23 年の 7 月、改正障害者基本法が改正をされました。その中身を見てみますとですね、基本法の中には読み書き支援サービスを行う人の養成、派遣を自治体に求める規定が織り込まれておりました。それを受けて平成 25 年 4 月、障害者総合支援法の実施要綱にですよ、自治体が行う支援のひとつとして、代読や代筆が明記をされております、支援するということですね。そういった中で現在、どのような対応が、これを受けて平成 25 年の障害者総合支援法の要綱にうたってある代読、代筆に対してのですね、今の対応、また今後武雄市としてですね、プライバシーを保護すると、特に代筆の部分に関してはですね。プライバシーを保護するという観点も必要な点から、専門家の育成といいますか、その辺もですね、大事なところだと思いますけれども、そういった代読、代筆に対する、仕組みづくりといいますか、もし対応が若干まだ現実的にできてないということであれば、その辺の仕組みづくりをですね、具体的にすべきではないかということで、ちょっと御提案をさせていただきたいと思っておりますけども、今の状況と、今のですね、その辺の仕組み作りの検討に対しての御見解をお尋ねをさせていただきます。御答弁をよろしくお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

山田くらし部長

○山田くらし部長〔登壇〕

視覚障がいのある方に対する支援につきましては、同行援護サービスということで、外出とか、移動時、それに伴う外出先での、先ほど言われました、代筆とか、代読、そういうふうな必要なサービスを現在 8 名ほどの方が利用されているところでございます。

それと、あと法改正に伴いましてというふうな部分でございますけれども、そういう方の

支援員、そういう方の要請につきましては、県のほうでですね、義務づけをされておりまして、現在実施をされている、いうところでございます。

また、先ほど言われました、そういうふうないろいろなサービスを受けたいという方につきましては、市の福祉課、それから山内にあります市の相談支援センター、そういうところに相談していただければ、そういうふうなサービスの紹介、支援員の派遣を実施しているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

6 番 松尾陽輔議員

○6 番（松尾陽輔君）〔登壇〕

はい、ぜひともですね、十分な対応をよろしく願いをしておきたいと思います。特に、視覚障がい者、視力の低下という事で、非常にこう特に1人住まいのですね、高齢者の方に限っては、非常にこう不便を感じてらっしゃることが多々あるということと、また4軒に1軒は、また5軒に1軒は、そういう方々の世帯があるということですから、十分な配慮と、その辺の支援を十分な活用をお知らせをさせていただきながら、また我々も、その辺はですね、相談を受けたときに対応をさせていただきたいということで思っております。

それでは、最後の質問に入らせていただきます。「ふるさとづくり」推進についてということで、話をさせていただきます。要は、政府がですね、今回、国の支援策を網羅したといえますか、ふるさとづくりガイドブックということが示されております。中身的にはですね、人的かかわりに関する活動、また文化的かかわり、教育的かかわり、経済的かかわり、人と人との関係的なかかわり、という形で、いろんなですね、「ふるさとづくり」推進のための施策、また事業の取り組みが紹介をされております。

そういった中で、2点ほどですね、この事業の中で、お伺いというか、紹介させていただきながら、御見解をお尋ねさせていただきたいと思いますが、非常に教育的かかわりという分野の中で、非常にこう人口減少が地方としては一つの大きな課題ですね。そういった中で、その地域に住む高校生が中心となって行政や民間がですね、協力のもとで、地域資源を生かしたビジネスを立ち上げて、というふうな形の、立ち上げるための支援事業が、ここの教育的かかわりという分野で紹介をされております。現に、北海道の三笠市、あるいは、三重県の南伊勢町なんかは、こういった具体的な形で取り組んでいるようですけども、そういった中で、いかに、若者たちを地域に定着させるか。あるいは地域の活性化に結び付けるか。また、郷土愛の醸成というふうな形ですね、非常にこの取り組みが期待をされているところでもありますけれども、まずもって市内の高校生の在住率といえますか、高校生が卒業されてですね、就職あるいは大学進学というふうな形で、故郷武雄市を離れられること、多々あるかと思っておりますけれども、その辺が在住率というか、どのくらい、高校を卒業して、残っておられるのか、わかる範囲で結構ですから、教えていただければと思います。御答弁

をよろしくお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長。

○宮下つながる部長〔登壇〕

武雄市内の高校生が、どのくらい市内に残っているのかということで、武雄市内に限った調査ということについてのデータは、直接はございません。ただ県のほうがですね、集計をしております、高校を卒業した者の就職状況調査では31%の方が、就職をされまして、そのうち、41.8%が県外と、58.2%が県内に就職されてる、という統計データがございます。まあ、これを武雄市の平成25年の4月現在の544名に適応したとしますと、98名が県内に就職、71名が県外に就職している、というまあ、推計数値ではございますが、こういった数になろうかということで推定しております。

○議長（杉原豊喜君）

6番 松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

はい、非常にというかですね、県内県外ですね、重視されている方も多いようであります。そういった中で、先ほど申し上げた、いかに地域に若者をですね、定着させるかと、また、していただくかということで、高校生による地域ビジネス創出事業の支援を民間、また行政と協力のもとに、支援していったらどうかということで、取り組んでいる事業でありますけれども、約半分ですね。とくに周辺部、若木あたりも、捉えてみますと、もうほとんどのですね、高校卒業後がもう県外ですね、に就職というような形で、非常にこう若者が地元に残る率が少ない状況で、高校生による地域ビジネス創出事業の支援を、ぜひとも武雄市でも取り組みながら、そういったことが、地域の資源をいかに生かししながら、また生かしていくことによって、地域の活性化にも結びつける、というふうな事業を展開をお願いしたいと思っておりますけれども、これに対しての御見解をお尋ねをさせていただきますが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

まあ現在、高校生におきましては、就職体験というレベルのですね、いわゆる、産業体験と申しましょうか。まあそういうことについては、各校においてなされているようですが、これを、ビジネスを創出していくということになりますと、相当なノウハウ、こういうものを体験していく必要があるというふうに考えております。そういった意味で、高校生を対象にしたビジネスを創出するような事業の支援ということは、極めて難しい課題なのかなというふうに思っております、まあ、これについては、研究をさせてください。

○議長（杉原豊喜君）

6 番 松尾陽輔議員

○6 番（松尾陽輔君）〔登壇〕

はい、要は若者をいかに定着させるかというものに関してはですね、企業誘致も一緒のことだと思います。

また一緒のような条件の中で、いかに高校生を主体とした地域ビジネスを立ち上げていくかということもですね、同じようなですね、ことだと雇用にいかに結びつけていくかということで、非常にこう大事なところでもあるかと思っておりますので、ぜひとももう少し私も研究をさせていただきながら、要は、地域のですね、資源をいかに活用し、また活性化にもつながるというふうな、大きな事業の取り組みが期待されておりますから、よろしくお願いを申し上げながら、もう最後になりますけども、人と人との関係的にかかわりということで、以前、限界集落、準限界集落という話をさせていただいたことがあります。準限界集落というのは55歳以上の方がもう50%。限界集落というのはもう、65歳以上の方が、地域にもう50%を占めるということがもう限界集落。また限界集落から極端に言えば、もう消滅集落というふうな形のですね、もうそういうふうな話も出とります、現に。

ただそういった中でですね。非常にこう、高齢化人口減がこう、極端にはもう若木も、もう来月は1,800人をきるんじゃないかと。もうピーク時からもう半分ですよ。今1,802人くらいだと思いますけど、もう来月は入学、卒業というふうな形でですね、もう1,800人をきろうとしている中で、いかにこう活性化をしていくかということで、いろんな形で、振興協議会の中でもですね、対策を講じて一生懸命ですね、活性化に取り組んでいるところでございますけれども、先ほど申し上げた、その限界集落、準限界集落の抱えてる問題としては、その自治会、町内会、また子供会が、形成がもう困難な状況に陥ってくるっていうのがもう、目の前に迫ってきているのが、周辺部地域の現実でもあるかと思います。

そういった中でですね、その先ほど申し上げました中で、特別交付税措置としてですね、集落支援員制度の活用ということで、紹介もされておりました。その集落支援員というふうな形でですね、集落支援員のその役割というか、集落の状況、あるいは集落を点検していただき、課題を健全化してですね、その課題をどうやって具体的にですね、対策を講じて、歯止めをしていくかという形の中で、1人の雇用をすることによって、350万を上限に、交付税措置がなされるということで、紹介もあっております。そういった中で、5年、10年後を見据えてですね、集落支援員制度の活用をぜひさせていただきながら、またしていただき、そういうふうな形の5年、10年後を見据えたところの対策を今講じていかないと、もう現にそういった準限界集落、限界集落というのが発生し始めてる状況の中で、具体的に取り組んでいくべきではないかということで、最後に提案をさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

集落支援員制度ということで、これにつきましては、総務省が、平成 20 年から実施をしているということでございます。まあ専任で設置するとしますと、先ほど議員さんのほうから、紹介がありましたように、350 万円の特別交付税という形の措置という形になります。まあ現在のところ、昨年の 12 月の議会で、松尾議員さんのほうに、市長のほうから答弁をいたしましたように、まあ地域支援についてはですね、公民館機能の充実と。まあ、こういう形ですね、支援をしていきたいというふうに考えているところでありまして、その充実の中で、この制度ですね、集落支援員制度。この制度そのものが、適用されるのか、どうなのか、このところはもう少し調べさせてください。対象となるかどうかということの検討をしたいと思っています。

○議長（杉原豊喜君）

6 番 松尾 陽輔議員

○6 番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひともよろしく願いをしておきたいと思います。

周辺部という話もしましたが、準限界集落ってのは、もう中心部もそういうふうな状況が出てきております。そういった形で、周辺部だけの問題ではありませんので、中心部が若干郊外型というような形で、逆に言えばもうその中心も準限界集落というふうな形の、状況も出始めておりますから、非常にそういったところも目を配っていただきながら、全体です、浮揚と言いますか、武雄市の浮揚につながることをお願い申し上げて、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、6 番松尾陽輔議員の質問を終了させていただきます。

ここで、議事の都合上、10 分程度休憩をいたします。

休	憩	14 時 19 分
再	開	14 時 30 分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

きのうの宮本議員の一般質問の中で、宮下つながる部長より、追加の補足説明の申し出がっておりますので、それを許可します。

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

昨日の宮本議員の三間坂駅整備の答弁についての補足説明をさせていただきます。

三間坂駅前の南側の整備ということが案件でございましたが、私の答弁では、J R の長崎

支社のほうに問い合わせた結果については申し上げましたが、地元議員を通じての要望についてもあったということについては、答弁漏れをいたしておりました。

ただ、現地が県道である、それから余地がないということから、南側からの整備については極めてハードルが高いということで答弁をさせていただいたところであります。あわせて、北口のほうについてはですね、現在県道整備の際に、使いやすくなるような整備を県当局をお願いをしておるところでありまして、この工事が近日中に完成予定であります。

また、送迎の利便性向上という観点から、山内保健センター敷地内に、待合付きの送迎スペース、こういうものも確保しておりますので、ぜひ北側からの利用ということをお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

一般質問を続けます。

次に、24 番谷口議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。24 番谷口議員（発言する者あり）

○24 番（谷口攝久君）〔登壇〕

市民クラブの谷口です。最後の質問者になりましたけれども、時間、十分やらせていただきたいと思います。

私は今回、先ほど質問の中であっておりましたように、限界集落の問題。これがですね、町の真ん中におきましても、そういう問題があります。私に取り上げようとしておりましたのはですね、いわゆる中心市街地の再活性化についての中で、私はこの問題を指摘をしておきます。なぜかという、実はいわゆる商工業者の意味での限界とか、農業の限界集落とかっていうふうな意味とは違いまして、実は町の中心部でもですね、孤独死というのがいくつもあります。この1、2年の間に何件かの、そういうですね、本当にかわいそうな死がございました。そういうことはもう一つ、角度を変えて言いますと、要するに町の中のそういうですね、商店街の中でも、空き家対策の問題が出てくるような大きな問題の中で、中心市街地、町の中心部がですね、そういう状況になっているという実情の中で、そういう問題をですね、どういうふうな取り上げ方をするかと、どういう形の中でそういうものをですね、解消をしていくか、それも1つの大きな市政の課題だろうという気がいたします。そういう意味で問題の質問をしていきたいと思います。

項目の順番でいきますとね、教育行政、その中で特に学校教育の中の反転授業についてをですね、ポイントにおいて、お尋ねをしていきたいと思います。

また、歴史資料館と図書館の問題はですね、本当に避けて通れない大きな課題でございます。そういう問題の中で、いつも取り上げておりますけれども、さらに角度を変えて、こういう問題があるんだということを、指摘をしていきたいという気がいたします。

さらに文化行政と住民参加でございますけれども、やはりですね、町っていうのは住みや

すい町、住みたい町、それがですね、いかに日本一であろうが、日本2番であろうがですね、本当に住みたいと希望された方が、住んでみてよかったと思われるような町でありたいと。そういう気持ちから、まちづくりについての提言なり、あるいはものの考え方をお尋ねをしていきたいという気がいたします。

さらに、福祉の生活環境の整備につきましてはいろんな問題がございます。例えばですね、町の中で今一番大きな問題になっているのはですね、犬の問題と猫の問題です。本当に角度を変えていきますと、本当にですね、まさに野良猫の横行で、町の中の市街地がですね、非常に困っている状況。しかしそれも一面に考えてみますと、猫が増えたということは、猫を大事にしてくださる市民も多いということでございますので、そういうふうな問題についてもですね、どういう形の中で、行政として、していただかなきゃいかん問題もありますし、また市民が取り組まななきゃいかん問題もあると思いますけども、こういう問題があるんだということをですね、きちんと指摘、お示しをしていきたいと思います。

それからさらにですね、先ほど申しましたように、市街地がいわば限界集落的なですね、いわゆる農山村だけなんですよ、町の中もそういう状況であって、町の活性化がですね、失われています。そういうのを再活性化するためには、どういうものをやっぱり考えていくかということについては、やはり議会としても執行部に対してお尋ねをし、同時に、まちづくりのために共に頑張っていかなきゃいかんという気がするわけでございますので、この点についてもお尋ねしたいと思います。

それから先ほど言いましたように、住んでみたい町から、住み続けたい町、あるいは住んでいてよかったという、そういうですね、町にするためにはどうしたらいいか。単に道路とか、あるいは建物だけの問題じゃなくてですね、教育もそうですけれども、本当の人の気持ち、心の持ち方をやはり、このような中で問題として考えるべき課題があるような気がします。

最後に市長の政治姿勢についてお尋ねをするということで、今回1時間半の時間を十分に使わせていただきたいと、このように思って演壇に立ったわけでございます。

まず第1にですね、反転授業についてお尋ねを先におきたいと思います。この場所からお尋ねしてるのは、先般、私はですね、反転授業について、実は山内東小学校に参りました。しっかり勉強させてもらって、教育研究実習があっておりまして、本当にすばらしかったと思いました。単にですね、県内だけでなく、ほかの県からお見えになったような気がしますけども、いろんな方々が、現場の勉強にお見えになっておりまして、真剣にですね、研究がなされておりました。子どもたちも、なんと申しますか、公開授業ですね、物怖じすることなく、堂々と、しかも本当にこう楽しい学習状況だったような気がいたします。

ただ、その中にも問題点がいくつかございました。そういうの含めて、お尋ねしたいと思いますが、現在ですね、この反転授業の、この間のなんと申しますか、公開授業についてで

すね、どういうふうな感想、考えをお持ちですか、それをお尋ねしていきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

1月に山内東小学校で2回目の反転授業を行ったわけですが、そこには、第1回目初めて武内小学校で行われたときの課題解決という問題をひとつ大きく取り上げました。

何が、武内小学校のときに課題だったかというです、その先生方が予習でつくるコンテンツが、やっぱりすごく時間と労力がかかったと。これを、より効率的にやるにはどうした方がいいんだろうということが、大きなテーマでした。ですので、山内東のときには、それを多分ですね、武内のときは、企業とのやりとりは30回くらいあったかと思いますが、それをかなり激減して4回くらいのキャッチボールでコンテンツがうまくできて、今度はそれを持ち込んで、より話し合い、学び合いが上手くできる授業なんだろうと、いうことで効率化とさらに授業の充実ということでテーマとしてやってきました。その点で言うと、その2つともにですね、ずいぶん第1回目の武内小学校の反転授業よりも、課題が解決され、また向上も見られたというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

24番 谷口議員

○24番（谷口攝久君）〔登壇〕

私もですね、授業に、部屋に参りまして、片隅から勉強させていただきました。本当に子どもたちも本当にこう、生き生きして、先生方もですね、本当に意欲的な取り組みをなさっていることを感じて、本当にすばらしかったと思います。

ここにお見えになってる各学校の先生方っていいですかね、関係者の方々もですね、うんうん、と一生懸命ですね、こう、うなずきながら聞いていらっしゃいました。主に私はああいうふうな形の中ですね、まあいわば、復習、あるいは、予習、復習することによってですね、子どもたちのその学力の向上とか、それからまたいろんな問題、ものの考え方に対する、非常に幅広い分析ができると、それが大きな成長に役立つだろうということについてはですね、すばらしかったと思いました。

ただ1点ですね、気になったのはですよ、もう、あんなに一生懸命子どもたちしているんですけども、確かにですね、山内の子どもさんたちはですね、非常に感心したことが2つあったんですよ。1つはですね、授業の中身の前に、1つだけですね、もう本当にこうすばらしいなと思ったのはですね。私は高齢のために、のろのろ運転で運転して、どっかに駐車をしようとしたわけですけどもその時に、雨がもう降り出しましてね。駐車場もちょっと少しあれだったんですけども、子どもたちがですね、ちょっと停車して、こう、駐車場を探してますと、2、3人の子どもが来てね、こっちがいいです、こっちですよって、丁寧に教

えてくれるわけですよ。あいさつもいいですね。あの学校ですね。ほかの学校もそうだと思いますけれども、私はね、こうなんかこう、心温まる気持ちで会場へ入りました。そういうふうな状況でございまして、やっぱりこの学校がいわゆる、何て言います、ほかの学校もいい学校でしょうけども、まあ、そういうふうな公開授業にですよ、本当にぴったりの学校だなという気をして、私も——ただ1つだけ気になったのはですね、勉強においでになった、各参加者の皆さんのことだったわけですよ。

各学校の先生なり関係者の方々も一生懸命ですね、勉強で。尺度はよくわかったんですけども、ちょっとですね、例えば、じゃあこの問題について、と言ったときにですよ。子どもたちがタブレットで集団で、グループでやりかかったときですよ。カメラのフラッシュがするわけですよ。そうするとですね、大体1つの部屋にですね、大体100人から200人近くの人がこう詰めかけてらっしゃいますから、一斉にカメラが。そしたら問題が提起されるたびにカメラがピカピカピカするわけね。1回に、100ちょっと80人が撮影スタートされてですよ、しとるんで、160、ニハ16、160ぐらいのですね、カメラのフラッシュの中で、子どもたちはなんか一瞬戸惑う状況でした。しかし、30分くらい経ったらですね、大体もう慣れたんでしょうね、そういう気持ちだったからほっとしましたけれども、そういうふうにやっぱり、ああいうふうな公開授業ちゅうのはそういうもんだろかなという気はしたんですけどもね。その点はどうなんですか。実施されるのはわかります。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっとやっぱこう、認識が違うなと思いますね。私もまあ多くの議員さんもお越しいただいたときに、あの人数でよく平穩にできたよねっていうのが、私たちの認識だったんですね。これは当時いらっしゃった古川盛義議員さんも、同じことをおっしゃっていたっていう記憶があって、まあ、確かにカメラもあったんですけど、それはかなり、お越しになられた方々が、意識が高い方々が多かったので、僕もあとで、子どもたちと話しましたが、なんか邪魔なっただけで聞いたら、いや全然って言うので、まあもともと、山内東も武内小学校も慣れてるんですね。はい、もう非常に慣れてますので、そこは、子どもたちをもう少し信頼されたほうが僕はいいと思うんです。

確かにね、そうは言っても、あれだけの人が、こう200人、300人お越しになるっていうのは、ちょっとやっぱ想定よりはるかに超してましたので、これについては、先の一般質問でもお答えしましたが、今度12校かな、小学校は、11校。11校に広がっていきますので、そういう意味でこう、オープンデーをもう少しやっぱこう、多くすることによって、だんだん、こうお越しになる方々が、やっぱお越しになる方々も慣れていきますし、その量もお越しいただける数もね、少なくなっていくと思いますので、まあそこはわたしは全然心配

はしておりません。

ですので、そういう意味で言うと、私としては、まあ、ただそうは言ってもいろんな感じ方がありますので、それを一概に否定するつもりはないんですけれども、私自身はずっと見えて、まあよく抑制が取れた自律的な対応をお越しいただいた方はしてくださったなっていうふうに認識をしておりますし、繰り返しになりますけども、子どもたちもね、なんか喜んでましたよ。テレビ局のカメラ指して、これ全国放送ねって聞いてましたもんね。まあだから、我々が思っているよりたくましいということです。

○議長（杉原豊喜君）

24 番 谷口議員

○24 番（谷口攝久君）〔登壇〕

市長はなんか、角度の美しく曲がった考え方をされるなと思うんですね、私は。私が、申し上げてるのはですよ、そういうふうな子どもたちの真摯に頑張っている姿、それから反応、そういうものについて、私はすばらしかったと思ってます。それを申し上げているわけです。ただ、せっかくであればね、本当にカメラを持つ人たちも要は1回、2回それを写してその結果をですよ、持ち帰って、みんなにこういう状況だと報告してあげたい。それはわかりますから、私も写してると思いますよ。しかし、そういう状況でなくて、そういう状況がもう時間中続いたわけですから、極端に言えばですね。そうなったときに、やはり、研究授業発表の仕方についてもですよ、やっぱり子どもたちのことを考えていくことが、モルモットとかあるいはですね、そういうふうないわゆる観客のための授業勉強してるわけやないわけですから。そういう点をですね、せっかくのすばらしい行事がですね、そういうことで残念だなと。子どもの立場に立ったとき、あるいは保護者の立場に立ったときそう思いました。市長はね、子どもはそれは、むしろテレビに映ったとか、喜んでましたって表現されますけれども、私はそういうふうな子どもの対するものの考え方じゃなくて、私なりの考え方でお尋ねしているわけですから、できればもう、市長よりも、教育長から御答弁をいただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

実際に、2回目の山内東の来校者数、350名ですね。当初ですね、1回目の武内小学校のとき200名だったので、そんなに来ないだろうというふうには思っていたので、その部分でいうと、さらに1.5倍ということに関しては、少し見込みが甘かったなというのは正直反省をします。

実際には、武内小学校のときにはサテライト教室で、その教室に入らなくても見れるような環境整えましたが、山内東のときにはですね、4教室もあるので、まあ何とかなるだろう

というところの、少し見込みの甘さについては反省をしております。

ただ、前提としてですね、それだけ注目を浴びているということ、肯定的にとらえておりますし、また大勢の方々がいる中で、先生も授業をする、子どもたちも堂々と授業をする、いうその機会については非常に大事なかと、いうふうには思っています。ただ、その大人達のマナーに関しては、もう少し事前に配慮をするようなやり方もあったかなというふうには思いますが、繰り返しますが、ちょっとこんなに多くも注目を浴びてくれるというところの、想定外の部分があったので、以後は、来年度以降は配慮してきたいと思いますが、先ほど市長の答弁にありましたように、来年度からは11校に広がりますので、その負担はずいぶんもう、最初から軽減されるんじゃないかなというふうには思います。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

24番 谷口議員

○24番（谷口攝久君）〔登壇〕

まあ誤解はされないと思いますけど、私が申し上げてるのはですね、そういうふうな学習効果っていいですか、それからまたそのこと自体はすばらしかったということ、評価した上での話ですから。ただやはり、観覧者のマナーですね。みんなそういう学識、経験、子どものための気持ちを御存じの方ばかりの集まりでしたから、あまりにもですね、すばらしく、賑やかなフラッシュの中で、子どもたちが戸惑いがなかったのかと。しかしあれを戸惑いなくしたというのは、やっぱり山内の子どもたちはすごいですね。そういうふうな気持ちがいたします。この点についてはこの程度でいいですよ。

問題としてはですね、今後そういう授業がですよ、どういう形の中で進められていくかですね。ちょっと、前段のですよ、前段のつちゅうか、この今回の一般質問の中でもそれについてお話をあつておりましたからですね、あえてそれ以上申し上げませんが、そういったような取り組みの中で、やはりそういう予習復習というものについてね、やはりこう、保護者の方で考えている中には、こういう問題があるんですね。例えば、じゃあ学校でどういうものを予習してくるかの勉強、あるいは復習するかっていう問題点は指導していただいていると思いますけども。やはり最近はですね、少子化とかの関係でいわゆる兄弟がいないからですね、兄ちゃんと妹と話すとか、お姉さんと話すという機会の少ない子どもたちも結構いるんじゃないかと気がするわけですよ。そういうときに、学校から帰った後ですね、いわゆる保護者さんとの勉強の仕方、そういうものが、いっぺん慣れてくると、親なんか邪魔になるぐらいに子どもたち一生懸命なと思いますけども。

しかしそういう点についての配慮とかですね、そういうものはどういうふうになっているかですね、その点をお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

ただいまの質問については、後ほど教育監から、説明いたします。先ほどのマスコミとか参観者のことについてですね、2点だけお話をさせていただきます。

武雄市の各学校では、非常に研究事業等頻繁にさせていただいております。大変ありがたいと思っておりますが、このときには、必ずその学校の子どもたちのために一番役に立つものでないといけない。その学校の先生方のために役立つものではないといけない。参観者は2の次だという言い方で、すべて進めてきております。

それから、2つ目はですね、マスコミとか参観のフラッシュ等々ありますけれども、反転授業の場合は家庭との関係もありますので、取材については、厳しい指導を教育監からしてもらっております。行き過ぎがあった場合には、実際に私のほうに謝罪に来てもらったこともあります。

そういう形で、今後もですね、取材等、あるいは参加の仕方については、お互いに注意しながらやっていきたいというふうに思っております。

〔24 番「議長、24 番」〕

○議長（杉原豊喜君）

答弁いいですか。

〔24 番「あ、失礼しました。どうぞ、ごめんなさい。おねがいします」〕

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

家庭での関係性という御質問だったと思いますが、まずあの反転授業の一つのいいところというか、特筆すべきところは、従来の勉強方法だと学校で教科書の 26 ページから 48 ページまで読めなさいというのが、スタイルだったんですが、タブレットで音声と動画ができるということで、これが家庭で、お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさんと一緒にできるという機会が視覚、目で見える形でできるというのは大きいと思いますので、よりその家庭での、どんな勉強をしてるんだろうと、いったところの共有であったりとか、学校に対する興味関心の湧いている部分では、非常に有効な勉強法だというふうに思います。

さらにですね、逆に言うと、そういう家庭での連携を前提とすると、やっぱりもう一つの不安としては、そういうことができない家庭に関してはどうするのだと、というような御不安もあるかと思いますが。これについては、今、家庭ではどうしても難しいという子どもたちに対しては、その前日の放課後児童クラブ等ですね、地域の人たちが教えていこうというような体制をつくろうというふうに思っていて、どうしても、やっぱり家庭での勉強が前提になりますが、そうした環境が整わない子どもに対しては、セーフティーネットをつくっていこうというふうに考えています。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

24 番 谷口議員

○24 番（谷口攝久君）〔登壇〕

今、教育長と教育監の説明受けまして、そういうふうに、いろんなこう取り組みをしていただいていることについてですね、わたしも安心、安心とおかしいですね。十分、理解をいたしました。

ただあの、やはりあれだけの人に囲まれて、研究発表するということになりますと、さすがにですね、子ども達も戸惑いが全くなかったとはいえないような気はしましたけども、それも体験ですものね、確かに体験ですから。あれ以上のことが、あれくらいのことが滅多にあるかといえ、ないもんですから、多分ですね、素晴らしい体験になったと思います。そういう意味ではですね、やっぱり子どもたちの成長にはプラスになると、いう気はいたします。

問題はですね、今度は学校教育に関連して、タブレットの件はとりあえず結構ですけども。実はですよ、今度は中学校の問題に関連してまいりますけども、実は、今、青陵の中学校があります。何年か前に、高校から切り替わったわけですけど。そういうときにですね、実は中学校の教育の内容等についてですよ、結局県立の中学がなくなったとします。そして、私立の中学校とか、それからまたほかの市外、県外の中学校に行く子ども達とか、そういう問題がですね、あ、早稲田がありましたね、もう一つね。そういうふうな問題等がですね、いろんな問題が関連して出てきて、武雄の中学校の生徒たちの進学状況ですね、中学、高校、そしてまた大学進学の状況等についてですね、やはりいろいろと、こう何といいますか、保護者としては危惧、心配していることもあるようにお聞きしておりますけども。現在中学校から高校に進学する状況ですね、そういうものはいかがになっていますか。資料は請求いたしておりますので、お知らせをお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

中学から高校でありますけれども、地元の武雄高校、そして近隣の杵島商業、有田工業が多くて、嬉野、それから塩田工業、白石、そして伊万里方面の各校というふうな進路状況でございます。これは、皆さん方、考えられてその状況というのは、御理解されている状況かというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

24 番 谷口議員

○24 番（谷口攝久君）〔登壇〕

今、教育長から答弁いただきましたけれども、私が資料としていただいたものの中にですね、武雄高校、青陵高校、武雄市内の高校、前までは3つあったわけですけども、現実には

今一つですね。

実は先日、県議会の一般質問の2日目に、私佐賀県庁県議会に行って傍聴にまいりました。その中ではですね、あとでこれは質問しますけれども、文書館の問題と、それから高校再編の問題等が質問の中で出ておりました。やはりこう市民の中にもですね、いろんなそういう問題についての大きな関心があられるようです。

私の質問の前に、上田議員さんも高校の進学の問題等についても触れておられましたけれども、実はですね、この中学校の青陵中学校が、いわゆるできたときにですよ、武雄市内の中学校の子どもたちの3年生のいわゆる先生方の中ですね、やはり学級経営なり、いろんなですね、子ども達の学習なり、そういういろんな部活を含めたことについてですね、いろいろと悩みがあり、問題が、問題っていうか悪い意味での問題ないんですけども、問題点がいろいろあるような気がしたというふうな感じを、私たちはPTAの方やいろんな保護者を通じて、そういうことをお聞きしましたけども、現実問題として例えば、じゃあそのAという学校から、例えばじゃあ頑張っている子どもは、いきなり、その学校の中学校に行かないで、県立の中学校に行くとかですね。そういうことによって、中学校の、武雄市内の中学校の学級経営とか、そういうふうなもの、子どもたちのいわゆるそういう何ていいますか、動揺とかですね、あるいはまた、学習の効果充実というものに、影響がいろいろあるんじゃないかというふうなこともお聞きしますけども、その点についてはどうなんですか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

青陵中学校の進学についてですが、これはこれまでの議会等でもさまざまに御意見をお聞きしてまいりましたし、小学校での進路の指導というのは、青陵中ができてから、本格的に必要なになったという状況は確かにあります。

ただ、各中学校とも校長先生方中心にですね、地元の中学校でもこんなに楽しいんだと、元気出るんだという形でですね、いろんなことを頑張って特色を持ってですね、精一杯頑張っているという形に、ですから、まあ進路の選択をされるという形に、なっているかなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

24番 谷口議員

○24番（谷口攝久君）〔登壇〕

私の手元にある資料ではですね、平成15年から17年度までについてはですね、それぞれ高校進学、武雄高校、武雄青陵高校、市内の高校ということになっております。ですけども、中学校についての資料はですね、やっぱりその3年間は青陵中学の名前が出てまいりまして、記録がございませんけども。とにかく、やはり中学の生徒自体が減少している、人口減で減

少しているという中で、そういうふうな、各武雄中学あるいは各周辺の中学校でもですね、そういうふうな中学から進路指導——小学校の進路指導の問題が出てくるという問題があって、そういう、どういうふうな取り組みをなさってるかですね、教育の内容に関するものですから、私達は全幅の信頼を置いてお任せするしかないわけですけども。

実は、県立高校の再編問題が出てきたときにですね、実は本当に中学が武雄からそういう青陵中学ということになったためにですよ、その武雄中学の生徒。あるいは北方ですね。それから山内の中学の生徒。そういうふうな方々、北中もそうですけども。生徒からですね、そういう、例えば青陵中学校に進学するため、あるいはいわゆるその次の大学進学を絡めての話でしょうけども、そういうふうな問題で、市内の中学の生徒の中からそういうのが、そうした子たちが選抜されていくということになったときに、なんかこう子どもたちの学習の方法とか、あるいは地域の状況とかってっていうものに影響はあるんじゃないかとか、そういうふうな問題もいろいろと一部お聞きしました。

私も体験がありますけども、私は武雄の中学校、旧制の中学校があったときですね、進学をしました。でまあ、私は話し下手でしたから、実は口頭試問で落ちまして、高等1年っていう、昔はですね、小学校6年からあとはですね、高等1年、2年とあったわけですよ。高等1年に行って、また改めて中学に受け直して、武雄の中学校に入って高校、学制改革で切り替えになって、ていうふうな形の、いろんな体験を持ってるわけですけども。その中で、やはり中学校に友達が入ってしまったら、高等1年——尋常高等小学校の6年、7年生っておかしいですね。1年生になったときにですね、学級の状況というのが、雰囲気はずいぶんやっぱり違って来たわけですよ。そういうことを考えましたときに、そういうものに対する対応はね、1つは学校の対応と同時にですね、実はもう一つ大きな問題があるのはですね、武雄から人材が遠くに行ってしまうことやなかろうかと。地元の学校に行って、自分のところの家業を継ぎ、あるいはまたそういうふうな地域の仕事に就くっていう人達がですね、今度は、じゃあ県立の高校行った、あるいは県外の高校に行ったということの中で、そういうふうなね、いわゆる次の世代の人たちの人口の流出があるんじゃないかなろうかと、そういうふうな問題も当然出てくるわけです。その年はね、わずかに20名か40名か50名であったにしてもですよ、どんどんどんそれが、そういうふうな方が外に出て行ってしまうということになると、やはりこれもですね、人間も大きな武雄市の資産ですから、市にとってはですね。そういう問題も出てくるんじゃないかっていう気がして、あえてお尋ねをしてるわけです。

県での論議はですね、県立高校の再編に絡んでですね、どうしてもですよ、武雄だけですよ、高校が1つしかないのはね。御指摘、この間あったように武雄だけしかないんですよ。今まで3校あったのがですよ、女子校も含め3校あったのが、今武雄高校1校になっていると。そうするとですね、鹿島もいくつもありますよね、伊万里も唐津も、もちろんですね。

そういうふうにして、周辺のところには、みんな高校が2つ以上あるわけですから、そうなったときに、教育を中心的な役割を果たした武雄がですよ、本当にですね、いわゆる単に高校が1つしかないことだけが問題ではなくてですね、そういうことによって、人材の流失とかですね、そういうものが、起こってんじやなかろうかと、起こる可能性あるんじやなかろうかって気がします。

そこで、高校は今再編によって、きのうの話の中でも高校増やしたりすることに対しては、いかがかってというような話等も、いかがかっていうか、その可能性の問題については言及をそれ以上されませんでしたけども、本気でですね、例えば企業誘致をですよ、例えば大企業を誘致して、あるいはまた一生懸命頑張ってもらって、そしていわゆる経済を活性化するとか、市のそういうのも浮揚させるということも大事な課題ですけども、教育環境を整備することによって、人材が武雄に残る、あるいは武雄からそういうですね、教育を受けて出ていくというですね、そういう問題がですね、前の質問者も申しておられましたように、そういうふうな大きな問題がやっぱあるんですよ。だから非常に地味に見えても、これはですね、本当に武雄が宇宙科学館をつくったときの運動のように、あるいは歴史資料館運動を展開したときのようにですね、もう市民運動をしてでもですね、今からどうしても高校再編問題はまだ出てくるわけですから、絶えずくすぶってる課題ですから、その問題、その取り組み方についてですね、どういうふうにお考え、これを市長にお尋ねをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

たくさんの質問が入ってございましたけども、最後の質問についてお答えしますと、再編につきましては、武雄市の場合、1校になっておりますので、表に出てこないわけでありまして、私としましては、杵島商業とか、有田工業、嬉野につきましても、学校別にみますと、地区別にみますと、武雄からの子どもたちの率っちゅうのは非常に高いわけでありまして、通学、あるいは経費等の面から考えましてもですね、注目しているところであります。

特に合併を計画してあるような学校につきましてはですね、また今後もですね、来年の10月ぐらいがめどと聞いておりますけれども、また考えていきたいというふうに思っております。

〔24番「市長はどうですか」〕

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

教育長と同じであります。

○議長（杉原豊喜君）

24 番 谷口議員

○24 番（谷口攝久君）〔登壇〕

教育長と同じ考えということございますので、そういう問題についてはね、もう本当に市をあげて取り組みしていただきたい。

そしてまた、本当にこう、これだけですね、知名度があり、元気のいい頑張り屋さんの市長ですから、みんな市民がバックアップして、全部ですね、本当に武雄に教育環境をもう一つつくりたいと、そういう運動をですね、本当にこう全市一丸となってやれるテーマですから、その点についてはですよ、やっぱり今から取り組みしとかんとですね、そのときになって追いつかんのですよ。そういう気持ちがあるもんですから、あえて質問の中に加えさせていただいたということでございます。

とにかく、そういうことで、前向きに取り組んで思い切ってやっていくと、そのために市民を結集してやるのはですね、喜んで私達も参加します。そういう気持ちでございますので、ひとつ前向きに思い切った活動をしていただきたいと思います。

次に移ります。ここにですね、先ほど申しましたように県立の公文書館の話が出てまいりました。私、きのうですね、あるお葉書をいただきました。古藤さんという方で、県の教育長をなさった方です。そしてですよ、同時に今はですね、どういう立場でお手紙をいただいたかっちゅうと、県立の公文書館をつくる会の会長さんをしていらっしゃるということでございます。

私は、樋渡市長が就任されて間もなくですね、実はこういうことをお話しを、提言をしたことがございますが、お願いしたことがございますけども。武雄にあるですね、いわゆる、古文書とか公文書、特にですね、合併によって各市町村が抱えていたそういうふうな古文書なり、公文書っていうものがですよ、散逸してしまうと。活字でとじてあるのはですね、紙だって紙質ボロボロになってまいりましょうし、いろいろ問題ありますね。製図も、それをその電子と言いますか、そういうふうなその新しい技法で、いわゆる紙じゃなくてですね、そういうふうなもので収録するというそういうやり方が適正ではないかという論議は今まであっております。私はそのときに、ちょうど合併によってですね、山内もたくさんの資料がありましたし、北方も武雄ももちろんございました。それぞれの行政資料を含めた公文書が、それぞれ十分に保存されていれば結構ですけども、なかなかですね、そういうのもずっと1つの場所で保存するのは大変だということ、恐らくですね、役所は大体、何年以上になるとそれを処分するという形であります。昔はそういうものについてですね、まあいわゆる記録としてはですよ。そういうふうな、なんと言いますか、ファイルに入れてっていうことがですね、できなかった時代でしたから、なかなか大変だったと思いますけども。そういう中で、いつか申しましたように、例えば私、この間県立図書館のほうから、非公式にで

すね、私が持っておりました、いわゆる武雄市がですね、幕末、あと明治維新のときですよ。武雄が、佐賀県がですね、もういわゆる伊万里県になったり、長崎県になったり、三潁県になったりしてですね、もう県そのものがなくなった、なくなろうとしたときがありました。そのときのものをですね、私は一ノ瀬家ですね、古い家ですが、昔貴族の町長さんの家から預かっておりました、いわゆるそういう教科書がですね、長崎県立、県の武雄中学校という、大きな公印の押さった資料をですね、市長にお見せして、そのときにこういうものが、大事なものがあるから、ちょっとそれを収蔵し、あるいはなんですかそれを含めてですね、ほかのところの、もう全国からでも集めても、そういうですね、まあ体育館をですねいくつもつくったぐらいの、いわゆる公文書館とか収蔵施設をつくることによって、それも観光事業や学問の振興に役立たんだろうかっていう提言をしましたけれども、そのときはできませんでした。しかし、あれから9年たちましたから、もう一つ課題としてですよ、取り組んでいてもいい問題じゃなかろうかという気がしたものですからで、あえて、県立の公文書館ができる前に、武雄で公文書館を開いて、とりあえず県ができるまでうちが預かりますよと、そういうふうな、ものの考え方っていうものをですね、できないんだろうかということで、市長にお尋ねをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

やっぱり昨今の市民の皆さん達の意見を聞くと、やっぱり消費税が上がって生活がしんどくなる。あるいは、これから子どもたちが大きくなって、学費に物すごい額がかかってくる。しかし一方で所得がそんなに上がらないといったことがある。ですのでそういった意味で言うと、優先順位からすると、僕は全くそれは否定するわけじゃないんですけれども、まあかなりやっぱり低いですね。やっぱり、行政というのは360度、森羅万象やっぱりしなきゃいけないし、それは予算を伴う話でありますので、優先順位をちゃんとつけてやっていきたいと。

そして、やっぱりですね、まだまだ借金がもうたくさんなんですね。そういった今、箱物をつくるとなると、それはやっぱり20億30億かかってしまうと。これは恐らく議会もそうですけれども、果たしてその市民が、本当にそれに対して、そういった公文書館に対して、いいぞ、ということをおっしゃってくださるかどうかっていうのは、私は、甚だ疑問なんですね。全く否定しているわけじゃないんですけれども、そういったことで、私は、やっぱりもし次を担わせていただけるとするならばね、市長着任した8年前に、市長着任したときの420億の借金を今300億近くまで返しています。

そして、基金の総積み増しも80数億円を今113億円まで積み上げています。そういった中で先ほど申し上げたとおり、政治っていうのは優先順位の話です。ですので、それをやっ

ぱりこう、困っておられる方々に、きちんとその配分をするということが、やっぱり今一番先なのかなということを思っております。ですので、私が今、まあ次どうこうするっていうのは、もうここで、一般質問で私が言える話ではないですので、私の考え方とすれば、優先順位としては極めて低いということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

24 番 谷口議員

○24 番（谷口攝久君）〔登壇〕

武雄市が財政的に、まあ優先的にほかの施策をするということについてはですね、結構ですよ。それはそれで優先順位があるでしょう。ものの考え方は、武雄市のお金を使うという判断からするから、そうことになるんじゃないですかね。私が申し上げたのはですよ、前段申し上げましたように、例えば県立の宇宙科学館をつくるときは、県立ですね。武雄市が出したお金は、ほとんど、あんまりありませんよ。あれ 100 億近く県が出しました。今度公文書館をつくらにやいかんと、県内いっぱい声があるんですよ。だから佐賀につくらんで武雄につくってくれという運動を、市長さんならできるんじゃないかなろうかという気がしますけども、いかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は、むしろそれよりも白岩の体育館。まあこれは先の議会でも申し上げましたので、これ申し上げていいと思うんですけども、例えば白岩体育館であったりとか、あるいは武雄市の文化会館で、よくよく考えてみれば佐賀県西部にそういう県立あるいは、県と市が出し合った複合施設っていうのはないんですね。ですので私はそっちを優先しようと思ってます。

これはもとより、一応これ議会、優先順位というと先ほどちょっと私がね、すごい上から目線で申し上げて恐縮だったんですけども、これ議会とよく相談する話ですので、議会と優先順位をつけてやっていきたいと。そして私も、何度もお願いもしたこともあります。いろんな事で、国にいたときはお願いを受けた場面もございます。自治体さんから要望を受けて、例えば県とか府とか都から要望を受けて、査定をさせていただいたこともあります。そういった中で、あれもこれも要望するようなどこってのは、もうはなからもう問題にしないですよ。ですので戦略的に、武雄市としては、これこれを優先したと。それがかなうかは別にしてもね、そういった中でも優先順位っていうのは、そういう公文書館については否定するわけじゃないんですけど、極めて低いということを、申し上げたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

24 番 谷口議員

○24 番（谷口攝久君）〔登壇〕

まあ今の市長の考え方はそうだと。しかし、あしたになると変わらんもんでもないですから。要するに問題はね、市民の気持ちがそこに一致すればですよ、市長はせんわけにはいかんでしょからね、極端に言う。まあそういう表現はおかしいですけど、ちょっと今の表現が適切じゃないですね。要するにそういうふうに、市長にやってほしいという要望が高まってくればね、それは無視できない問題ですから、いわゆる例えばそういうふうに、県にそういう呼びかけをするとかね。そういうことは、だから今、県立公文書館についてはですよ、まだ、建設する場所とかそんなんも決まってないそうですよ。ですから、せっかくであればね、そういう問題を、とにかくそのなかななか、地味な仕事ですから、華やかじゃないですからね。それはなかななか取り組むのも大変だと思いますけども、非常に歴史的に次の時代に大事なものだとは私は思います。ですから私たちがこういう発言をしないとね、やはり若い人たちというのはまだ、感覚の違いがあると思います。でも古いものを大事にしとかんとみんな若い人も年とってくるわけですよ。ですからそういう時代のためにもですね、きちんとやっぱり問題は提起しとかんといかんという気がしますので、まあそういうお答えではなかろうかと気がしながらも、あえて申し上げときます。これは絶対に記録に残しとくべきことだというから、あえて私は申し上げているわけでございます。

非常にですね、公文書館の問題は、とにかく今、いろいろ多分インターネットでいろいろ集録してあった。例えばじゃあ、貯金ですらですね、どこからか侵入したんですか、ウイルスによってですよ、なんか何百億とかいうお金ががいつぺんに消えてしまったとかいう、そういうふうな時代ですから、やはりこれは単なるデータとか記録とか、そういうもんでなくて、きちんともので残しておくことが大事じゃなかろうかという気がして、どうしてもありませんので、本当に地味な、極めて地味な質問ですけれども、あえて申し上げておきたいと思います。武雄では、こういう問題についても取り上げて取り組んでいるんだということですね、やっぱり、もうみんなにわかっていただきたいわけですよ。

そして、佐賀県中の方々もですね、すごい方がいっぱいいらっしゃいますから。そういう点について、一つそういう取り方を県として今後、頭に入れといていただきたいと思います。

次に移ります。歴史資料館の問題ですね。図書館・歴史資料館の問題ですけれども、私のところにですね、なんかこういっぱい、難しい問題よくわからんのですけども、いっぱい資料がまいました。これいちいち読むとですね、何時間もかかりそうなものですけども、ちょっと読みきれない問題もございますけれども、千円図書館についてというデータはですね、69 ですね。70 件ぐらいインターネットでこうきたわけですよ。これは何にもその、1,000 円しか値打ちがない図書館という意味じゃなくて、1,000 円は持って行かんと、もったいなくて行けない図書館だぞという表現の意味合いのもので、たくさんあります。お金がかかるということでしょうね、恐らく。

こういう問題についても参りましたし、なんかですよ、やっぱりそれぞれ武雄は注目され

てますので、市長が注目されると同時にですね、武雄の議員の発言もそれぞれの方々、いろいろ注目される方もあると思いますけれども、この中で、いわゆる、いろんなですね、みんな考えて、民意が試されてる、ということでですね、武雄の千円図書館まとめサイトというのが送ってきました。私もどなたから来たのかよくわかりませんが、この中でやっぱりですね、やっぱり子どもたちが、あるいは、しっかり勉強できる環境づくりのために、いろんなことがありますけども、そういう問題いまだにこういう形であるんだということだけはですね、こうも、とりあえず申し上げておきたいと思います。

同時にですね、図書館の問題で1点だけです。もう、私はそう多くを申しませんが、確かにですね、雰囲気もいいし、私も図書館も何回かは行きました。歴史資料館で展示等も拝見してもらいましたけども、本当にですね、蘭学のことはすばらしいと思いますし、また蘭学にとってもですね、いろんなものがいっぱい出てまいります。そういう中でですね、どうしてもやっぱり見ておって、寂しいのはですね、展示する場所が数が多すぎてですね、そして場所が狭いということですね。本当にですね、もっとやっぱり思い切って、まあ強いていえば、市長はあまり、不愉快になられるかわかりませんが、例えば、ビデオの借り場所等をですね、ある一定の時期は返していただいてですね、そしてあるいは、ほかの場所にお金かけてつくられても結構ですよ。つくってその分だけちょっと移して、もともと蘭学館っていうね、蘭学の展覧会するとに蘭学館の看板は、はずされてるわけですから。蘭学館という、蘭学館の中でですね、例えば大砲も、あるいは、とにかくそういう、日本の夜明けをつくった、武雄の文化、歴史、そういうものをですね、きちんとこう展示することによって、あれだけの人間がですね、武雄市図書館にお見えになるんですから、世界中の人が注目する図書館であれば、なおのこと、世界中の人に注目される歴史資料の展示場があってもいいんじゃないだろうかという気がしてなりませんので、もう多分お答えを、気にしながらあえて質問をいたします。どうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まだ、指定管理者先のCCCとすり合わせているわけでもなんでもないんで、これは私の私見として申し上げたいと思うんですけれども、やっぱり図書館というのは、止まったらだめだと思うんですよ。やっぱり人間と一緒に、成長する図書館で。それもその時々、やっぱり市民の皆様方、あるいは来館者の方々、ツイッターで騒いでいる人は、こんな無視していいと思うんですよ。ですので、実際お越しの皆さん達がね、ここはこうしたほうがいいよねというのがあればね、それは、まあ財源にも相談しなきゃいけないし、議会にも当然のことながら相談しなきゃいけないんですけど、それは、変えていく必要があるだろうと思っております。

私は何も今、旧蘭学館で今、CDとDVDがあるじゃないですか。まあ7万点ぐらいあるんですけど、それはそのままでいいと思っではないんですね。ですので、今要望が多いのは、あそこで例えば、私いくつか聞いているのは、キッズスペースがお母さんたちからほしいよねといったこと。あるいは、どうしても今、蘭学展をやっておりますけれども、そうすると、メディアホールが使えなくなっていますので、なかなか、例えば講演とか集会が今しにくくなっています。文化的な。だからそういう場にしてほしいなっていう意見とか、まあいくつかきてますので、それにやっぱり応ずる必要はあるだろうと思っていますので、昔の蘭学のままに、つくったら終わりではなくて、やっぱり市民の皆さんたちの意見を快く聞いて、どんどんやっぱり変えていくと、修正していくということが私は大切だと思っていますし、これもやっぱり議会とよく相談をしたいと思っています。そして、私どもの考えを指定管理者のCCCともよくすり合わせをして、市民目線に立った図書館にさらにしていきたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

24番 谷口議員

○24番（谷口攝久君）〔登壇〕

今、市長のおっしゃることはよくわかります。ただね、結局そういう問題の中でも、いくつか問題点があるような気がいたしました。私は、例えばあそこでお茶も飲みますし、コーヒーも飲みました。それはそれで快適な環境です。ただ問題はですね、ちょっと気になったのはですよ、読書を私たちは、どうも、音楽を聴きながら読書をしていた習慣がないものですから、非常に無粋で申し訳ないけれども、音楽が、何もその、どこが図書館向きの音楽を編集して、あるいは流してあるのか、ようわからんのですけれどもね。コーヒーを飲みながらまではいいですよ。本を読む、まあ本を汚さなきゃいいわけですから。それはいいです。音楽を聴きながらコーヒーを飲む。それもいいわけですよ。音楽を聴きながら、コーヒーを飲んで、本を読むてなると、ちょっと問題があるような気がするわけですよ。て言うのはですね、（発言する者あり）なんか、そうか、叫ぶ者ありですね、わかりました。じゃあ、そういうことがですね、その私が申し上げているのはですよ、結局ですね、いわゆる、読者は静かに読みたい人もいらっしゃるわけですよ。ですからね、やはり、そこらの音楽を、いわゆるスターバックスですか。その、喫茶部門にですよ、音楽のことをお任せしないで、これはやはり、本を読む人たちを中心に考えていただいてですね、コーヒー飲みたい人は、それは行ってもらって、せっかくできたおいしいコーヒーですから。私も飲みましたけども、いいんですけども、四六時中音楽を流すということについてはですね、私はそこまでですよ、そのいわゆる、委託事業というのは、音楽のことまで、やっぱり委託しているわけですか。実際上ですよ、問題になっているのは、本当のすばらしい読書の環境をつくるのが大事ですけども、そういうことが気になりますが、その点はどうですか。これは、教育長ですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

指定管理者の実務の最高責任は私でありますので、まあ指定管理者のその施設を管理するのは、所管は教育委員会ですけれども、これ議会で説明するのは、これ大部分は私の役割だと思っていますので、その観点で御説明しますとね、全館で、別に音楽、全部かけているわけじゃないんですよ。例えば奥の読書室、あるいは2階のね、学習室については、音楽が聞こえない構造にしています。特には2階は100%聞こえない。1階の奥のところも100%聞こえない。というふうになっていますので、スターバックスの席の部分であるとか、あるいはちょっと奥の部分少し、奥っていうか、入ってから、子育てのスペースですよ。そのちょっと手前まで音楽が聞こえるというふうになっている。

これは、今度5月に出す本にちゃんと書き込みますけれど、なんでこれをしたかという、2年前の5月の集会のときにね、これからこういう図書館にしたいということを申し上げて、まあ、2時間ぐらい終わった後に、主婦の方が私のところに寄ってこられたんですね。そのときに、今の図書館だと子どもを連れて行けませんっていうことだったんですよ。それ、なぜかというと、やっぱり泣いたりしたときにね、非常に来館者のほかの方々に、なんかこう、ストレスが、自分自身がかかるといって、やっぱり子どもがさらにその環境になると、もうやっぱり子ども、よくわかるんですよ。もう二度と図書館に行きたくないというので、市長さんできれば子どもがいるところは、少なくとも音楽をかけてほしいっていうこと。しかも、大人も親しめる音楽をしてほしい。そうすると、わめいたりしてもね、音楽が緩衝材になるというような言い方をされたんですね。かつ、今御覧になってわかるように、図書館でいろんな打ち合わせもされていて、あとお母さんたちが、女子会を図書館の中で、こうされたりとかね、していて。僕はこれ図書館の本来にあるべき姿の一つだと思っているんです。もちろん、本を静かに読まれるっていうニーズについては、先ほど申した通り、それは場所を変えればいいだけの話であって、それはやっぱりさまざまな方々に、全部じゃないにしても、きちんとニーズに応えるっていうのが、樋渡市政の根幹でありますので、そこはぜひ、今度席をずらしていただいて、本をね、読んでいただければありがたいと思います。全部自分と同じというふうに思わないほうがいいと思います。もちろん、その音楽があって、よかったっていう方々もいらっしゃるね、あなたのように、音楽がないほうがいいという方もいらっしゃいますので、それはそれぞれの場所がありますので、それぞれの場所で、自分のその欲求を満たすっていうことが、今の図書館だったらあり得ると思っています。昔の図書館は一律でした。音楽もかかっていないし。だから今は多様性です。やっぱり一番公共施設でも重要なのは多様性であります。ですので、その多様性に応じて、まだまだ課題があることは百も承知していますけど、我々はそういった図書館サービスを行う必要があるだろうと

ということでCCCに対しては、そういった市民の切実な声を踏まえて、私のほうから、準備期間のときにCCCに対してお願いをしたということが経緯でございます。

○議長（杉原豊喜君）

24番 谷口議員

○24番（谷口攝久君）〔登壇〕

まあ、多様性の問題は結構ですけども、私はですね、自分で音楽聴くの嫌だからということをお願いしてるわけやないんですよ。（発言するものあり）そういう要望、そういう気持ち、それが利用する方々の、市民の声として、何人もからお聞きしたから、あえて問題点として提出しているわけです。私は意外と環境人間ですから、対応をしますよ、いろんなことで。音楽鳴りながら、本読まにゃいかんなら、そういう読み方も方法としてはありますよ。ただ、音楽の種類とか、程度とかいろいろありますからね。そこはあえて申し上げませんが、そういう問題があることだけは、きちんと申し上げておきたいと思います。

次に参りますけども、実はですね、現在、私図書館に何回か行ってみまして感じたのはですね、こんなこといいだろうかって思って心配したんですよ。ていうのは、やはりそういう歴史上の、整理とかなんとかはですね、通路であってましたもんね。物品を開いて運搬する通路で、そういう分類資材を。結局はですよ、メディアホールというか、そういうふうな、いろんな準備する部屋も少なくなっているから、どうしてもそうなるんでしょうけどもね。実際ですね、その古文書にしてもいろんな資料にしてもですね、それを物を運搬する通路まではみ出さなきゃいかんようなことではですよ、本当に貴重な本をですね、預けるとかいうことができなくなるんじゃないかなろうかという気も一面いたしました。

それは私のいわば、なんていいますか、杞憂であればね、それはいいんです。しょうがないでしょうけども、そういう問題点もあるということは、要するにスペースが足りないんじゃないかなろうかという気は私はいたしました。

図書館が今非常にみんなに評価をされていることを、全てを否定するわけではないんですよ。それはそれとして評価をしながらも、もっとよくするためにはですね、いろんな方法を考えていくべきではなかろうかという気がしました。特に蘭学館の収蔵品の問題でもですよ、あるいは、大砲にしてもなんにしても、常設の展示ができればですね。そして、またメディアホールが極端に、もう一つなければということもおかしいですけども、なんかこう、方法があればですね、その解決する問題でなかろうかという気も一面いたします。

同時に最近ではですね、メディアホールの入り口のほうで、水飲み場がありますね。そういう水飲み場についてもですよ、例えば、いつかも指摘しましたように、ただ、子どもがですよ、ぶら下がりて水を飲まにゃいかんような状況じゃなくてですね、せっかくならひとつ、子ども達もコップで飲めるようにしてあげるとかね、そういう心の気配りをしたらね、環境も子どもたちにとっては必要じゃないかというふうな気も一面いたしました。しかし、予算

の関係とか、いろんなね、運営上の問題で、いろいろこう考え方あるでしょうけども、あえて指摘だけはいたしておきたいと思います。同時にですね、実は、5時になると、みんな子どもたちとしては帰してほしいということではいかがですかという話もしておりましたが、ちゃんと、もう5時になりましたと。だから、1人で来てる人はお家に帰るようにしてくださいとかね。丁寧な放送があっておりまして、一安心をいたしました。やはり今からですね、夏になりますと、今はまだ暗くなりますから、つい5時になったのを、音楽聞いても聞かなくてもそういう感じでなりますけども、今からは明るくなりますと、どうしても夜遅くなったりしますので、子どもの非行の問題とか、あるいは非行よりもですね、事故に巻き込まれないようにするためには、やはりそういうふうな、閉館時間等については、まあ、図書館が配慮してですね、丁寧に放送してもらってますので、安心をいたしました。そういうものを含めてですね、いくつかの問題が、せっかくすばらしいものであれば、それをみんな生かすために、そしてまたよりよくするために、努力するのが私たちの仕事だろうという気がしますので、あえて、今までものをいくつか指摘したわけでございます。

次に空き家対策について、移りたいと思います。先ほどですね、松尾議員さんからもいろんな御指摘あっておりましたが、実はですね、冒頭申し上げましたように、実は町の真ん中でもですね、限界集落みたいになってですね。そしてですね、実は、もう本当に、亡くなってからあとでわかったという孤独死というのが2件も続いて起こりました。本当にですね、だんだんだんだん、町なかでそういう状況の中になっているのを考えましたときにですね、本当にもう限界集落というものは、単に農村とか、あるいは山村だけじゃなくですよ、町の中まできてると。先ほど松尾議員さん御指摘になりましたけども。そういうふうなことを、実感として私達も感じております。

地域のコミュニケーションといいますか、本当に隣近所、いろいろ声をかけあってですよ、そういうことがないように、みんなそれぞれ努力してもらっておりますけども、やはりですね、独り暮らしのところには手が届かない。特にですね、女性の方の独り暮らしのところにはですね、なかなかこう、声をかけにくいという点もございまして、結局続いて、2つほどですね、そういうことが起こりました。それぞれ地域同士でも、やっぱり新聞が2日も入らなかったとかですね。新聞取ってなかったとか、新聞とか牛乳取ってるところはすぐわかりますけども、そういうふうな問題でですね。非常に町側からもそういう危惧はあります。同時に町の中の活性化の問題が出てまいります。実はですよ、例えば、武雄の中心街での温泉通りはですよ、本当に温泉も、ああいう照明でもきれいになりましたし、すばらしいのでいろんな方が写真を撮りに来たりして、いろんな方がですね、温泉通りも夜遅くまで賑わっていますけども、一面ですね、やっぱり中心の市街地の中では、町の中がですね、だんだんだんだん、寂れてきてます、事実上ですね。いろんな行事が成り立たないようになっている、そういう状況があります。結局ですね、それはどういうことかということ、結局それは、いわゆ

る市街地の再活性といますか、例えば、こども議会でもこういうことが質問の中にあつておりましたね。昔のように、恐らく自分の親、お父さん、お母さんから聞いたんでしょう。あの温泉通りは、昔は中心のところは賑やかで、みんなお祭りのときになるともっとお小遣いもらって行ってたつていう雰囲気の中を、状況を知っているんでしょうけども。こども議会でもですね、いわゆるそういう市街地の活性化の問題を取り上げて、子どもがいました。これは発言を正確にせんといかんもんですから、こども議会の議事録をですね、教育委員会にお願いしましたけども、先般の議会では議事録がないということでしたので、その議事録に類似するものですね、私は貸してもらいました。この手元に今持ってませんけども。その中にあったのはですね、例えば子どもたちは、中心市街地ですか、そういうふうな地域の活性化のほうについてどう考えていらっしゃるでしょうか、ということを、多分、こども議会、市長も記憶あられると思います。あつたときに、市長のお答えはですね、図書館のほうで、というふうな表現をされたために、子どもががっかりしとつた、というふうな話をですね記録の中でありました。今手元に……（発言する者あり）ないですか。（発言する者あり）いや、議事録があればねそれで私はお聞きしたいと思ったんですよ。（発言する者あり）まあ質問の仕方がどうなのかは別ですけども。（発言する者あり）そういうことがあつたもんですから。（発言する者あり）私有地、市街地の活性化の問題についてですよ、どういうふうにお考えかですね。再活性化についての、まあひとつ。いや、市長が答えられなければ、ほかの担当の所管課でいいですけども、お答えいただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

あなたの御質問にがっかりしました。

がっかりしたのも、今立ち直りましたので。やっぱりですね、再活性化というのは、再というのはやっぱり難しいんですよ。人間の体もそうだと思うんです。黒岩幸生議員さんが、きょうなかなか自分はもう 65 をね、超して、したときも、もう若い人に道を譲りたいということをこうおっしゃって、まあ私はね、年齢云々ということじゃなくて、それはやる気とかいろんな問題だと思うんですけども、確かに黒岩幸生議員さんの御質問を踏まえて、そこはそうだなあつていうことを思ったんですね。だから、その人間の体も同じなんですけど、恐らく新陳代謝っていうのがこうある。活性化と、再活性化って考えたときに再のほうが、はるかに難しいっていうのは、それは、私ももう 40 半ばにきてますので、もう 20 のときとかやっぱり十代のときとはもう全然違うわけですよ。だから、そこのアプローチというか、プロセスをやっぱりきちんと考える必要があるだろうと思っていて、このときに、やっぱり考えなきゃいけないのは、今武雄市っていうのは、山内町、北方町と一緒にあって武雄市と、まあ旧武雄市ですね、なってますので、じゃあその開発の場所を、本当に今までの例えば武

雄温泉通りだったら温泉通り——私も活性化すればいいと思ってますよ。だけど、やっぱり市民合意でね、やっぱりここをしていこうよということの議論が私はあるんだろうなというふうに思うんです。ですので、やっぱり私は周辺部を、自分がまあ周辺部出身というのもあるかもしれませんが、いわゆる周辺部に、やっぱりきちんと均衡ある発展をしないと、これからの武雄市はもう存在しないというふうにも思っていますので、そういう観点っていうのはあると思うんです。

それと、今まで旧武雄市は、大幅な借金に借金に借金を重ねてきてね、私が市長に就任をしたときに、本当に北方町と山内町に助けられたっていう側面がやっぱりあるんですよ。で、そういった中で、やっぱり今までの旧武雄市というのは、もう、あれかこれかじゃなくて、あれもこれもやってるんですね。あれもこれもって、やっている。じゃないとね、宮本栄八議員さんね、あんな借金積み増せませんよ、はい。水道料金を高止まりしたまんまにね、あれだけ借金を重ねるっちゅうのはこれはすごいことだなと思うんです。ですので、そこはやっぱり私は、山内町、北方町の今までのそのね、やり方を真摯に、合併したんで学ぶべきだというふうにもう思っているんです。それとともに、どこをどういうふうに開発していくか、あるいは再開発していくかっていうことを議論するのが、ここの僕は議会だと思っています。ですので私は、子どもたちにその図書館のことを申し上げたのは、やっぱりですね、あれもこれもというのは、もう無理なんですよ。あれかこれかってしたときに、せっかく図書館に力を入れるのであれば、あそこは武雄神社があります、武雄の大楠があります、御船山梅林もあります。まあ、ゆめタウンっていうすばらしい商業スペースがあって、競輪場もあります。そうしたときに、今図書館に力を入れるとするならば、あわせて力を入れたほうが、私は武雄市全体の市民価値が向上するという思いで申し上げたということであります。これが大衆迎合のね、政治家と市長だったら、いやあ、子どもたちにね、いいこと言うねって、うん、まあ頑張ろうねっていうことを言ったと思いますよ。だけど私はね、政治ってそんな甘い問題じゃないんです。社会に出たらもっと厳しいです。ですので、私は自分の考えを申し述べたにすぎません。それでがっかりされたっていうことについてはね、私もその後、子どもたちと話しましたが、市長はあいすねって、普通の大人と違うですねって言ったんですね。はい、言いますよそら。ですので、私はそれで、その子どもたちに認められたと思うんで、あんまり一方的に子どもたちがかわいそうだとかなんとかってね、言うこと自体、思うのが、僕はかわいそうだというふうに思ってますし、もちろん、はい、大丈夫です、それは全然期待してませんので。私自身としては、何というんですかね、子どもたちのまちづくりに対する考え方は十分に生かしていきたいと思う一方で、その場所をどうこうするかっていうことについてはね、それは、先ほど申したとおり、議会、そして、市民の皆さんたちでやっぱり話し合う必要があるだろうと。あれもこれもじゃなくて、もうあれかこれかの時代がもう今真ただ中だというように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

24 番 谷口議員

○24 番（谷口攝久君）〔登壇〕

私もね、あれかこれかじゃなくて、あれもこれとかいうんじゃないくて、どれをどうするかっていう問題に絞ってお話をしてるわけですよ。何でもかんでも総花的にそれをどうこうっていうんでは、まあ、そういう気持ちは毛頭ございません。ただね、子どもたちにそういう発言をされたということは、自分でそういうふうにお感じになってることでありますから、嘘でも何でもないわけです。私が聞いたのは。ですから私、今ここにその部分についてのもので、ちゃんとこう記録があります。これは、教育委員会がですよ、議事録としてつくったんじゃないので、それを聞いて、そういう、その何といいますか、ネットで収録して、それをそのまま打ち出したものをですね、私の手元に届きましたので、あえて、それを私はお聞きしてるわけです。（発言する者あり）失礼なこと言いなさんなよ。（発言する者あり）嘘じゃないですよ。じゃあ、あした私持ってきますよ、この書類を。本当に。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

ちょっとやじの応酬、静かに。

○24 番（谷口攝久君）（続）

失礼なこと言ってんじゃない。

○議長（杉原豊喜君）

やじの応酬はしないでください。

○24 番（谷口攝久君）（続）

いつかもね、失礼なこととして、例えば前に、4本足のニワトリのときもですよ、資料なんかもちょうときちんとお借りしてきたってことをですね、きちんとお示しして話してる。（発言する者あり）わざわざね、相手がわざわざ貸してやってるわけですよ。そういう事をね、わざわざ書類まで見せるまでしてるじゃないですか、あんた。（発言する者あり）そういうことをですよ、私は、もう失礼ですよ。（発言する者あり）でも私はあえてそれ以上のこと言いませんよ。（発言する者あり）まあ、私は嘘は、そういうことでは言いません。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○24 番（谷口攝久君）（続）

なんで本人が承諾、本人が……（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かに、静かに、やじに応酬しないで。（発言する者あり）

○24 番（谷口攝久君）（続）

議長……（発言する者あり）いいですか。私が申し上げているこのことからいきましょう。そういうですね、子どもたちの、だから私は、正確を期すために、子どもの議会の議事録ありますか、こども議会の議事録があったら出してほしいということを申したところ、ないということですから、そんなら、私が持っている資料に基づいて話すしかない、ということをお願いしてるわけですよ。

私はね、少々ですよ、そういうこと必ずあなたはそういう性格だから、おっしゃるだろうと思うからね、ガードを固めて質問をしてるわけですよ。（発言する者あり）また、議会終了、本議会終了までに持ってきますから、議長に提出します。私はですね、そういうふうな嘘の問題で、質問したりすることはしませんよ。非常に不愉快ですね。

次に移りたいと思います。先ほど市長がですね、中心市街地の再活性化についてっていう、私が再をつけたのはですね、一度、活性化の兆しが見えて、また昔の賑わいを取り戻した時期があったんですよ、武雄にも。ですけども、今、少しですね、そういうのが少し停滞していると。だから、もう一度ですね、ひとつみんなでまちづくりがでんかというふうなことです。その問題点を指摘し、意見を聞いているわけですよ。ところが、再とは何かとかね、そういうふうなですね、むしろ謙虚に聞いてですよ、できないならできないでいいわけですよ、あなたの考えですから。私は、あえて聞いているのは、そういうことなんです。

次にですね、私、今、市長、この議会で何回も申されましたけども、住みたい町のですか、第2位になったと。嬉しいことですよ、いいことですね。だから住んでいただくならば、もう本当にですね、もっともっと、そのいわゆる住み続けたいまちづくりにするためにはどうしたらいいかということをお話ししたいと思っておりましたけども、ちょうど私の予定している時間が何分かしかありませんので、これは後ほど、次の議会じゃないですね、今度までですね。まあ、次に再選したらまたやります。

市長の政治姿勢についてはですね、やはりこういう問題についてはですよ、やはりこの議会でもですね、あなたも市民から選ばれた方でしょうけども、少なくとも私たちも痩せても枯れても、年を取っても若くともですね、やはり市民から選ばれて、そのことについて当然問題提起をしていく必要があるということで、あえて申し上げているわけです。

とにかくですね、今から特に高齢者の問題が1点だけありますけども、本当にですね、実は今は高齢者比率からするとといえば、さっきからいろいろ若い人がどうのこうのと話があったりしましたが、それを領いている議員もいらっしゃいましたから、あえて後ろを見て話とるわけですけども。申し上げてますけども、高齢者の比率が高いですから、高齢者の気持ちを言う、申し上げることも必要なんです。ですからあえて私は、高齢者の議員の皆さんの気持ちを代表してですね、あえて申し上げております。そういうことでございます。しかし、一応ですね、必要とする質問についてはこれで終わります。（拍手）（発言する者あり）

次に対する激励の拍手と思って感謝します。ありがとうございました。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

以上で 24 番谷口議員の質問を終了させていただきます。

以上で本日の日程は全て終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。どうもお疲れ様でした。

散 会 15 時 49 分